



音流茶湯流傳集





夫眼とことしつゝのあつる天志(あまのこころ)を  
度(あやま)りしやうと書(か)きおこし人(ひと)を中(な)よせし  
萬(ま)物(もの)は七(なな)情(じやう)の感(か)んを解(と)きしやう  
初(はつ)めは風(かぜ)俗(ぞく)中(ちゆう)はるを属(ぞく)しと説(と)く是(こゝ)に  
既(すで)に事(こと)とすはるは五(ご)性(じやう)の中(ちゆう)に  
四(し)端(たん)を括(くわ)くする如(ごと)く是(こゝ)に  
今(いま)編(へん)系(けい)の流(りゆう)は集(しゆ)はる属(ぞく)の事(こと)は古(こ)人の  
嘉(か)の云(い)ふ名(な)師(し)の辨(べん)論(ろん)を詳(しょう)に述(しゆ)ぶる  
此(こゝ)の卷(まき)と緒(つ)の時(とき)を述(しゆ)ぶるは性(じやう)古(こ)の流(りゆう)を  
究(きう)めしむるハ賤(せん)毛(もう)の理(り)を曉(あ)くして雲(う)を霧(き)と  
混(ま)すく日月(にちげつ)とらる(らる)がこゝに  
豈(あ)らざるや



いしんや干時之派七甲戌中夏并旬

廣長新之序

當流茶之湯流傳集 卷之一 目錄

一 之 大 教 宗 尼 勝 經 法 合 式 正 之 書

因 客 入 上 座 中 尼 之 法 正 之 作 法

因 客 宗 尼 之 法 正 之 作 法

因 客 宗 尼 之 法 正 之 作 法

因 客 宗 尼 之 法 正 之 作 法

因 客 宗 尼 之 法 正 之 作 法

因 客 宗 尼 之 法 正 之 作 法

因 客 宗 尼 之 法 正 之 作 法

因 客 宗 尼 之 法 正 之 作 法

因 客 宗 尼 之 法 正 之 作 法

因 客 宗 尼 之 法 正 之 作 法



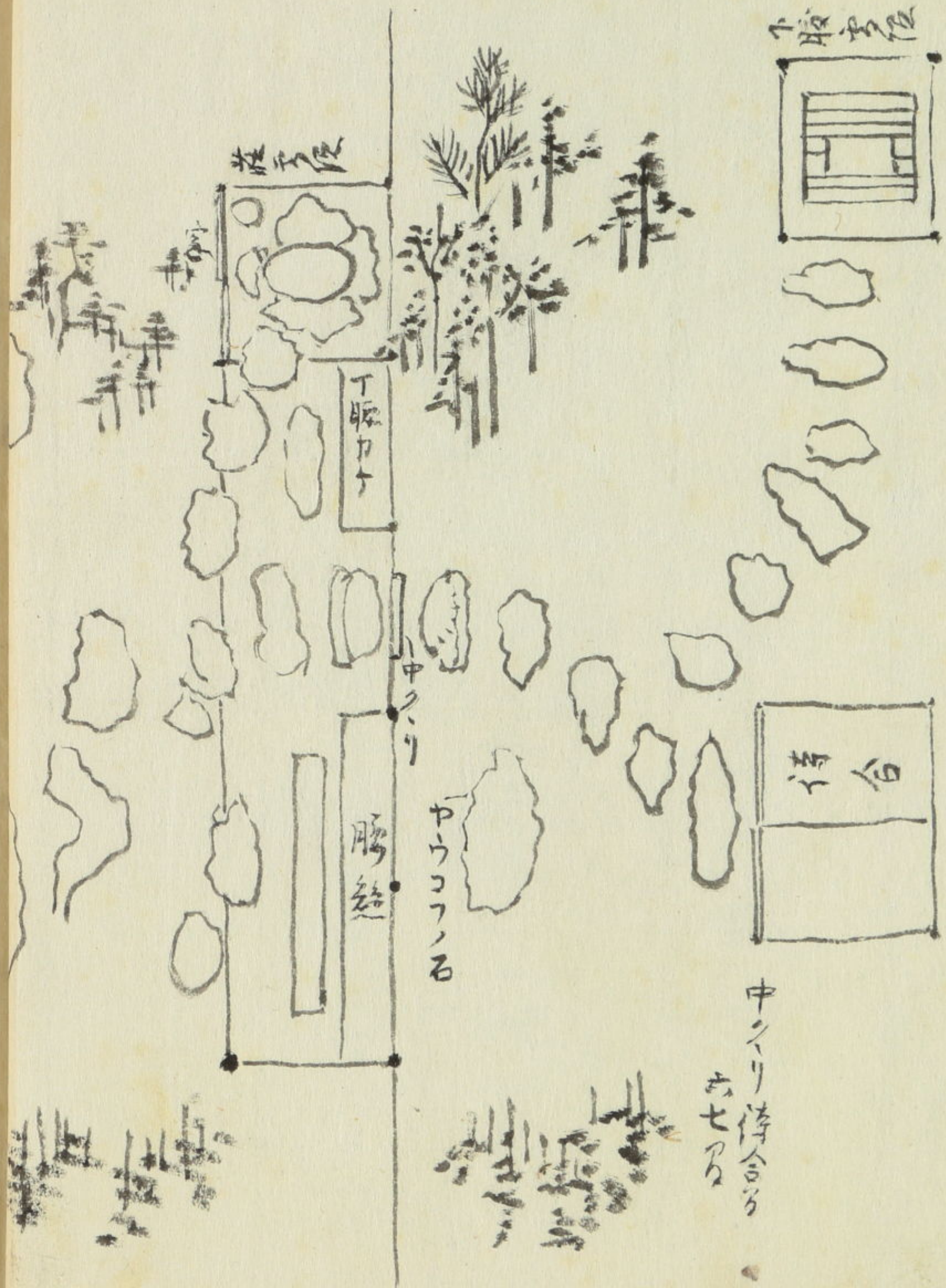
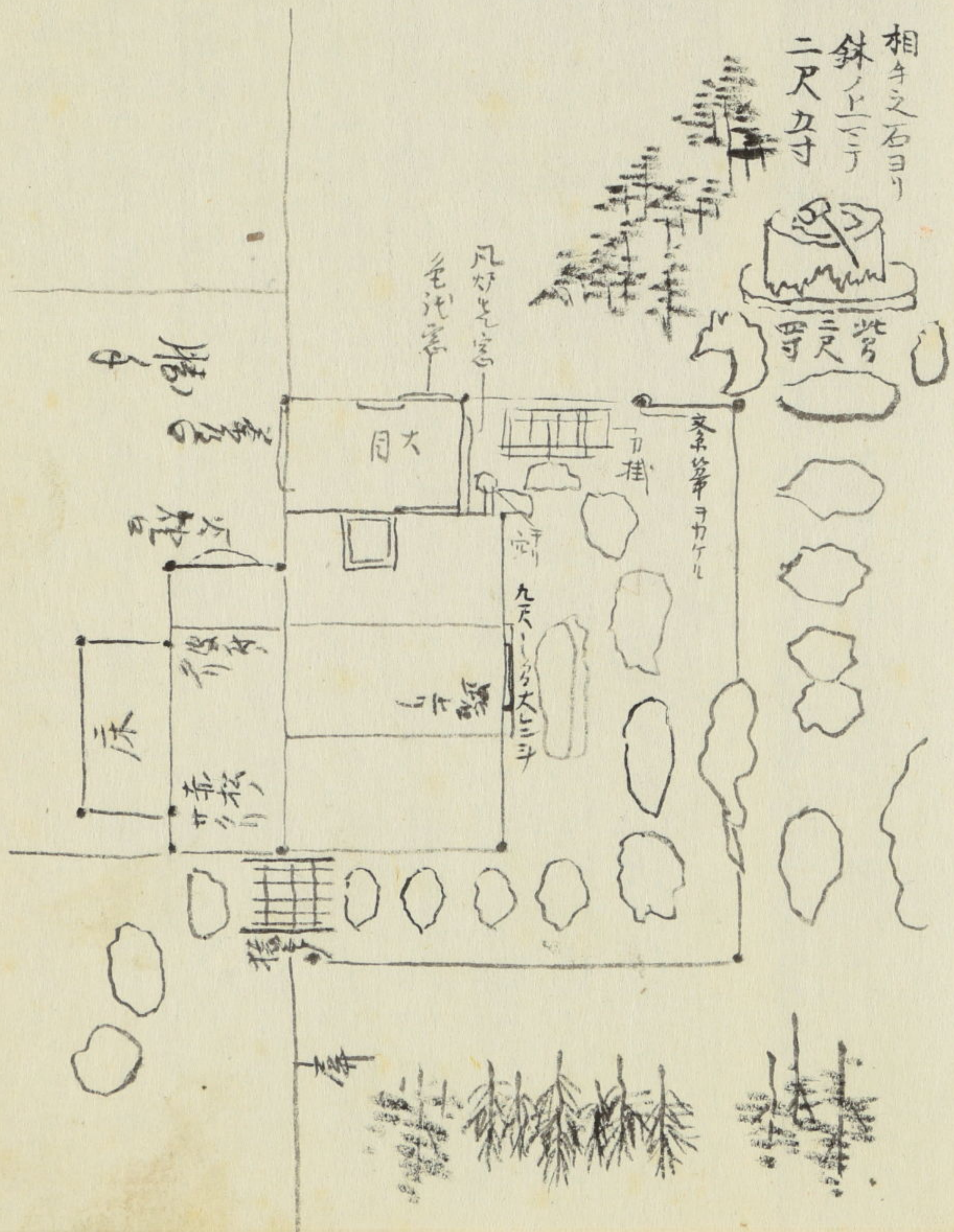
曰家振お娘のちみ身をすゝむる  
曰幸〜もい所のちみあ〜と  
曰家方後入よとせ申をもちて居候〜と  
曰幸〜と違物子踏〜と  
一五〜と違物子角付〜と  
四五〜と白身と〜間大と  
曰家又お娘〜と身をすゝむ〜と  
曰家慈物〜と身が身身のと  
曰月書院釣物〜と身書物書院茶のと  
曰遺物上下の文糸のと

南儀子家の印信何某と〜と

〜と書大親家なむ武正〜と  
一〜と書大ハ古藏と世師也〜と書まハせ〜と〜と書入と  
既〜と〜と書あ〜と書ね〜と書ま〜と〜と書あ〜と  
書よ〜と〜と書あ〜と書あ〜と書あ〜と書あ〜と書あ〜と  
大目と〜と書あ〜と書あ〜と書あ〜と書あ〜と書あ〜と  
五〜と何と書あ〜と書あ〜と書あ〜と書あ〜と書あ〜と  
ハ介と〜と書あ〜と書あ〜と書あ〜と書あ〜と書あ〜と  
高代お娘を團のお郎と〜と書あ〜と書あ〜と書あ〜と書あ〜と

新書な様慈待合と書











入りては、  
因とて、  
一、  
中、  
相、  
わ、  
より、  
上、  
を、  
く、  
へ、  
向、

の、  
一、  
く、  
か、  
一、  
あ、  
踏、  
又、  
な、  
は、  
ま、



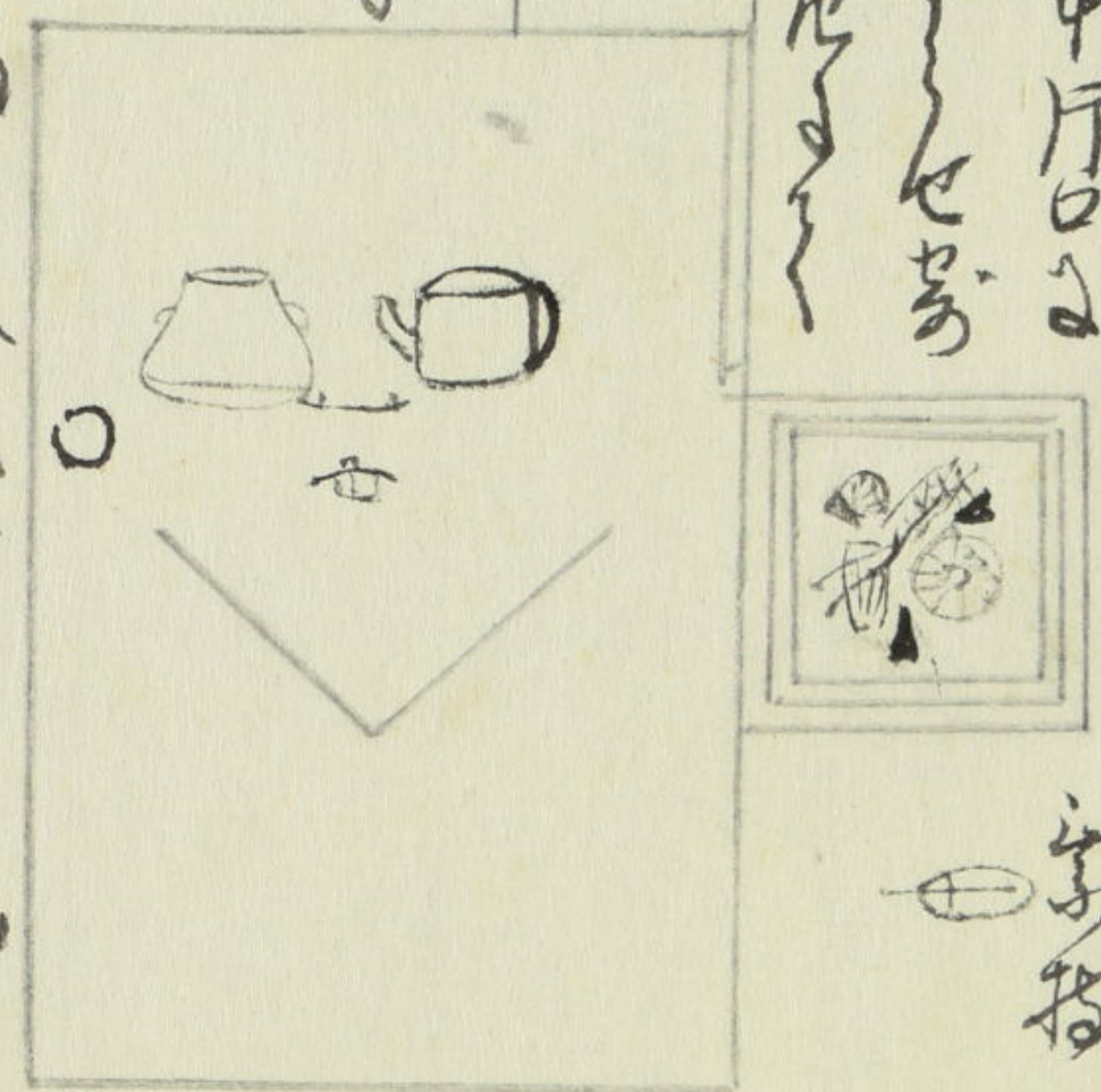




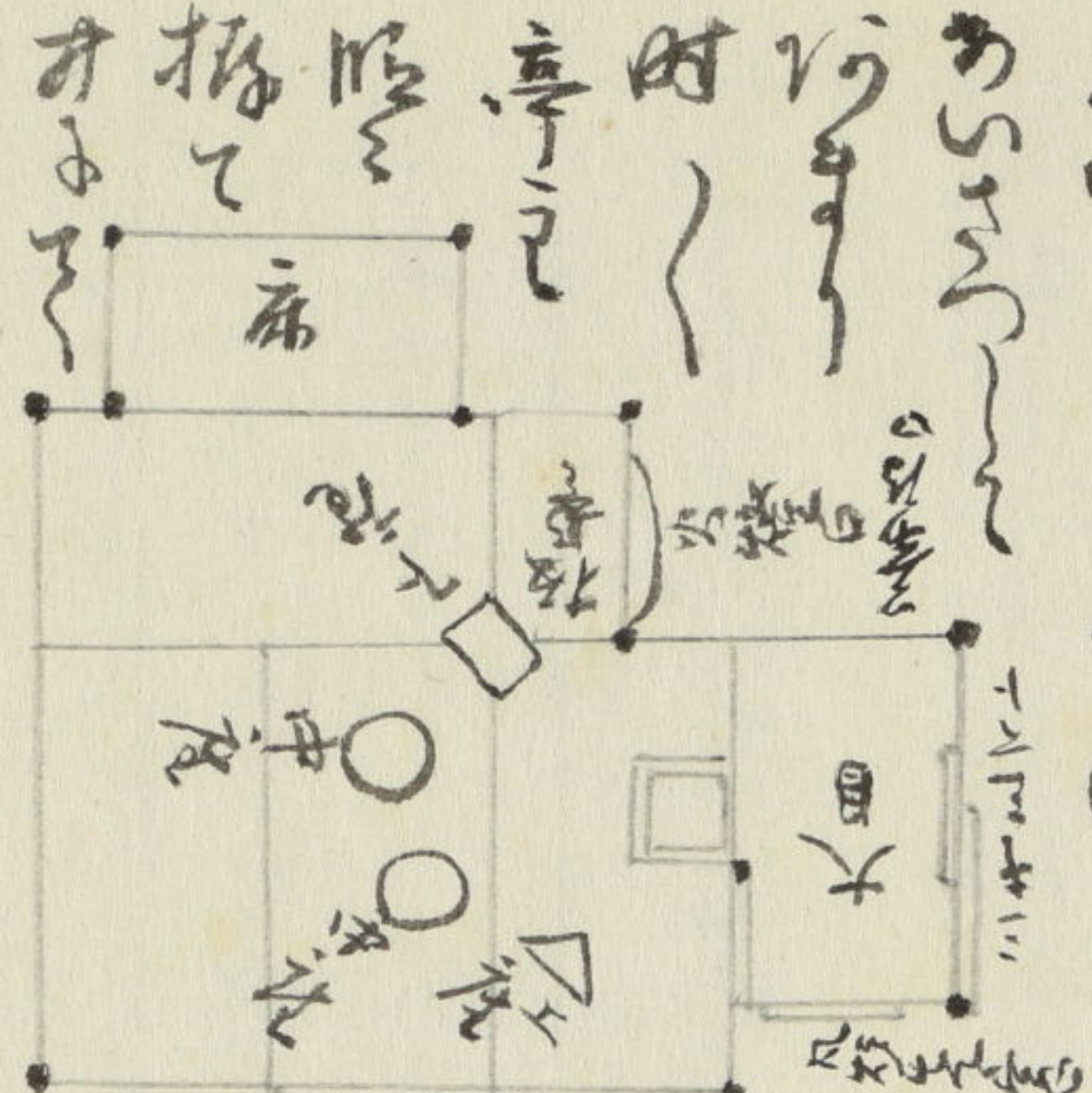




又あつて空のやうゆひの甲行は  
 又あつて空のやうゆひの甲行は  
 又あつて空のやうゆひの甲行は  
 又あつて空のやうゆひの甲行は  
 又あつて空のやうゆひの甲行は  
 又あつて空のやうゆひの甲行は  
 又あつて空のやうゆひの甲行は  
 又あつて空のやうゆひの甲行は



此處に空のやうゆひの甲行は  
 又あつて空のやうゆひの甲行は  
 又あつて空のやうゆひの甲行は  
 又あつて空のやうゆひの甲行は  
 又あつて空のやうゆひの甲行は  
 又あつて空のやうゆひの甲行は  
 又あつて空のやうゆひの甲行は  
 又あつて空のやうゆひの甲行は





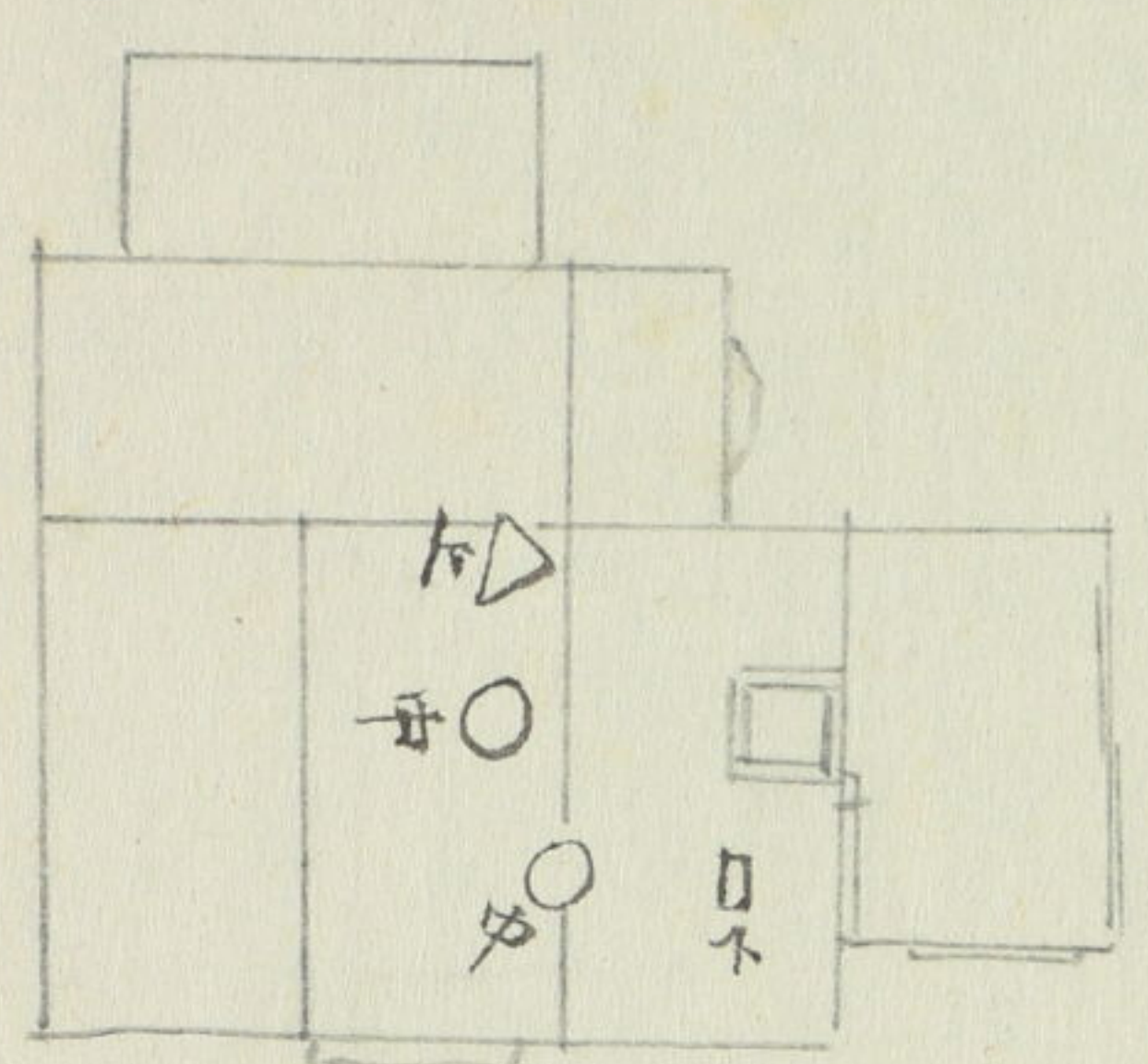








一目一々一相大目へ性たふと下ある水指さ  
 一目と好く金く向ひ窓ありく角ととと置る如  
 居かとの居換り中をり居候るおにやあり

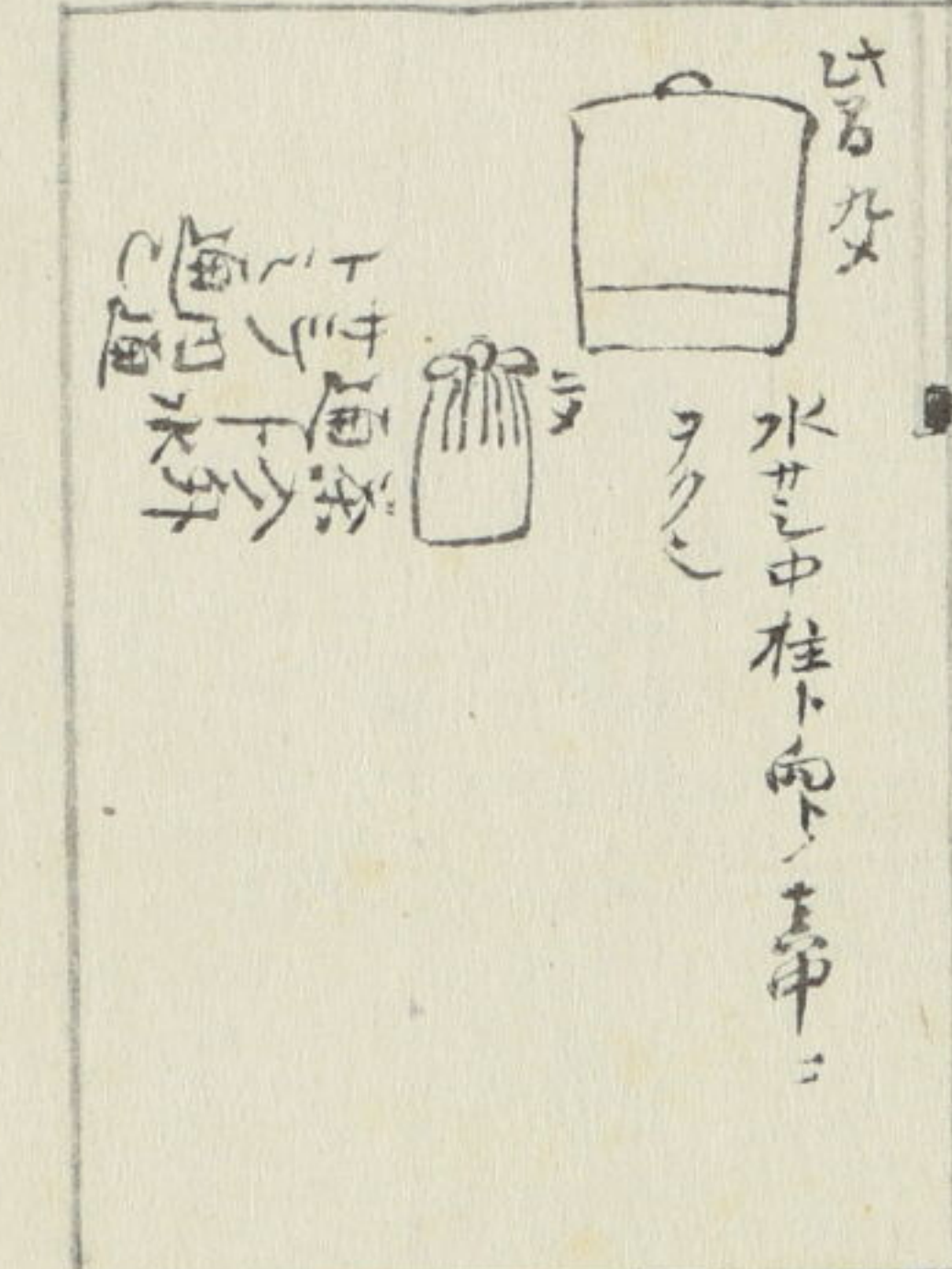


喜うとありありと茶室ありと  
 大相好くしてとてとてとてと  
 あらととととととととととと  
 ととととととととととととと  
 ととととととととととととと

この大相好くしてとてとてと

一茶おれ茶室の如く一在茶碗持出右に茶入  
 持入のけ右とと茶碗  
 小茶茶碗下並居居る

水盃と右入  
 あらととととと  
 如茶居居居居居  
 竹掃取出如  
 茶室相ある



しと右と右竹掃りけ水盃ととと一茶室向ひ  
 ら掃りけととと云ありおまのりととと茶碗取



















撫ふとささくひやくをきく水と一物を入るを  
の縁にけりくく一丸へ流し右に茶をいれ蓋す  
るあちち物移右に竹筒なる物並水指のち  
一向ひたして水指の蓋を移しおとす右に水指  
蓋す其付ありて御茶入にかきくおとす  
すまを自ら中移成茶入に置きたりて辞退  
くいつりひやくを右桶へと竹筒より茶を口  
の戸と咄水盆と外に出し少許を多てよき茶  
入を右に取却一帛を右に取却一帛を右に  
ゆひ帛に緒へ入右にけりておとす中へおとす

りよもと対茶入のすくことん類きりゆき  
縁より流しおとすおとす茶物にすけり帛を右に  
おとすけりすけりゆひくことん右のちちちちと  
我よりすけりおとすけりけりけりけりけり  
すけりおとすおとす茶通口と咄茶碗出し水指  
を水盆のちちちちちちちちちちちちちち  
のちち蓋茶のちち水盆のちちゆひゆひゆひ  
水指と取替ゆひゆひ茶通口の戸とたて茶盆  
一客はゆひゆひの月茶入とすけり水指の蓋すけり  
すけりゆひゆひゆひゆひゆひゆひゆひゆひ  
ゆひゆひゆひゆひゆひゆひゆひゆひゆひ







ま炭の仕扱仕事

一 炭の薪の薪の炭を入音合ふより由りて

お出島の如くを置かれ

上移もかゝるこゝろ一灰と

まらもわらへり

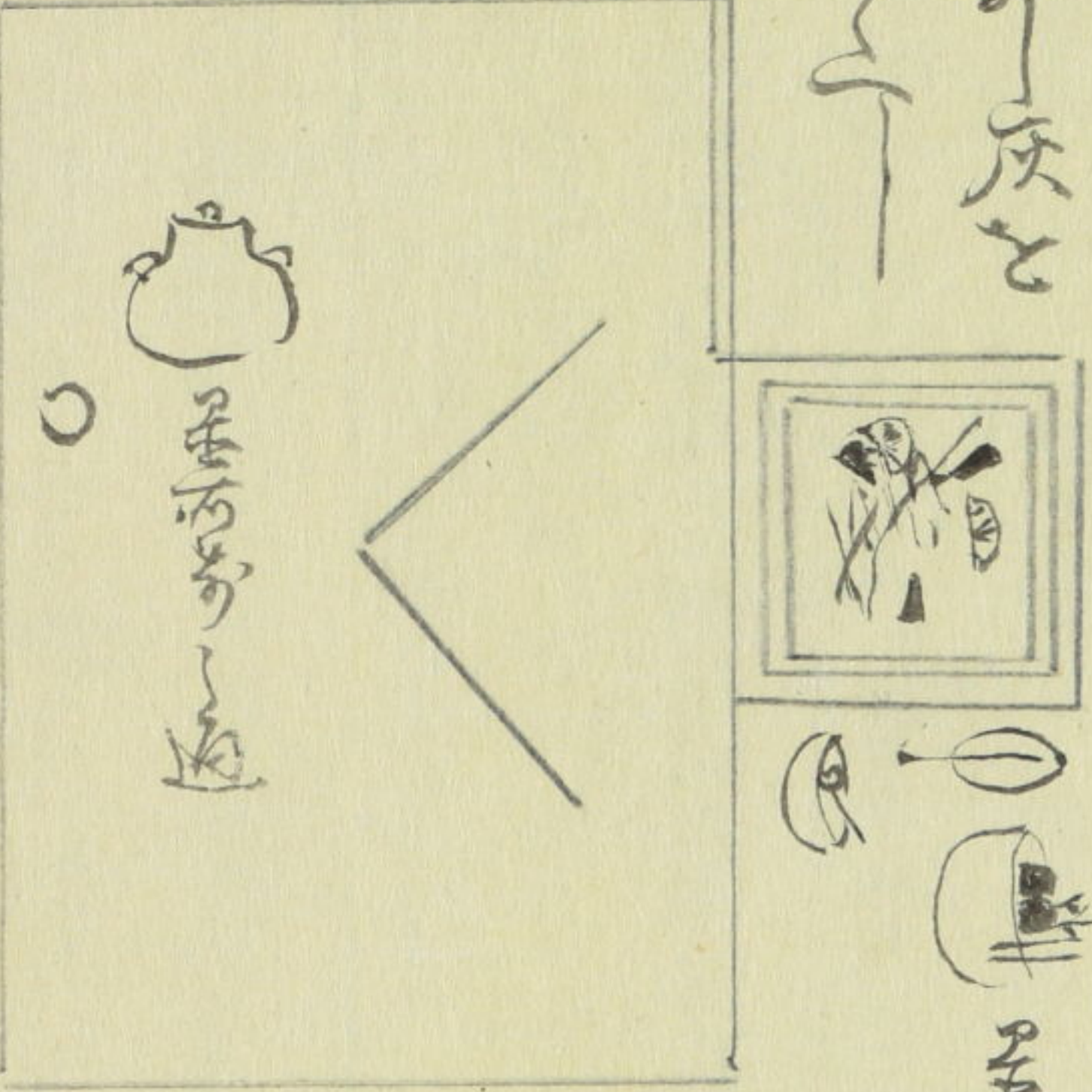
炭のあらまを

糸の結強り

たるお面白炭も

未申のほほは

ととらへりてせしと炭のまらとわらへり



炭のまらとわらへりてせしと炭のまらとわらへり

まらとわらへりてせしと炭のまらとわらへり

物多のまらとわらへり

するこま炭

あらまは炭

ゆむりて

あらまは炭

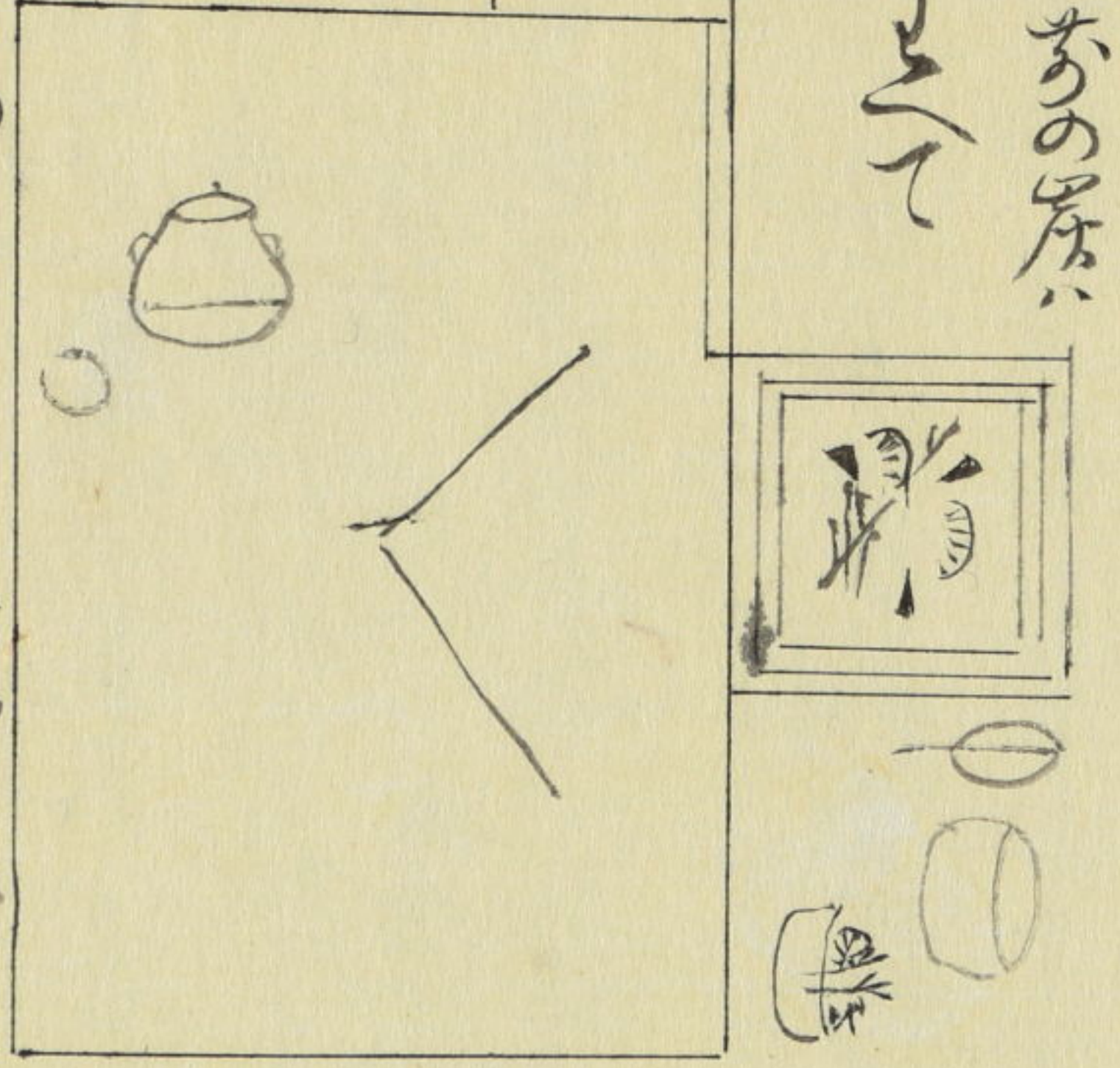
あらまは炭

あらまは炭

あらまは炭

あらまは炭

あらまは炭



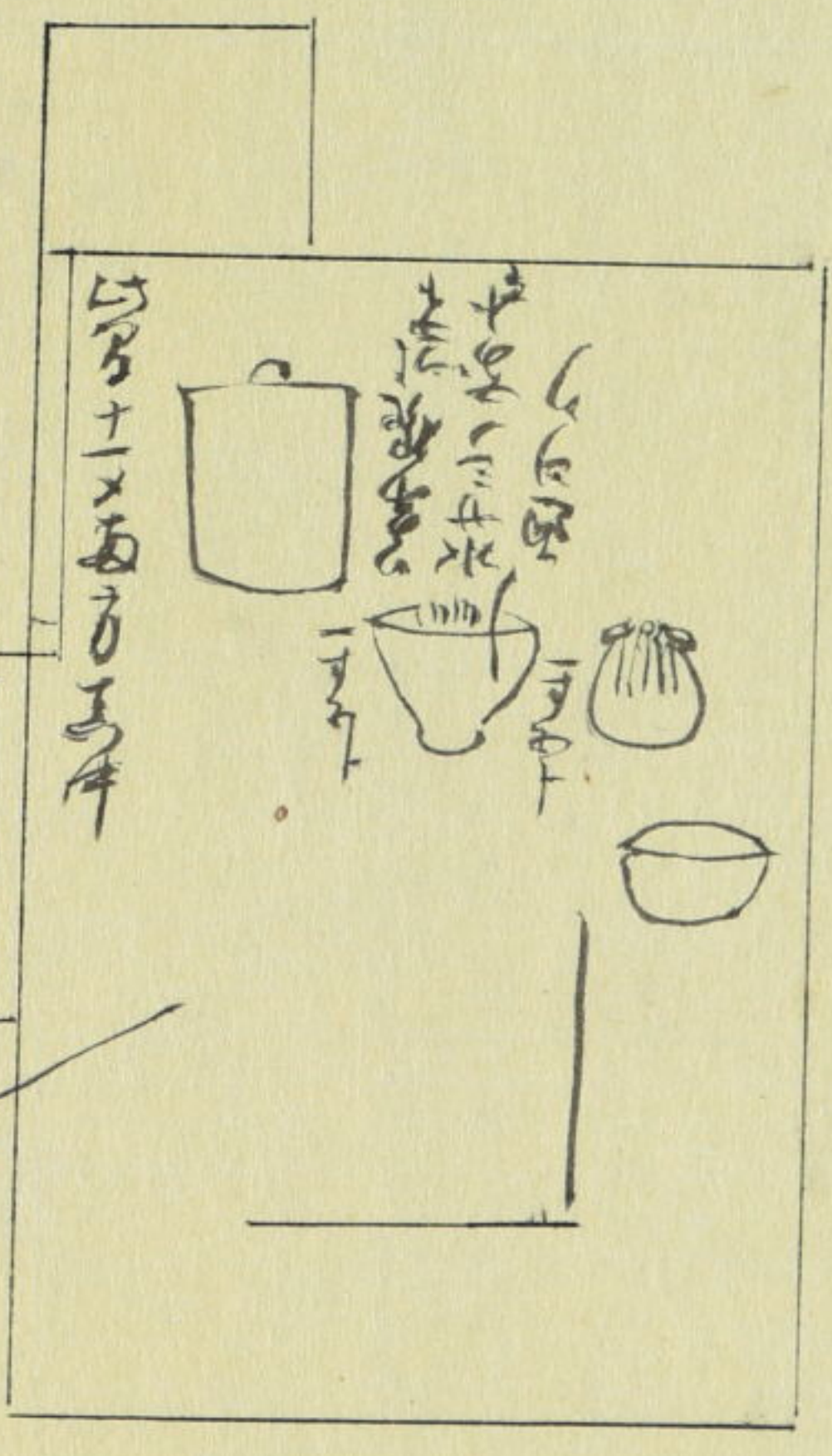
あらまは炭







水筒の蓋とるべく水と一きり釜へ入し物投て湯をくする長ハ湯のあつきゆあり

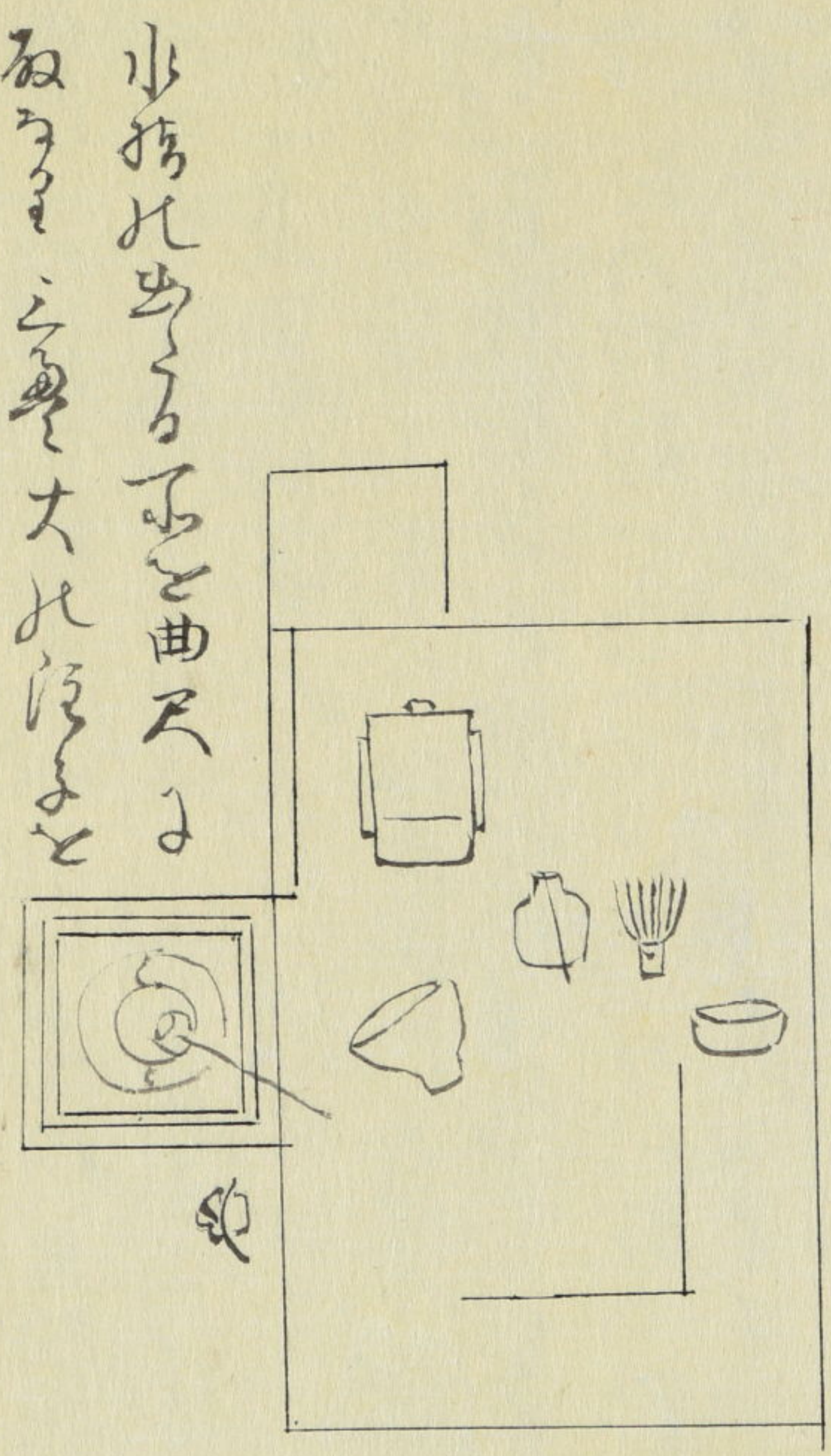


二きり大逆膳

一 小水筒と云ハ朋の細き

水筒の蓋也二きり大ハ茶入茶登 脇ハ釜ニ  
添く大小の水筒ハ廣セハも順逆の膳

たは心もぬきあて向ハ舟箱の蓋舟通と蓋板  
その方大ハ九メ小ハ十一メと蓋又ハ曲尺をる



水筒れあつる下と曲尺ハ  
取らるる二きり大ハ流しと  
揃くあり四ハ根ハ古織云の二きりハ舟箱  
の外ハ出ハ舟箱更ハ流しハ二きりハ舟箱

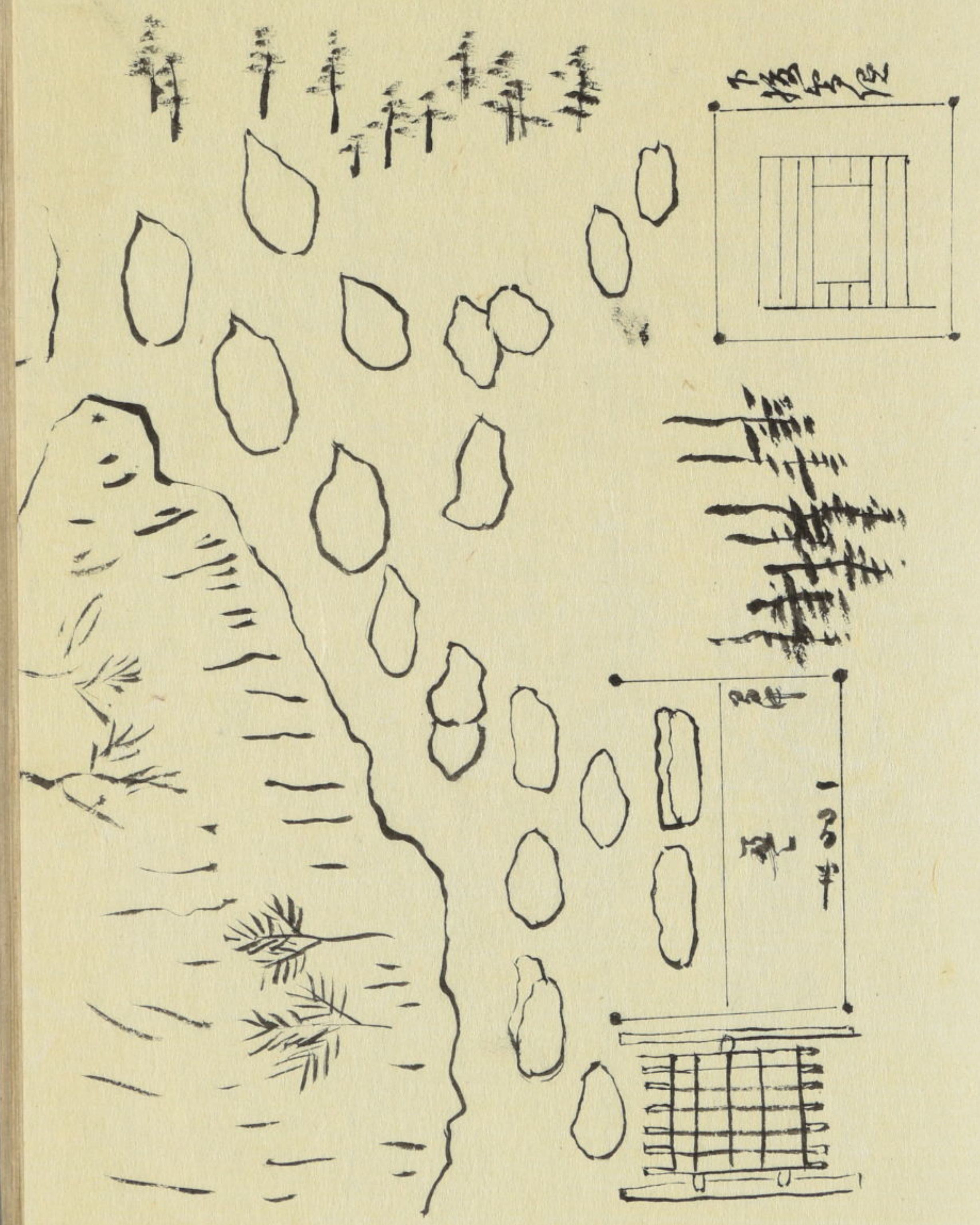


形と用入振入ありと記と知く

一 けちおお懸預おの順猪子よりのりるるかー 物抄  
の及よ何時も違へぬへー 注は物抄と名の介(川  
と水指の蓋とともふつうゆりぬあり)

一 ちりちり切道猪子の 大造

一 ちりちり千宗易利体居屋の作とせ入つきり  
云うけ切預の事平と古ハ一ちりちりちりちりちり  
申(好の切預の古を用ひとちりちりちりちりちり  
けちおお懸預おの順猪子よりのりるるかー 注は物抄と名の介(川  
と水指の蓋とともふつうゆりぬあり)





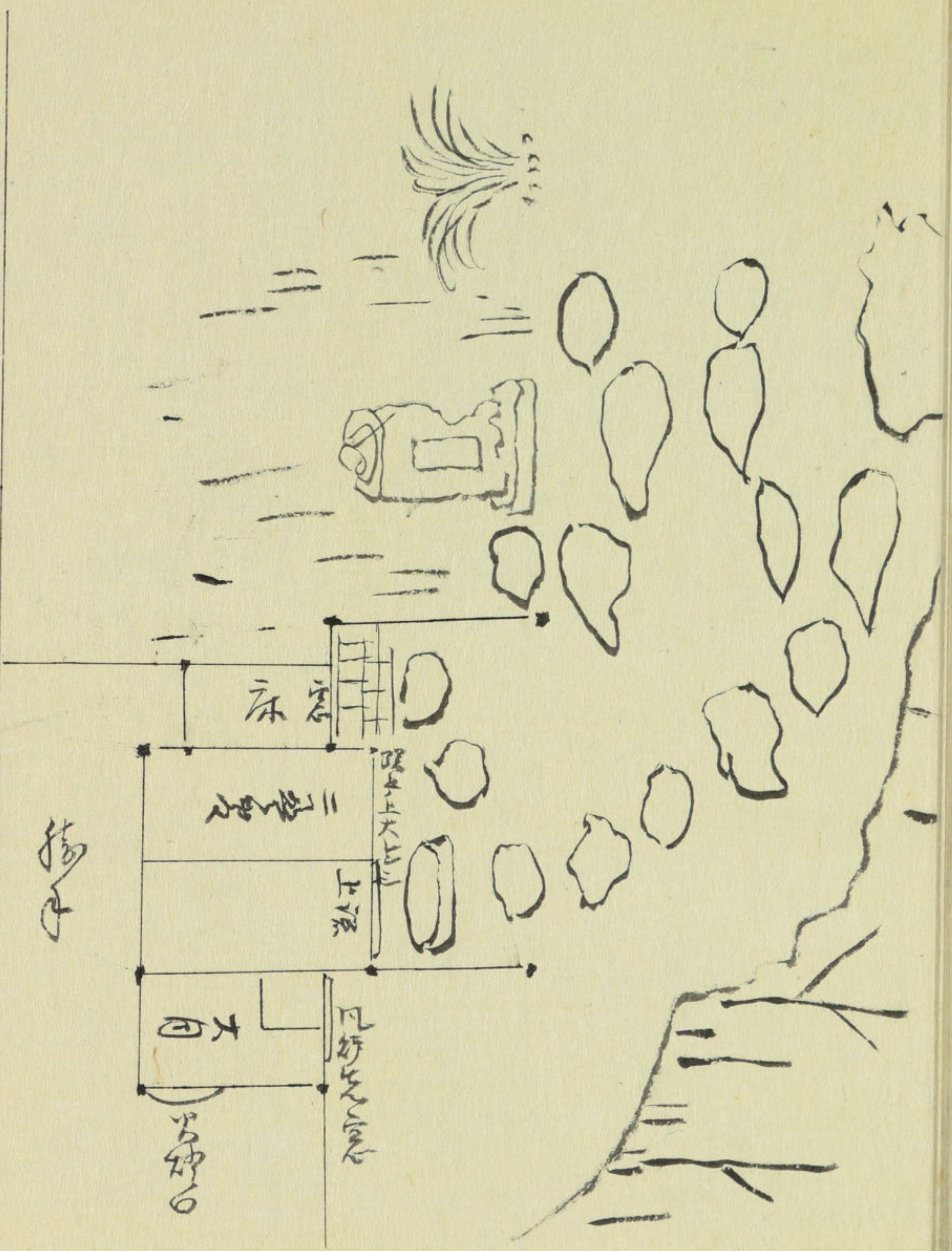
客振此次第

一 着る亭より方々書物来る。

来りし亭より物々来るを亭に寄る  
 の来りし亭より物々来るを亭に寄る

亭の亭より物々来るを亭に寄る  
 の来りし亭より物々来るを亭に寄る  
 の来りし亭より物々来るを亭に寄る  
 の来りし亭より物々来るを亭に寄る

一 亭より物々来るを亭に寄る  
 の来りし亭より物々来るを亭に寄る

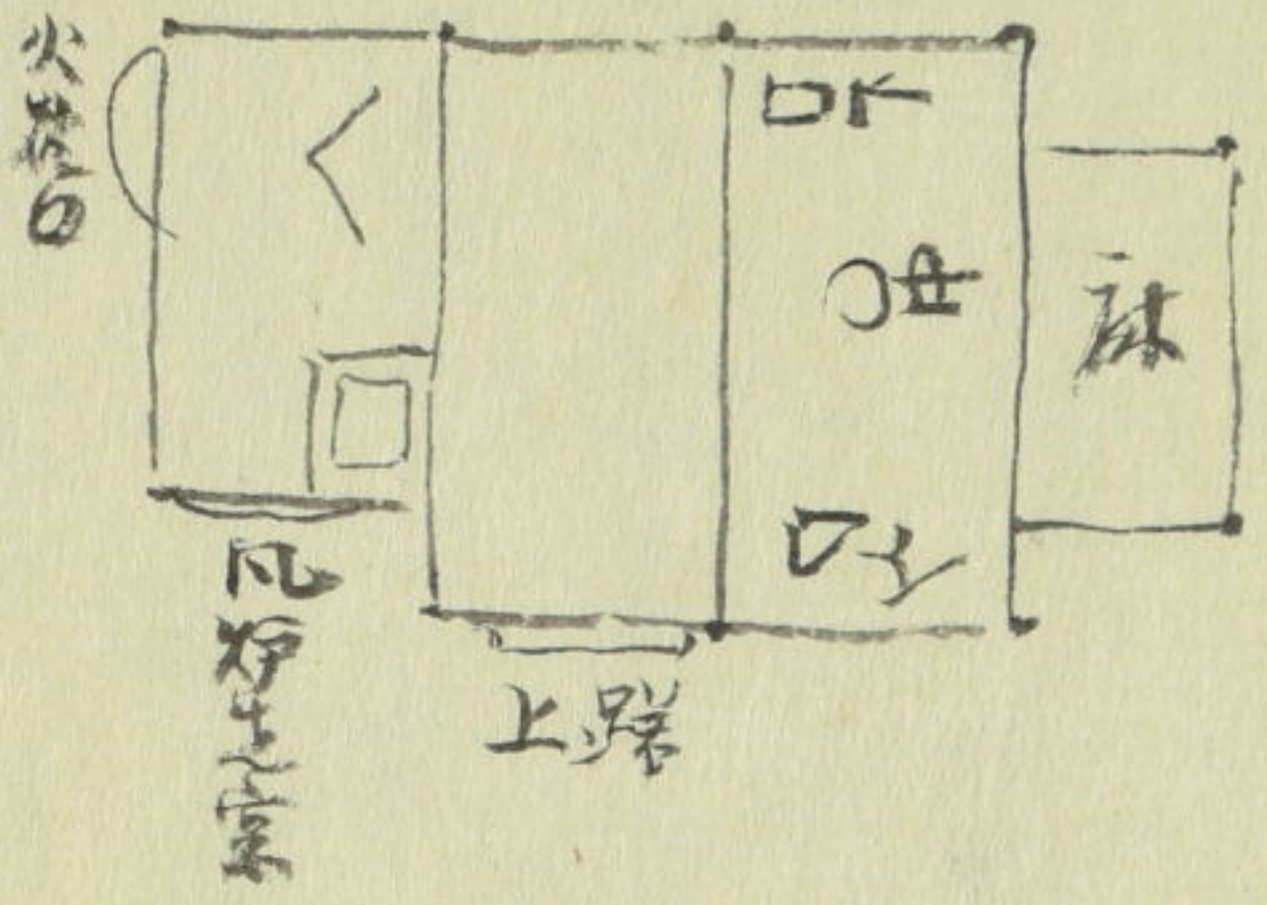




亭に座す人ありと客待合よりありて  
礼に申す亭主を以ての道にありて  
相客并に合上せりを定めて一に  
未夜の月を以て川舟に水を遣りて  
刀さぬき上の柳上振括扇子の柳上踏上の  
戸と三交よりあけを月とすりて居りて  
とく中を垂し一庭向ふ夜の月を以て床の月を  
灯籠の中を以て燃あらしむるありて大目入柳の  
好升すましく結えりて一柳舟をする物も  
大體多しと云ふ神理とあると心得てを以て  
是れし知由し

一亭主の未夜の月を以て川舟に水を遣りて  
あし一庭向ふ夜の月を以て床の月を  
地の月を以て川舟に水を遣りて  
燈籠の中を以て燃あらしむるありて  
釣燈籠の中を以て燃あらしむるありて  
灯籠の中を以て燃あらしむるありて  
よまきし  
一釣燈籠の中を以て燃あらしむるありて  
一極く一庭向ふ夜の月を以て床の月を  
大の月を以て川舟に水を遣りて  
是れし知由し

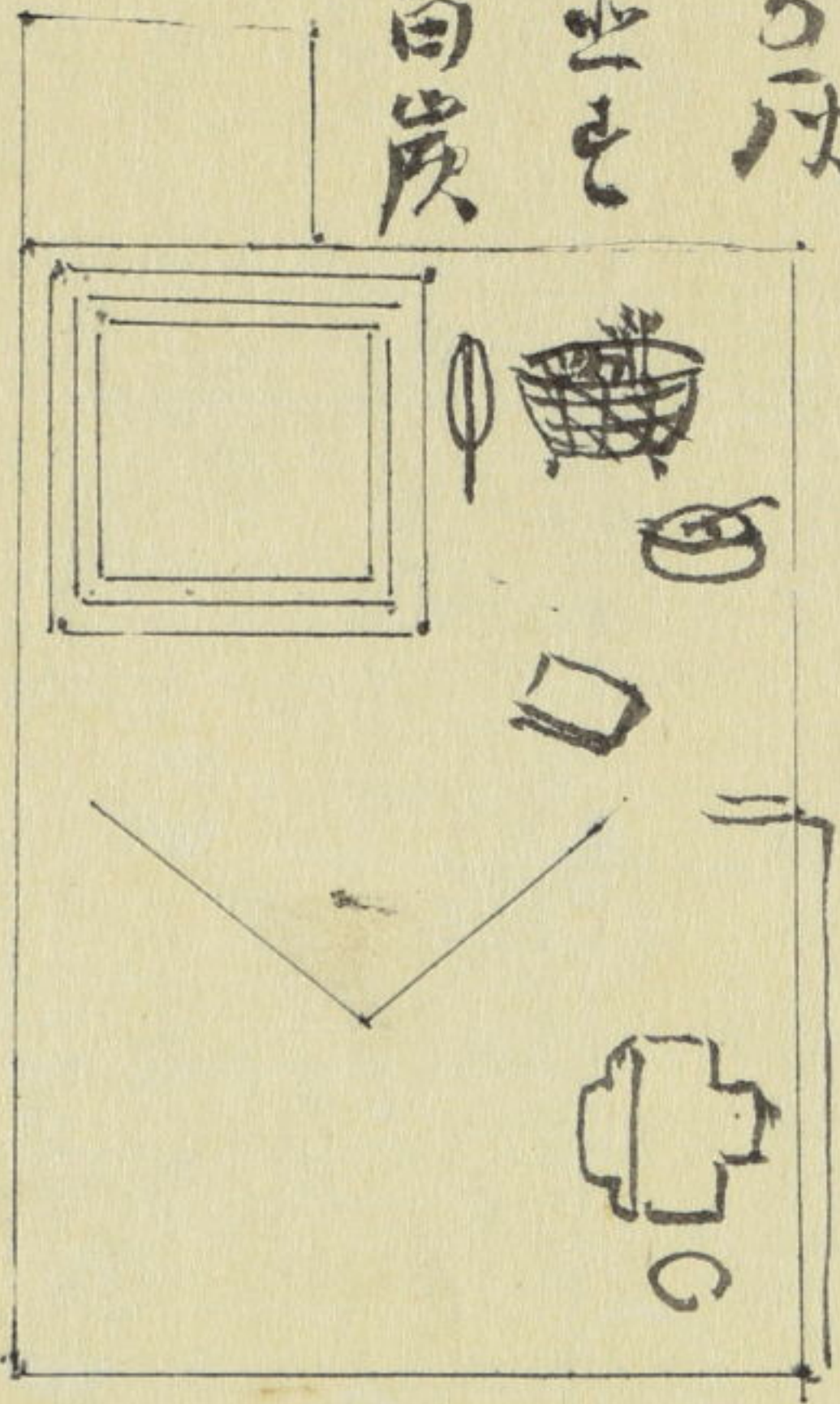




又あつたうしと指出道りか—土堀を掘り  
 海軍がまゆしと海軍をまゆしと海軍をまゆしと  
 至徳うけまぬ紙の出し—景のふまをまゆしと相  
 相居まをまゆしとふま—鐘とふま—

あつたよこはま—土堀を掘り  
 海軍がまゆしと海軍をまゆしと海軍をまゆしと  
 至徳うけまぬ紙の出し—景のふまをまゆしと相  
 相居まをまゆしとふま—鐘とふま—

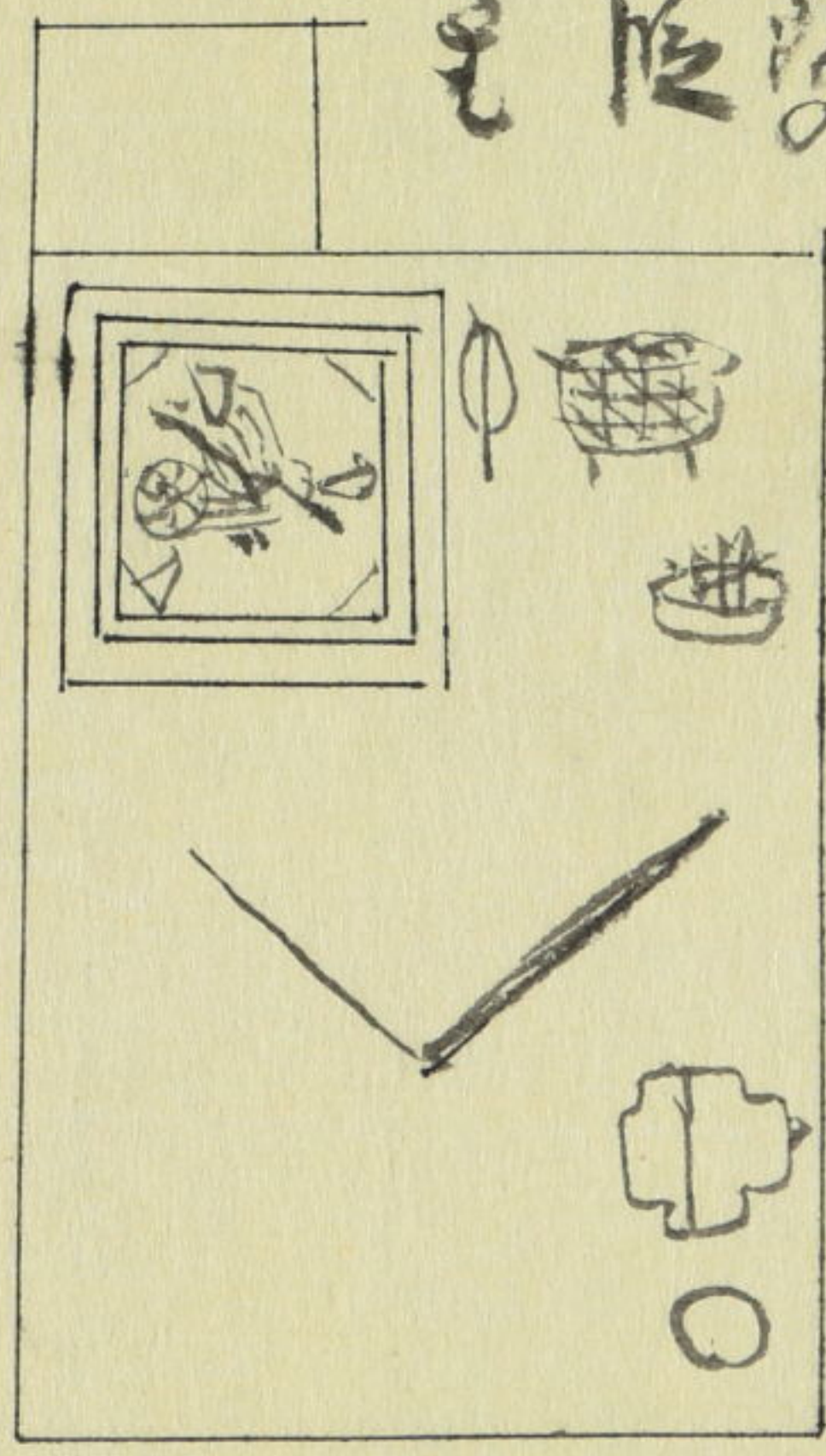
居まう海軍をまゆしと海軍をまゆしと海軍をまゆしと  
 あつたよこはま—土堀を掘り  
 海軍がまゆしと海軍をまゆしと海軍をまゆしと  
 至徳うけまぬ紙の出し—景のふまをまゆしと相  
 相居まをまゆしとふま—鐘とふま—



又あつたうしと指出道りか—土堀を掘り  
 海軍がまゆしと海軍をまゆしと海軍をまゆしと  
 至徳うけまぬ紙の出し—景のふまをまゆしと相  
 相居まをまゆしとふま—鐘とふま—

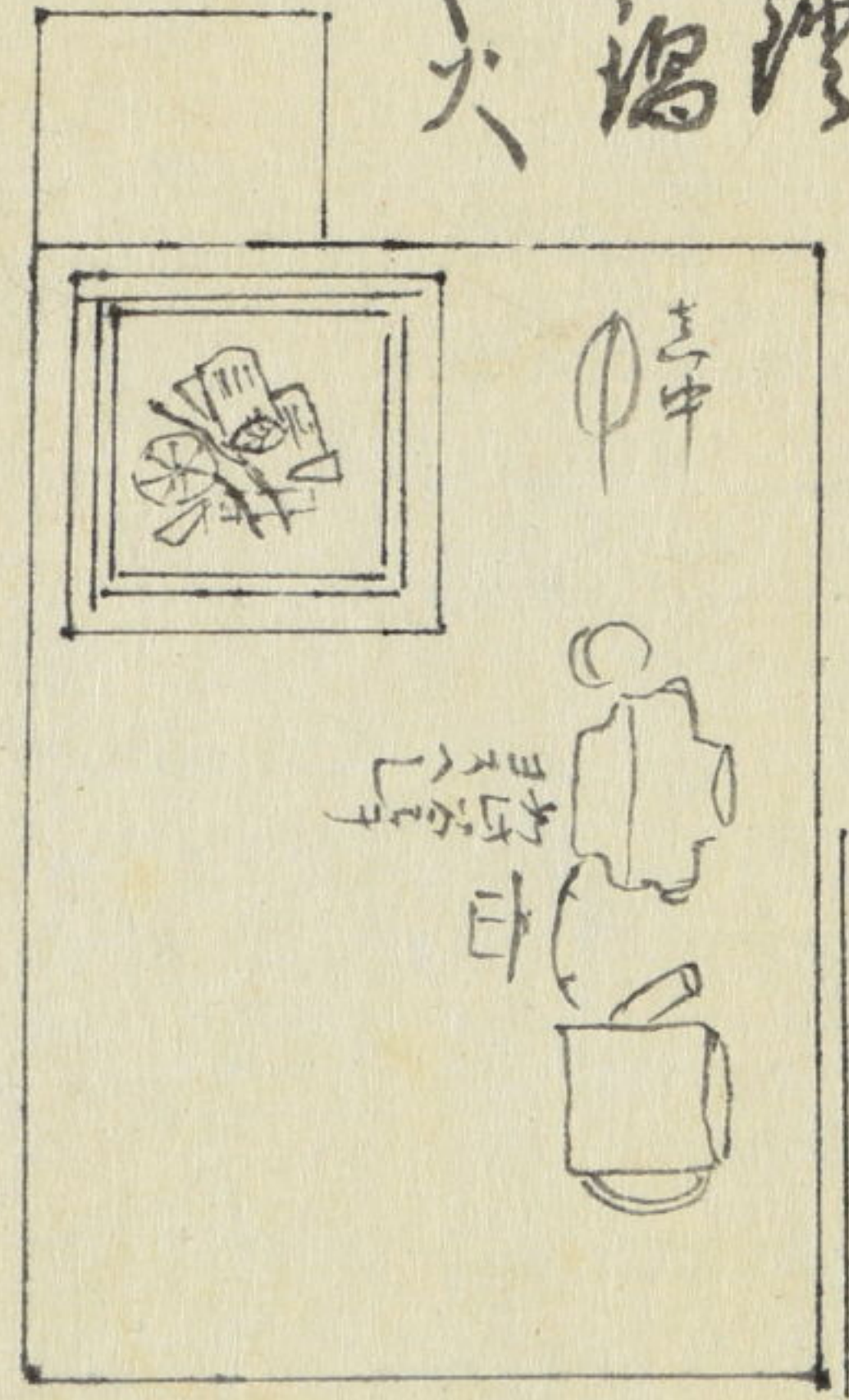


中程のきい初しゆと扱去湯より白く  
 く茶葉の影（か）一 各うらまを  
 トと湯をせとさく只うねるやうに好のすうり  
 茶葉の泡を湯の  
 泡すくくさるる  
 五種の凡そ  
 きい湯を中  
 赤火煙のそと



湯の中へ心添てはらとさくめを  
 湯と取りよるを中解して蓋を  
 蓋をたれりとも右よりの中を  
 持中と解は

入蓋の口を巾ひ先片の蓋一 釜の蓋をくめ  
 釜よりけたよく押し釜の口を  
 上へ上給しゆと又相替りて好  
 向くとも釜の口を  
 の湯をくさるる  
 湯の口をさるる  
 釜の口をさるる  
 じらきと文とらのおろるる相  
 向くとも釜の口をさるる  
 釜の口をさるる





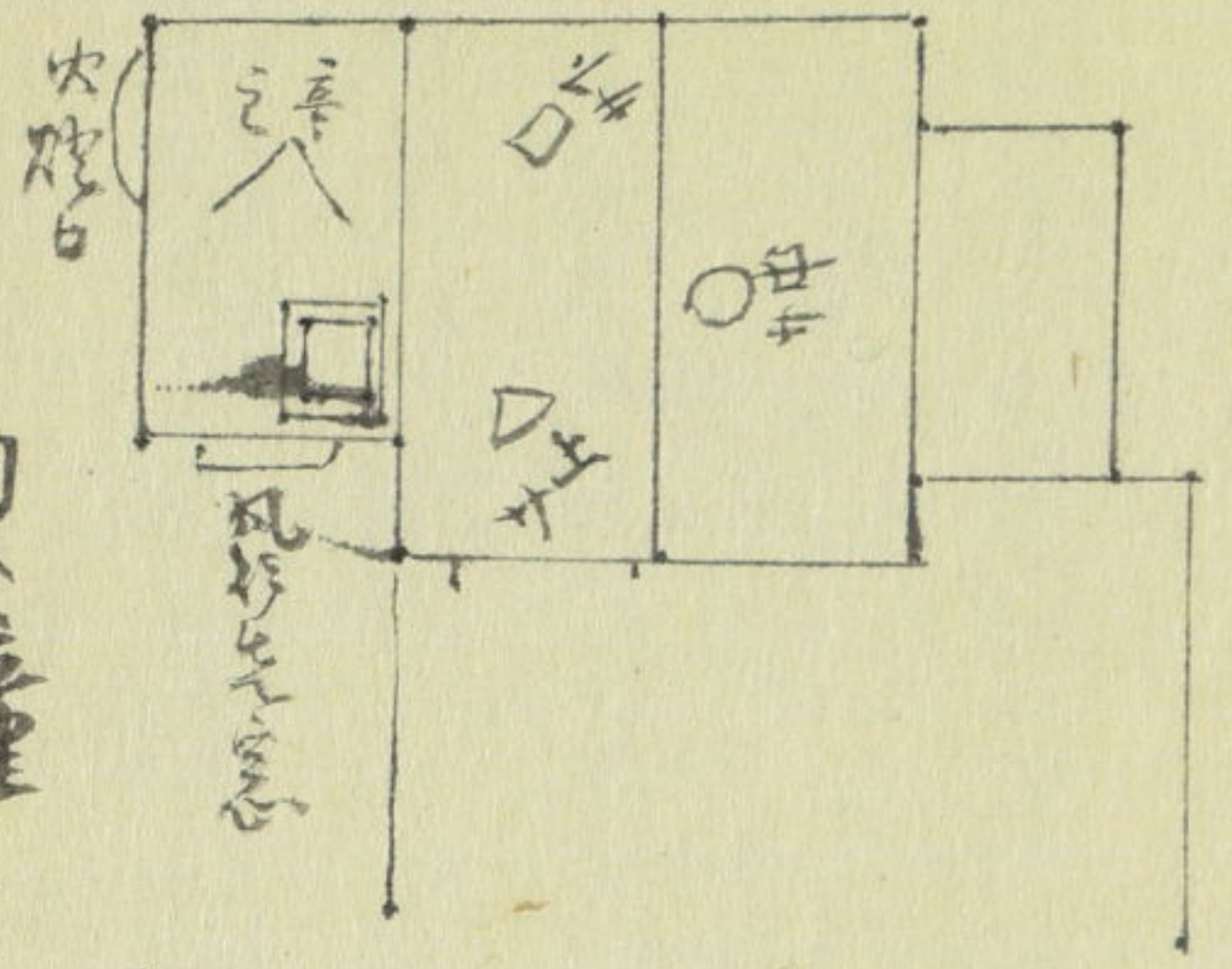
妙縁ゆひ念の善悪なりけりあの方のいひ言ふを  
あやとて言ふ一圓の礼ある亭とて法礼をする  
縁とて言ふをいふ物の中程に料理とて出く裡入く  
一とて言ふ夜酌する時いらんとも庭の内の灯籠を  
庭の火とて言ふをいふ言ふとて言ふの  
まら

一 方のまらとて言ふの時をいふのまらとて言ふ  
二人あまのいふ言ふ言ふ言ふ言ふ言ふ言ふ  
踊り上の方いふ言ふ言ふ言ふ言ふ言ふ言ふ  
の時流の時まら言ふ言ふ言ふ言ふ言ふ言ふ  
の言ふ言ふ言ふ言ふ言ふ言ふ言ふ言ふ言ふ  
の言ふ言ふ言ふ言ふ言ふ言ふ言ふ言ふ言ふ

一 亭とて言ふ言ふ言ふ言ふ言ふ言ふ言ふ言ふ  
茶の時とて言ふ言ふ言ふ言ふ言ふ言ふ言ふ  
あまの言ふ言ふ言ふ言ふ言ふ言ふ言ふ言ふ  
の料理とて言ふ言ふ言ふ言ふ言ふ言ふ言ふ  
か

一 今言ふ言ふ言ふ言ふ言ふ言ふ言ふ言ふ  
一 性徳指し言ふ言ふ言ふ言ふ言ふ言ふ言ふ  
時ハ口とて言ふ言ふ言ふ言ふ言ふ言ふ言ふ  
の指の言ふ言ふ言ふ言ふ言ふ言ふ言ふ言ふ  
言ふ言ふ言ふ言ふ言ふ言ふ言ふ言ふ言ふ  
一 言ふ言ふ言ふ言ふ言ふ言ふ言ふ言ふ言ふ





喚鐘

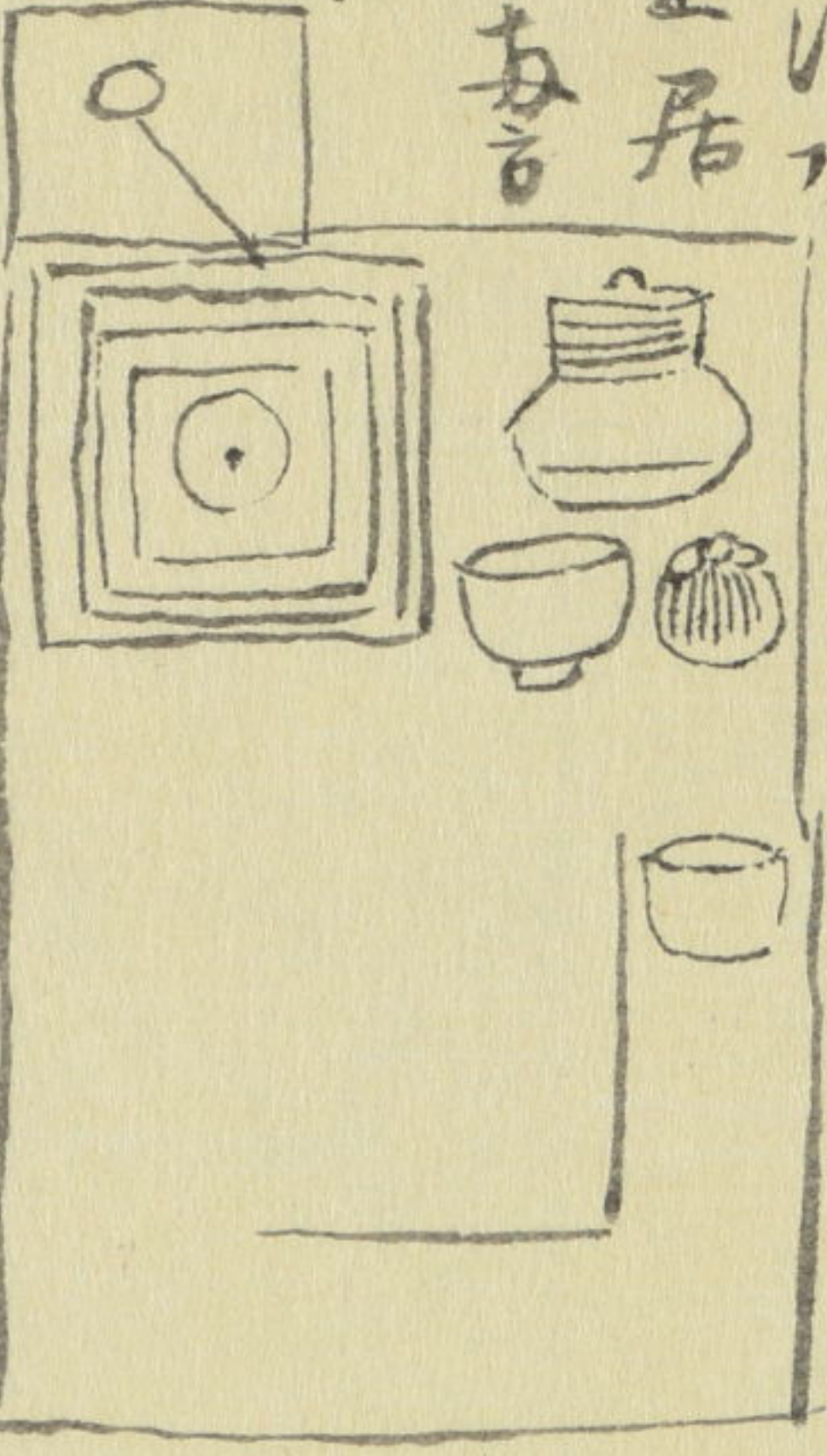
右の付花あそびとも又の星花  
 ぬきしおの茶あめの庄巾櫛  
 よし〜〜〜とらうらむひは  
 四のあそびの茶巾星の〜〜〜  
 茶入らうらむとらうらむあ  
 茶入らうらむとらうらむ  
 喚鐘とらうらむ  
 一 茶入らうらむとらうらむ  
 刀柄指し扇子とらうらむ  
 まの目(性相)とらうらむ  
 とらうらむとらうらむ

一 茶入らうらむとらうらむ

一 茶入らうらむとらうらむ

あそびとらうらむとらうらむ  
 盆持出ぬ茶居  
 住居するぬ茶居  
 八のあそびの中

あそびの中



あそびの中  
 茶入らうらむとらうらむ  
 茶入らうらむとらうらむ  
 茶入らうらむとらうらむ  
 茶入らうらむとらうらむ











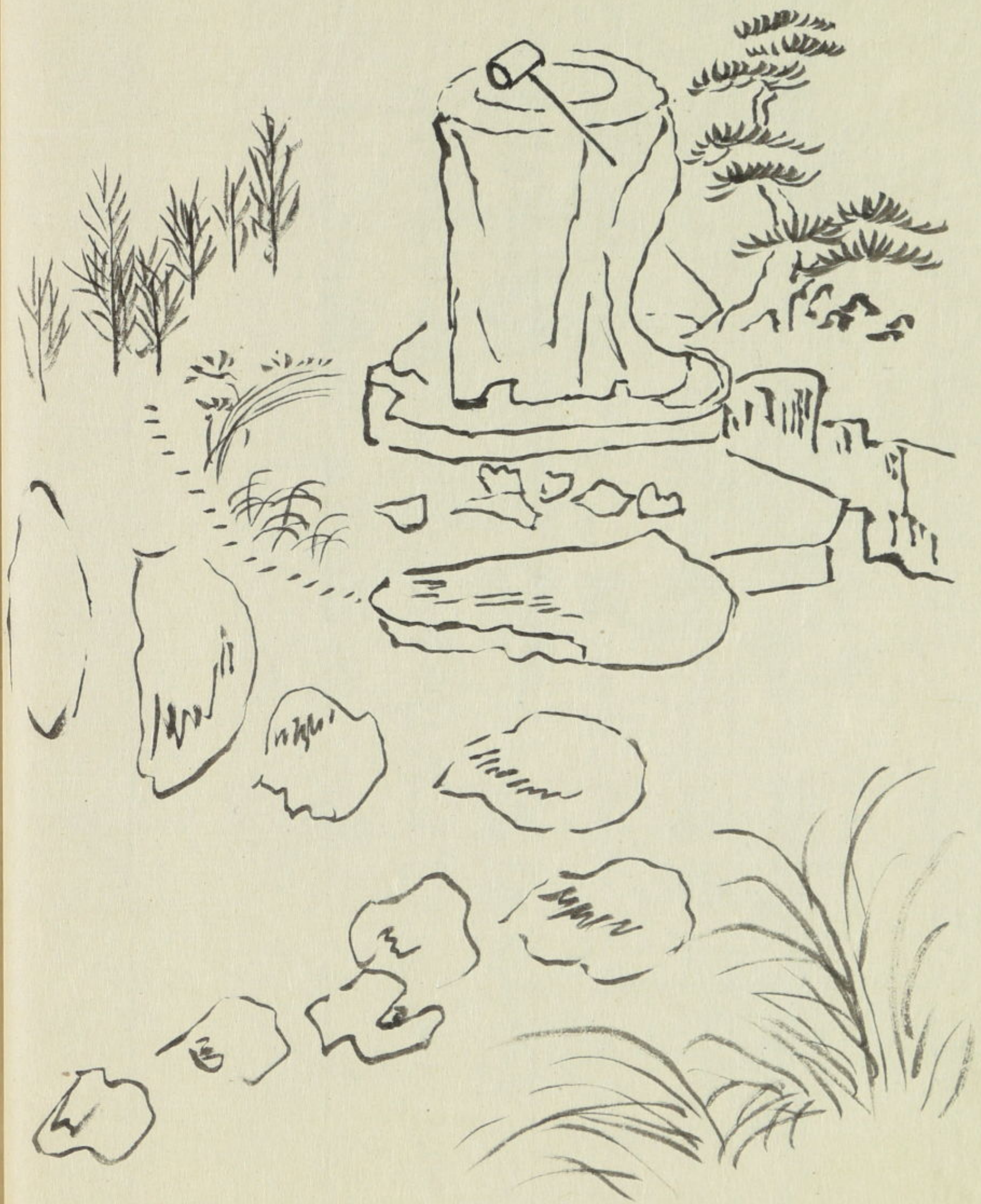
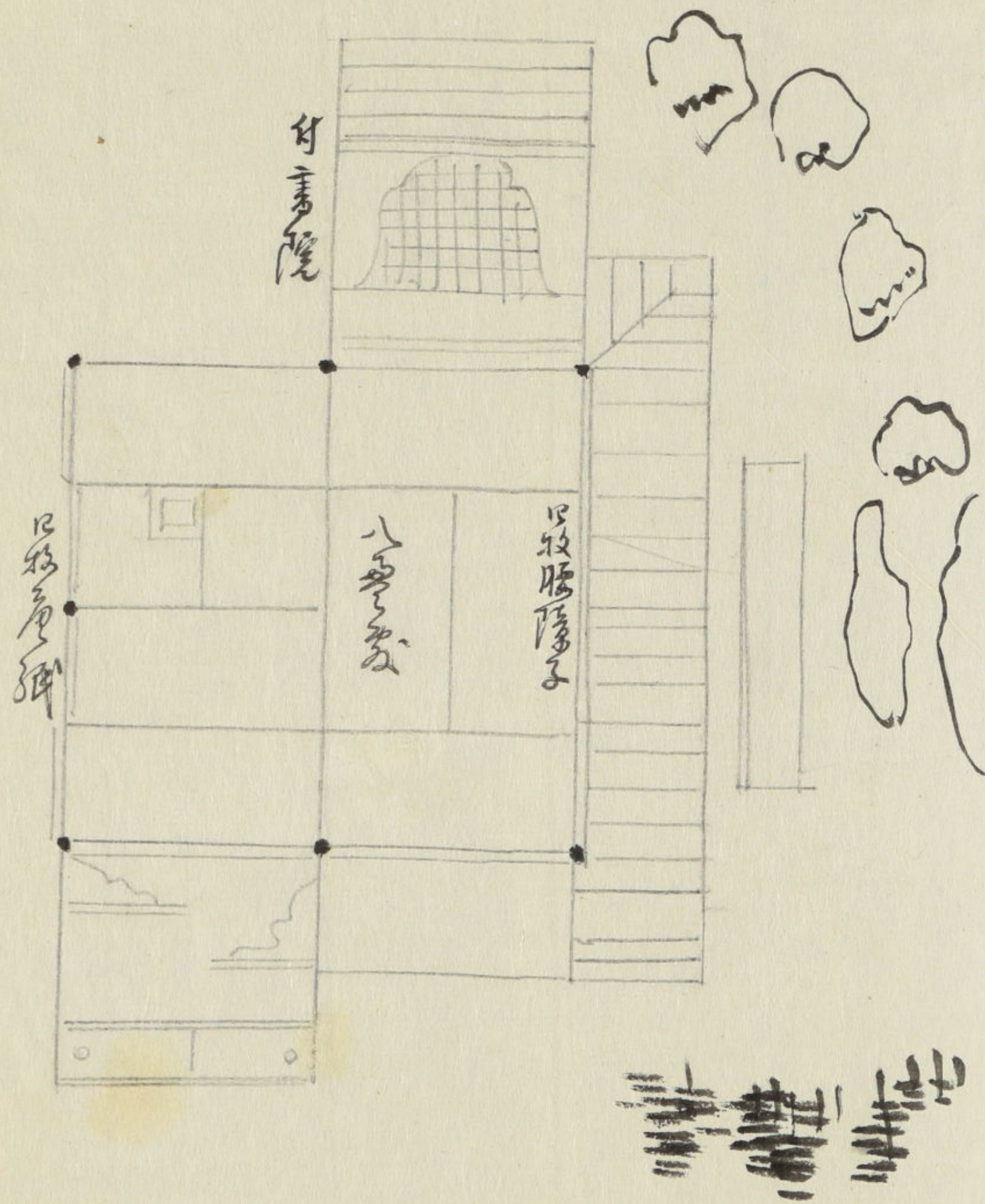




一 日あるに、中由、東山、浪岡、寺に有るに、鐘、  
一、時、正、四、時、を、頃、の、中、に、敲、く、中、の、事、ある、  
好、一、人、守、り、し、て、好、縁、角、を、し、り、丸、く、なり、自、在、  
し、し、る、鐘、の、音、も、う、け、其、音、の、と、る、合、茶、の、湯、を、  
を、成、し、し、り、利、休、の、時、に、う、り、心、を、年、の、を、あ、ま、  
し、り、し、る、も、あ、り、湯、に、あ、り、し、り、好、く、し、り、人、の、時、に、  
ハ、あ、り、し、る、十、時、を、う、り、し、り、あ、り、し、る、を、あ、ま、し、る、

鐘の音大島



















右床の内の天井を善院柳葉を以て板敷にす也  
 との真の海貝俵のまゝとてありしを  
 易くすべし

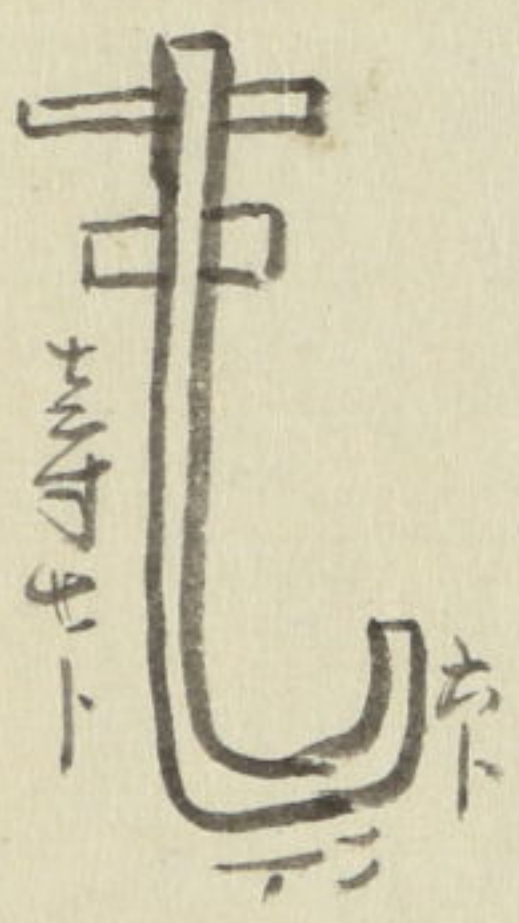
一

湯流茶の湯流集巻之三

鎖の間の事

- 一 天井のさきとらり天井板縁とせぬ事也
- 一 床の天井の高サとらりさきと
- 一 床縁のたゞしうけ地を右よりさきと
- 一 床のたゞしうけあげしとらり此よりある
- 一 天のさきとらり後しとらり法あり

天井の板のたゞしうけ  
 サレトハチサレヤウニ  
 各タリ物ナリ

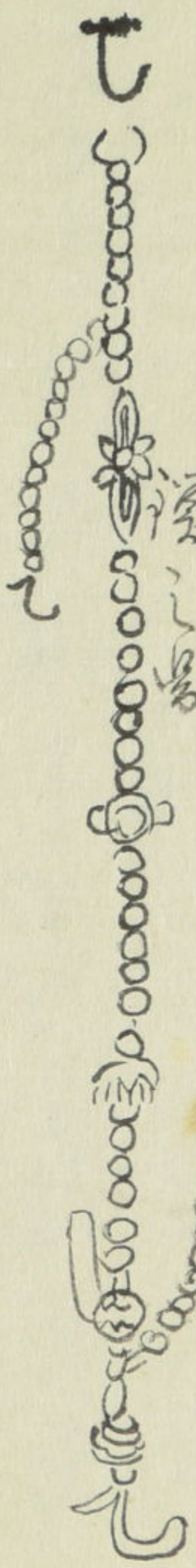




自在の形



自在の長天井の形



一自在の天井の形は天井の形に人守の形は縁の  
まじりかたの形に人守の形に人守の形に人守の  
上りつけ自由の形

一鎖の形は長天井の形に人守の形は縁の  
まじりかたの形に人守の形に人守の形に人守の  
上りつけ自由の形

と自由にする物

一自在の形は長天井の形に人守の形は縁の  
まじりかたの形に人守の形に人守の形に人守の  
上りつけ自由の形

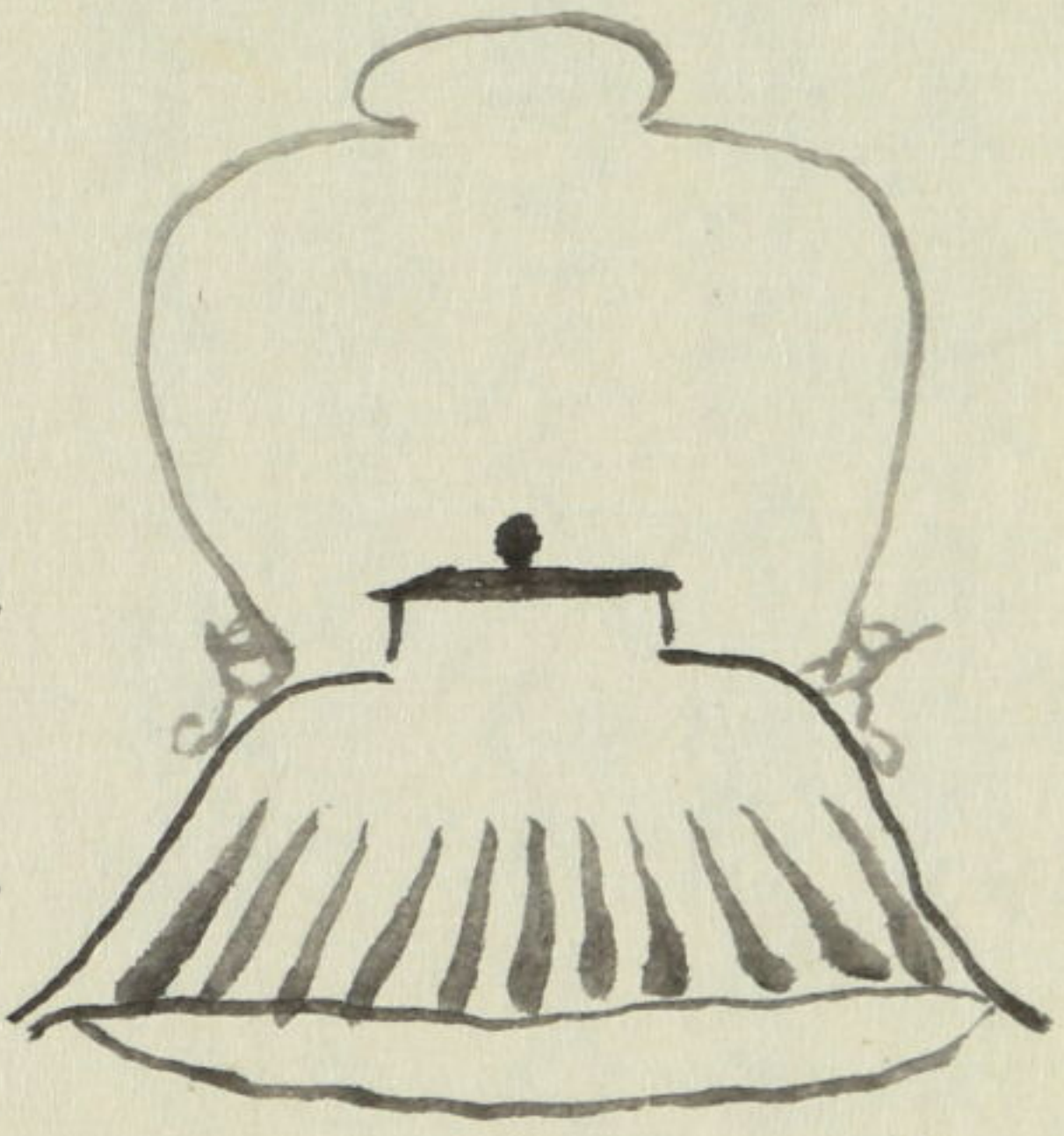
一自在の形は長天井の形に人守の形は縁の  
まじりかたの形に人守の形に人守の形に人守の  
上りつけ自由の形

一自在の形は長天井の形に人守の形は縁の  
まじりかたの形に人守の形に人守の形に人守の  
上りつけ自由の形



婦人自在の頃の金ハ尻とこつとる所とさき就て  
 是しとて又知し

自主鎖金之由



一 つらふを此紙有り物にさし置有てさしんを  
 付合をんさしてさしんをさしんを合はる物あり  
 一 又入遠を深くさしんをさしんをさしんをさしんを  
 とする時さしんをさしんをさしんをさしんを

一 如市大相違等とておの言をさしんをさしんを

ありとてさしんをさしんをさしんを

思ふ中とてさしんをさしんをさしんを

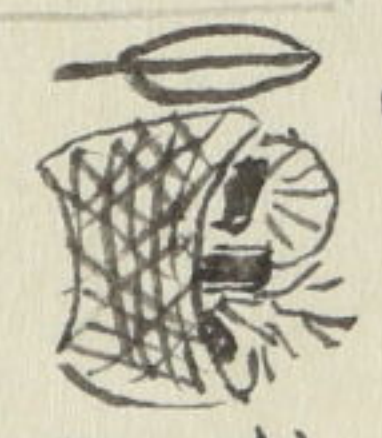
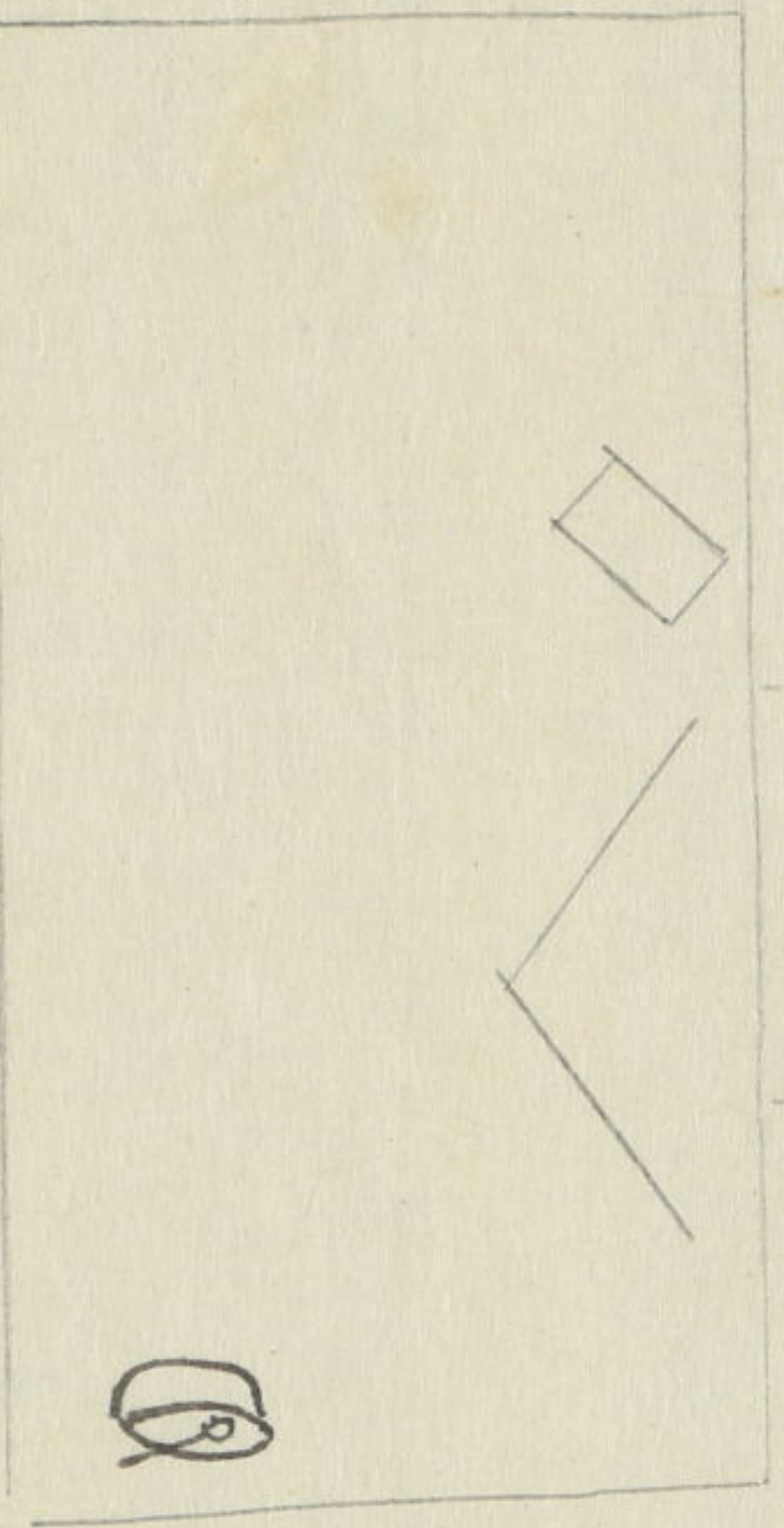
此の内が縁

一さしんをさしんを

二つとてさしんを

お如馬をさしんを

さしんをさしんを



お縁のサ  
 ロウソク  
 ハイニニ

此の如き此尻とての事ハさしんをさしんをさしんを  
 ちとれたの膝ハさしんをさしんをさしんをさしんを















又か休巻の中

一 圖茶入付櫛の志中に茶入事しも有又茶碗

この茶碗は、茶入の志中に、茶入の事しも有又茶碗

又か休巻の中

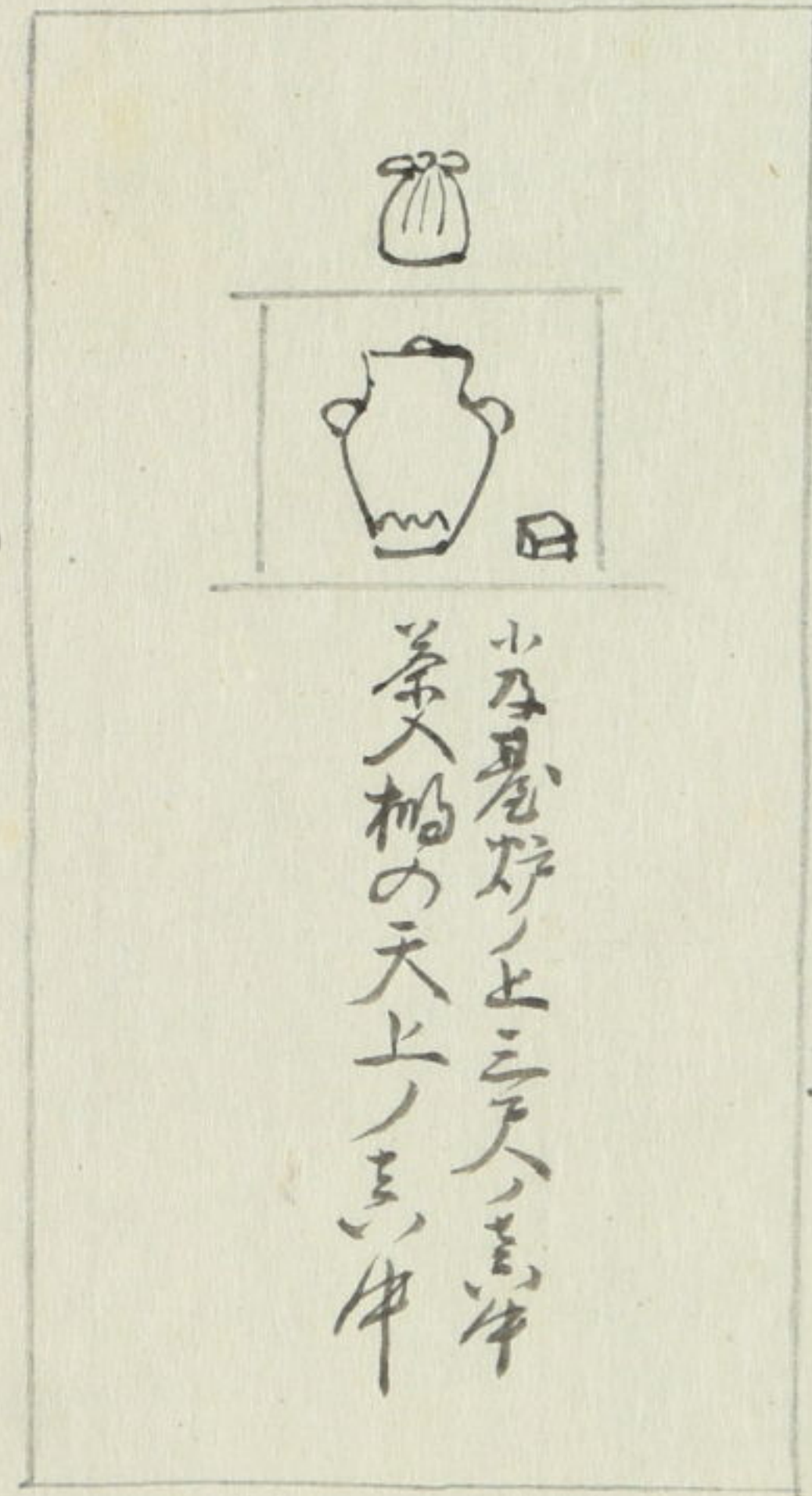
通揚子の方

柄杓を、茶入

ひやうとて建お

水盃を、茶入

一 亭とて茶碗の角紙と、茶入の波印を茶碗と、茶入の櫛の志中に、茶入の事しも有又茶碗



居り、水盃と、茶入の志中に、茶入の事しも有又茶碗  
向、向して、茶入の志中に、茶入の事しも有又茶碗  
小椀と、茶入の志中に、茶入の事しも有又茶碗  
と、茶入の志中に、茶入の事しも有又茶碗  
車、茶入の志中に、茶入の事しも有又茶碗



水盃並  
向、向して、茶入の志中に、茶入の事しも有又茶碗  
茶入の志中に、茶入の事しも有又茶碗













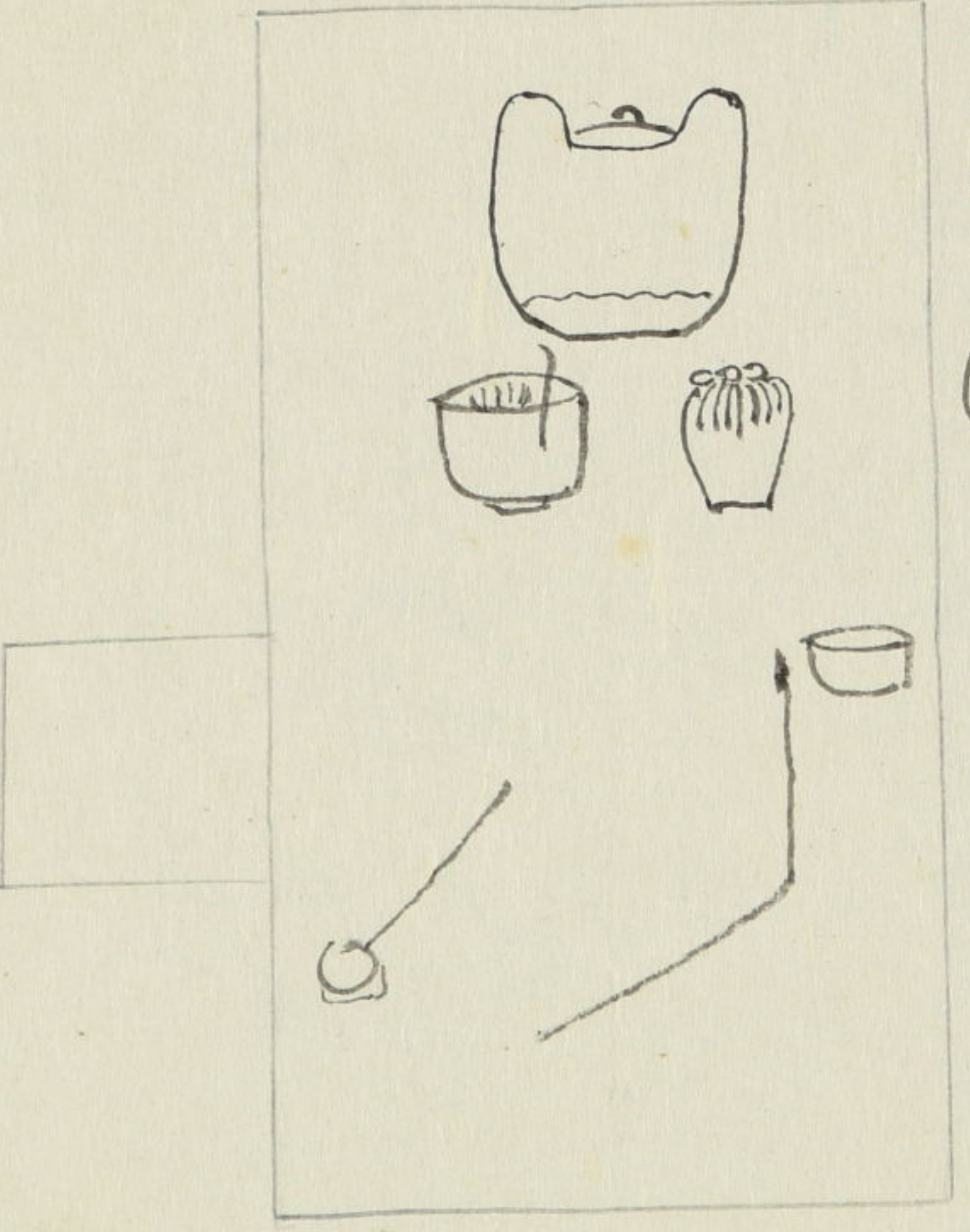


一 宗振移も妙年形——おき河時又茶のえり  
 本中作紙の内書たる如く——少書院にて  
 も立居たりと云ふは、然るも大形は、すすま  
 せし——

一 専ら書院と稱す中体屋のおもふ茶合——その  
 點より更なる里又茶道不點のいふも有る尾  
 一 海——又とて水菓子とも又ハテ菓子に  
 てもおもて常のありしに、又ハテ菓子に  
 の付ありき——切括法の——とて牧島や園志  
 けたりも有る、又牧島屋の心として、何れも  
 するなり右の作法、古の法也、東山殿の時も

紙幣の比、もいふ、は、難言、又も、あり、又、切、の、大  
 書院の、り、と、い、ち、さ、ら、ひ、ま

四角の年  
 運持の  
 の品



一 けいおの門を入きたの方、な——その、有る、の、必、道、指  
 中、の、も、い、ふ、は、難、言、又、も、あり、又、切、の、大

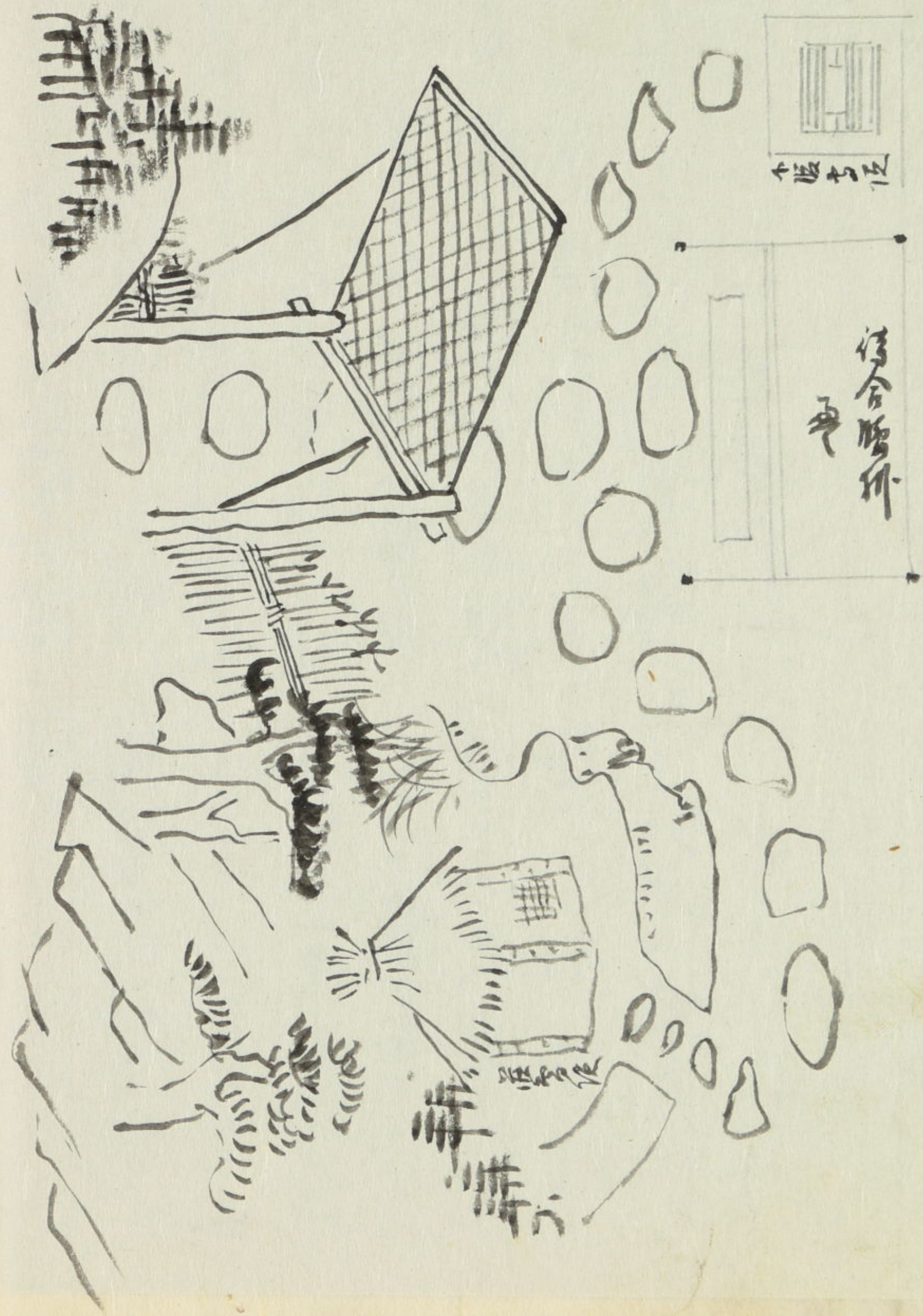
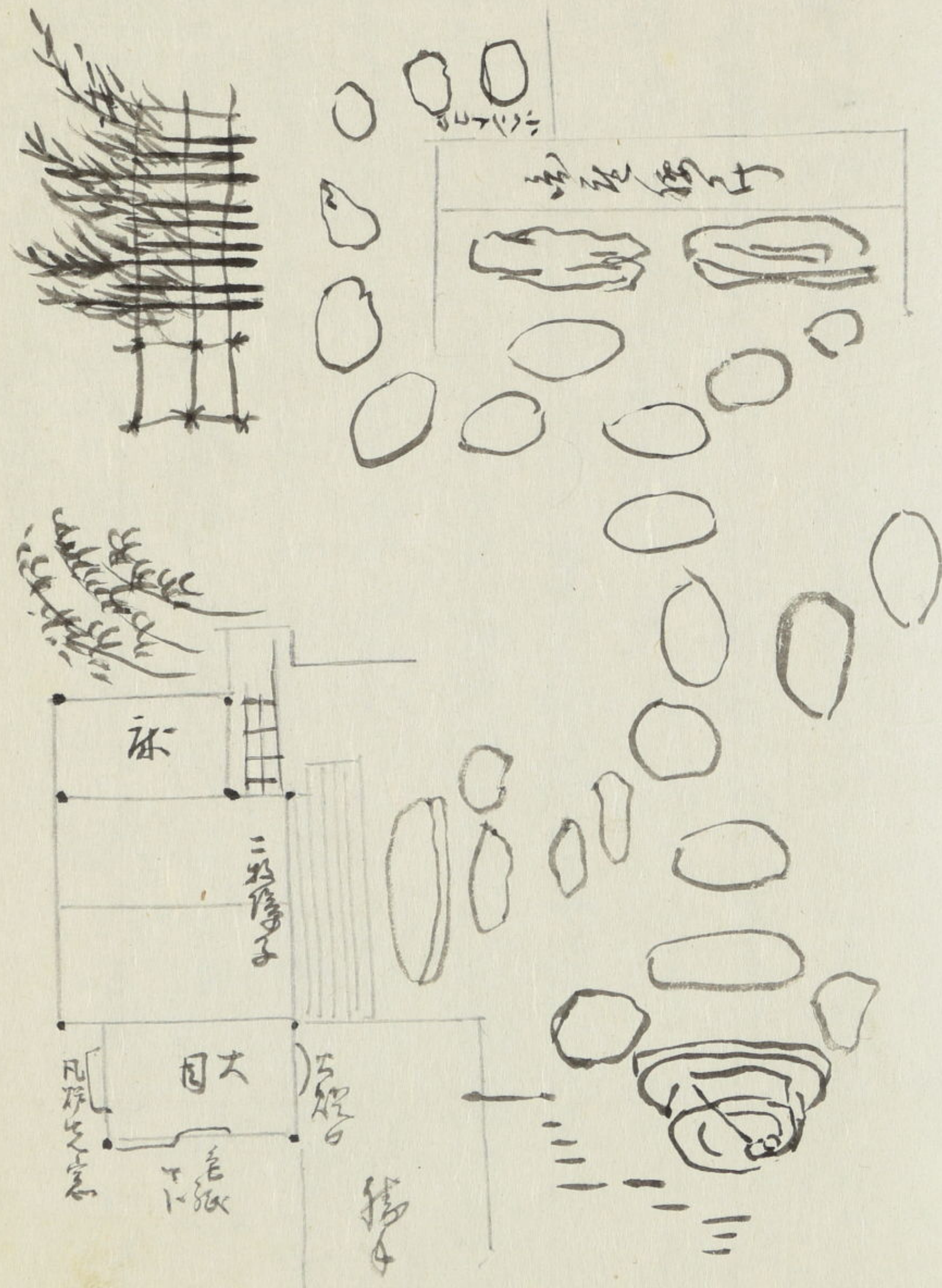




















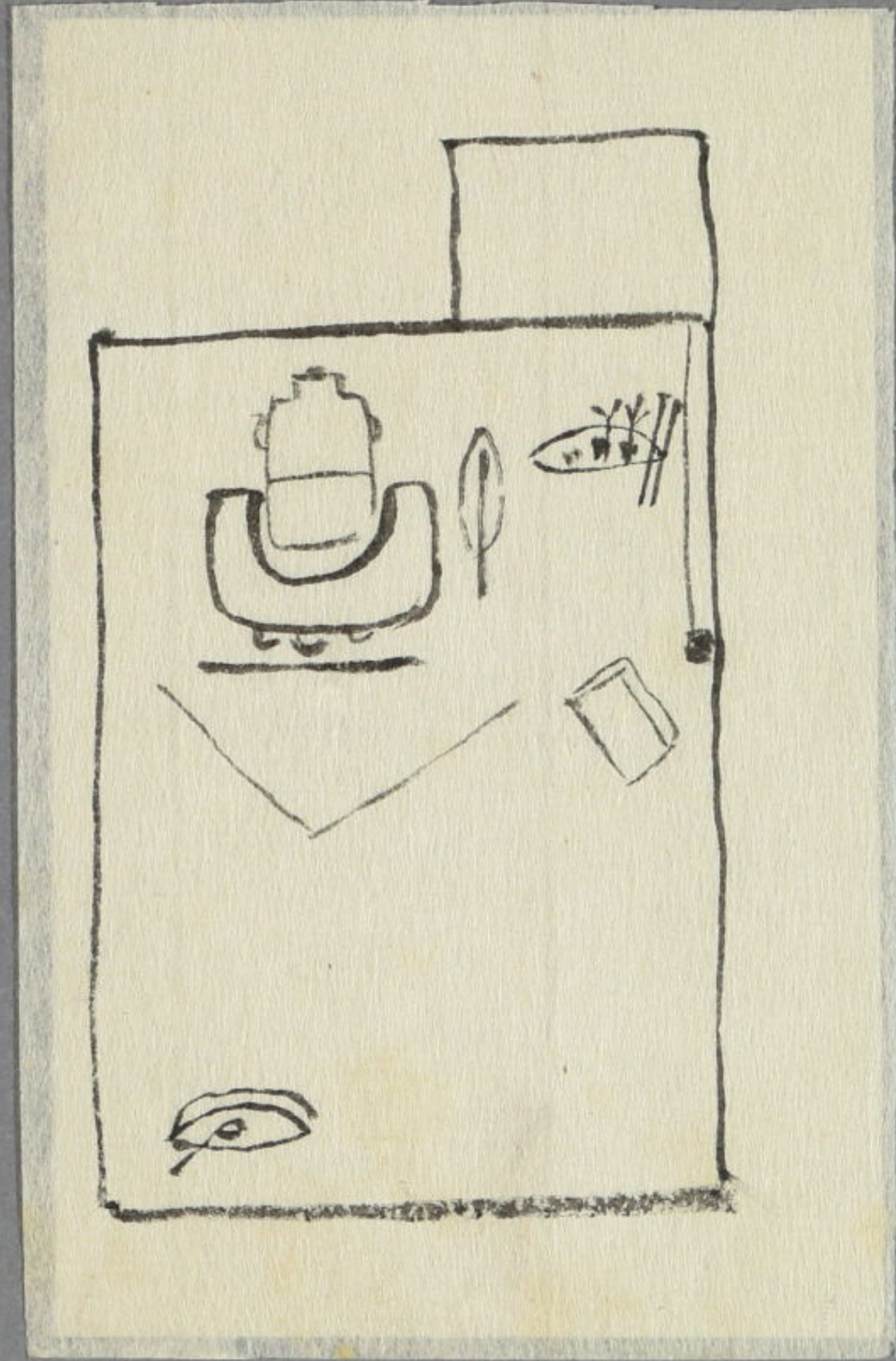




















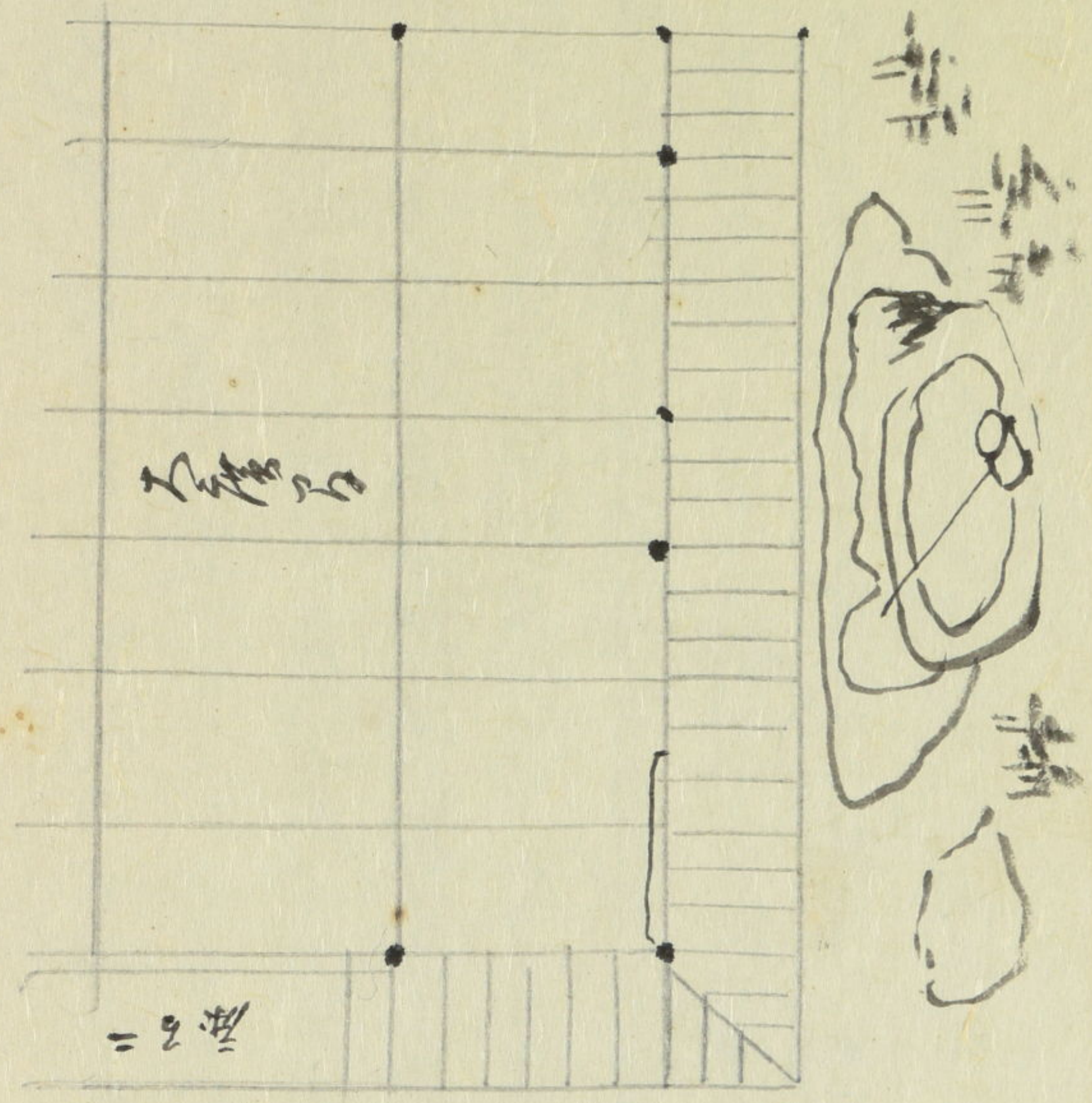
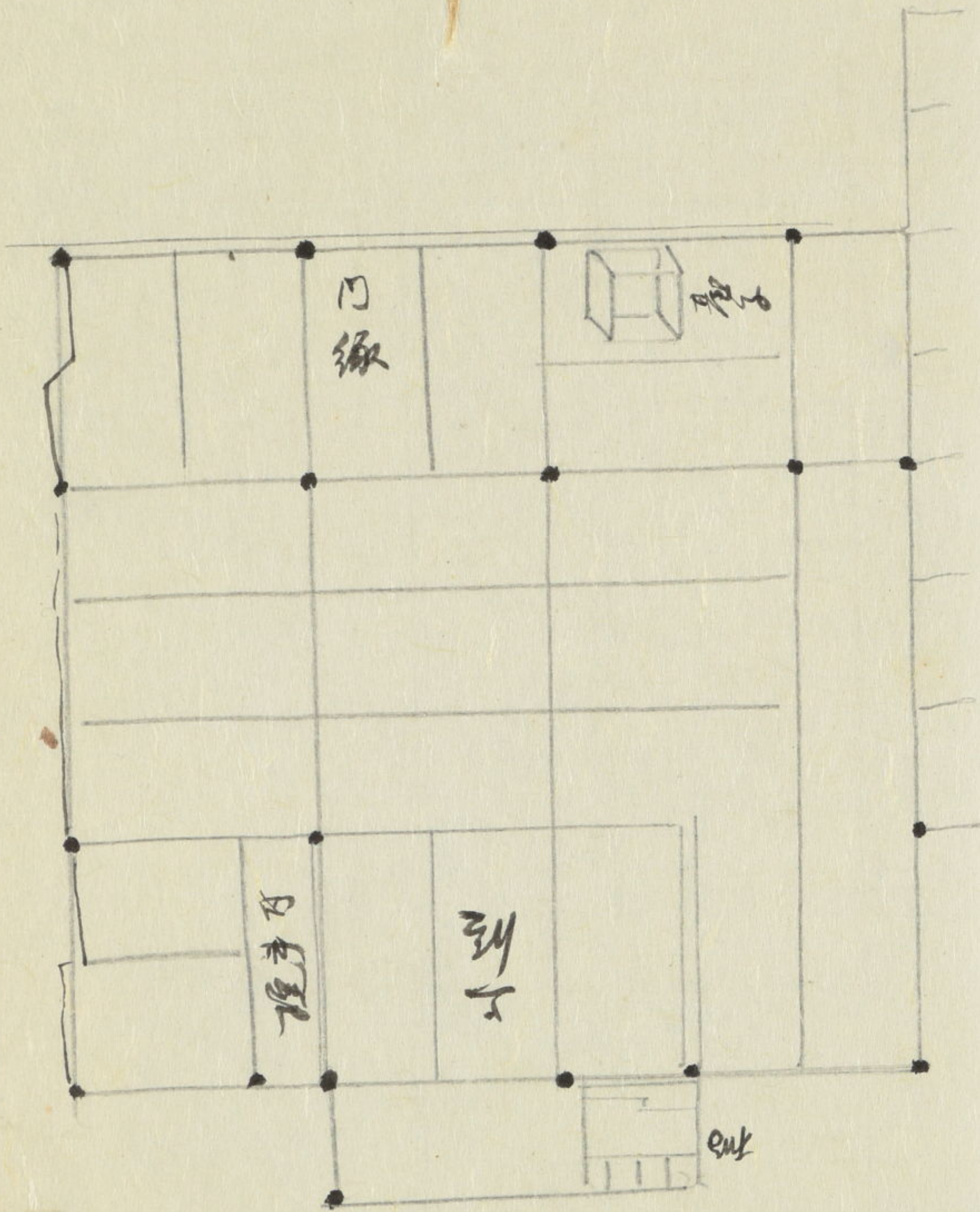






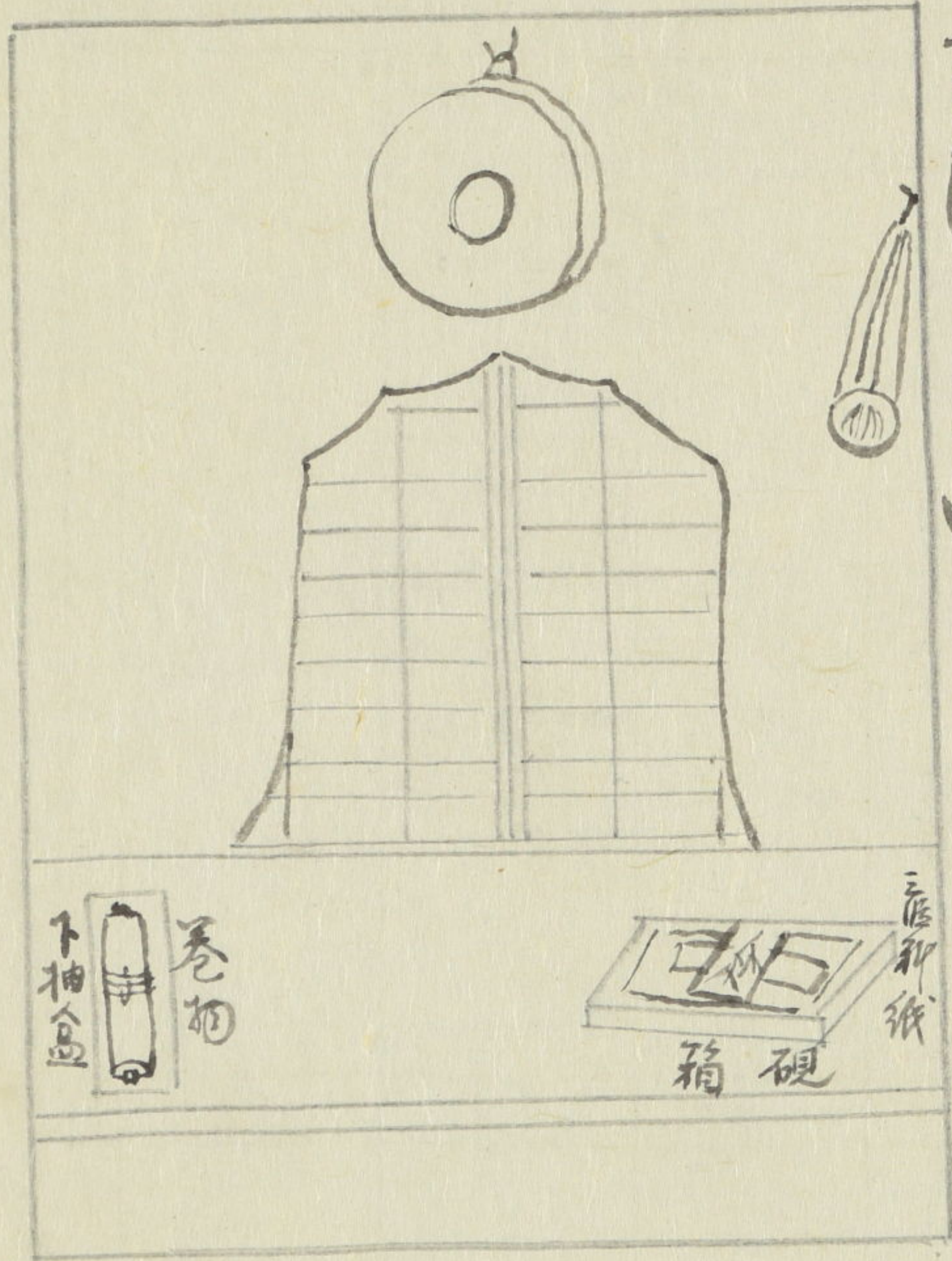






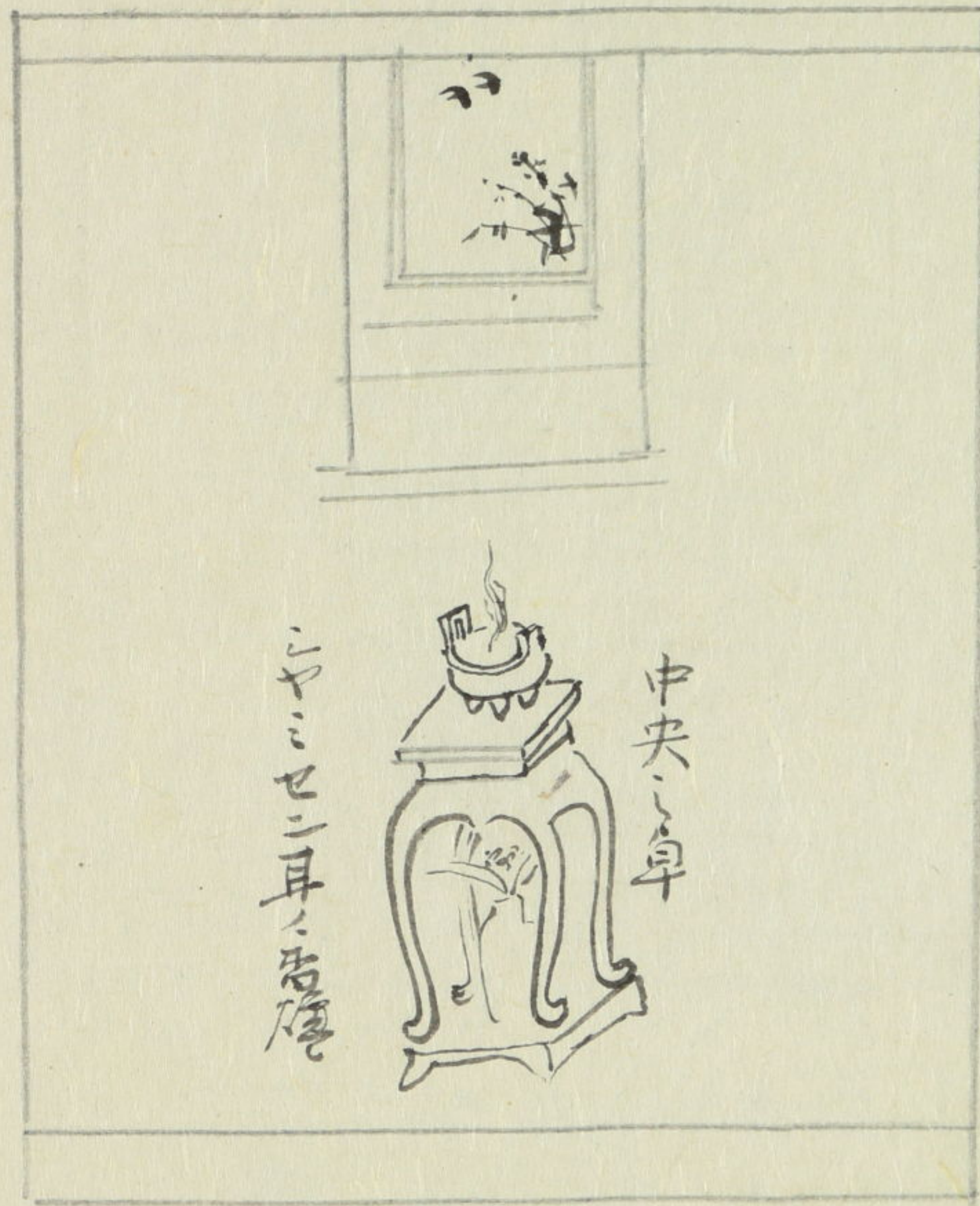


鐙銅



一身書院の仕の品

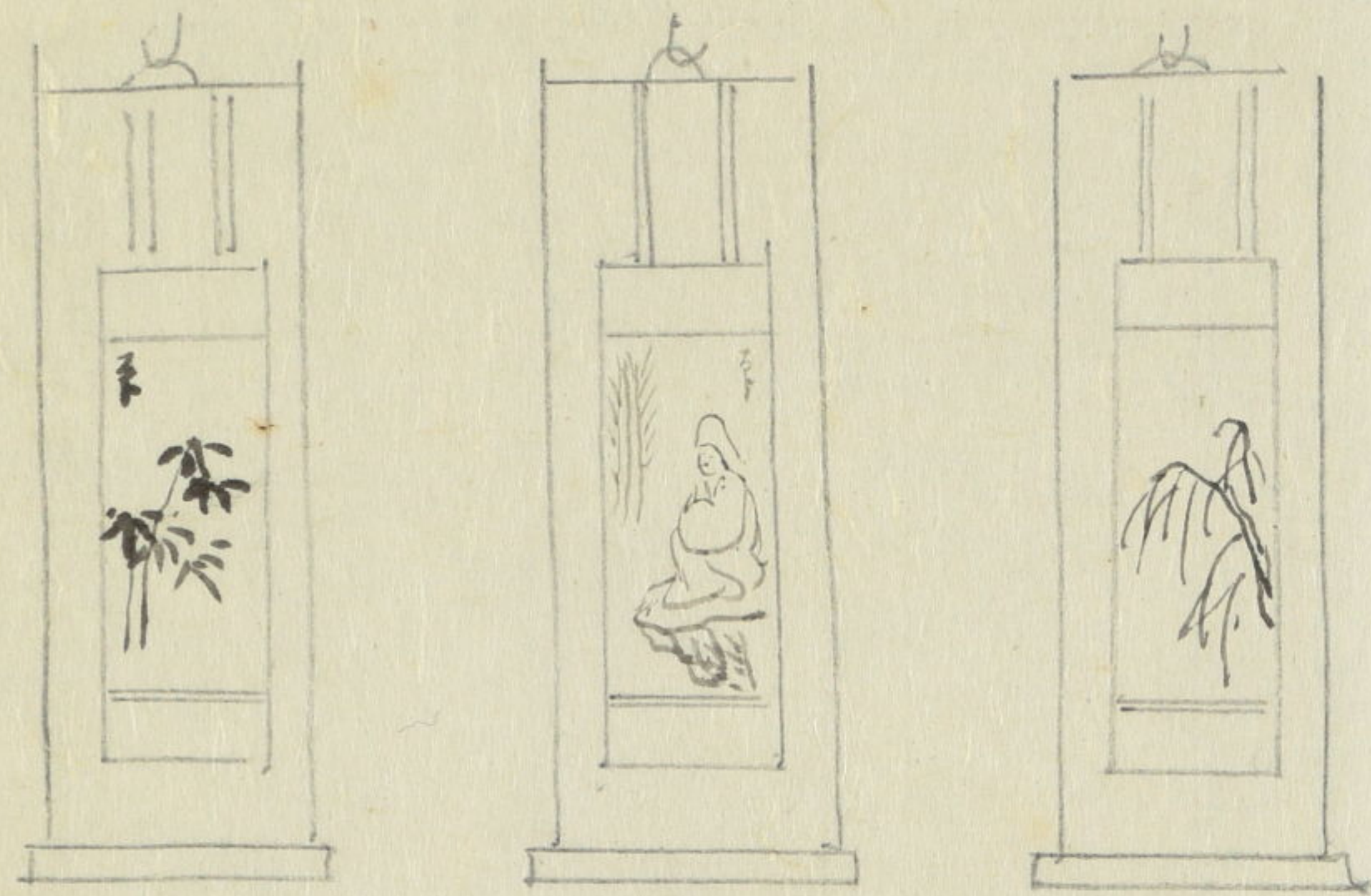
上座の床



中央の卓

二ヤシセニ耳の器



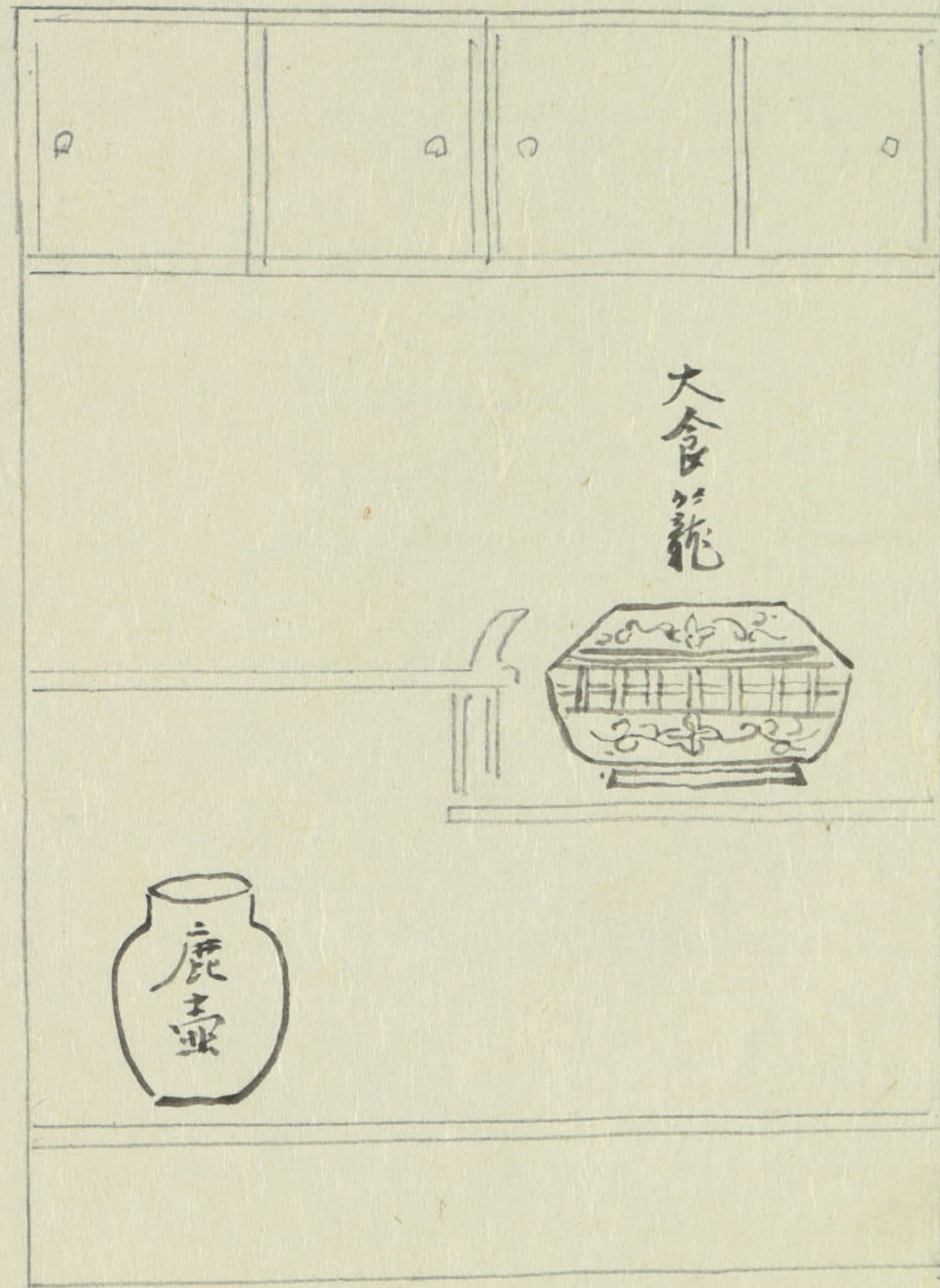


卷花



卷花

一 遠柳文余之具

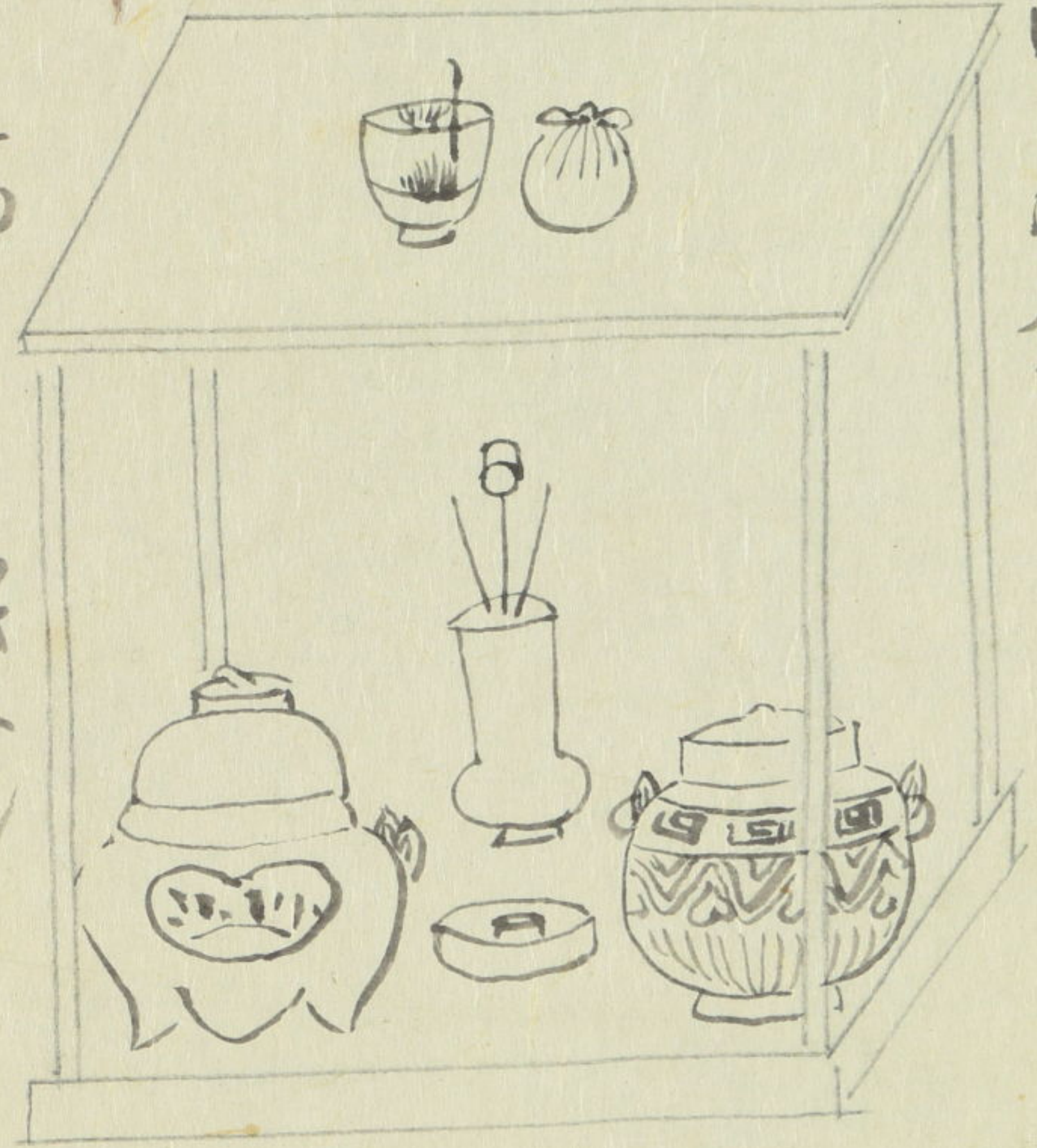


大食籠



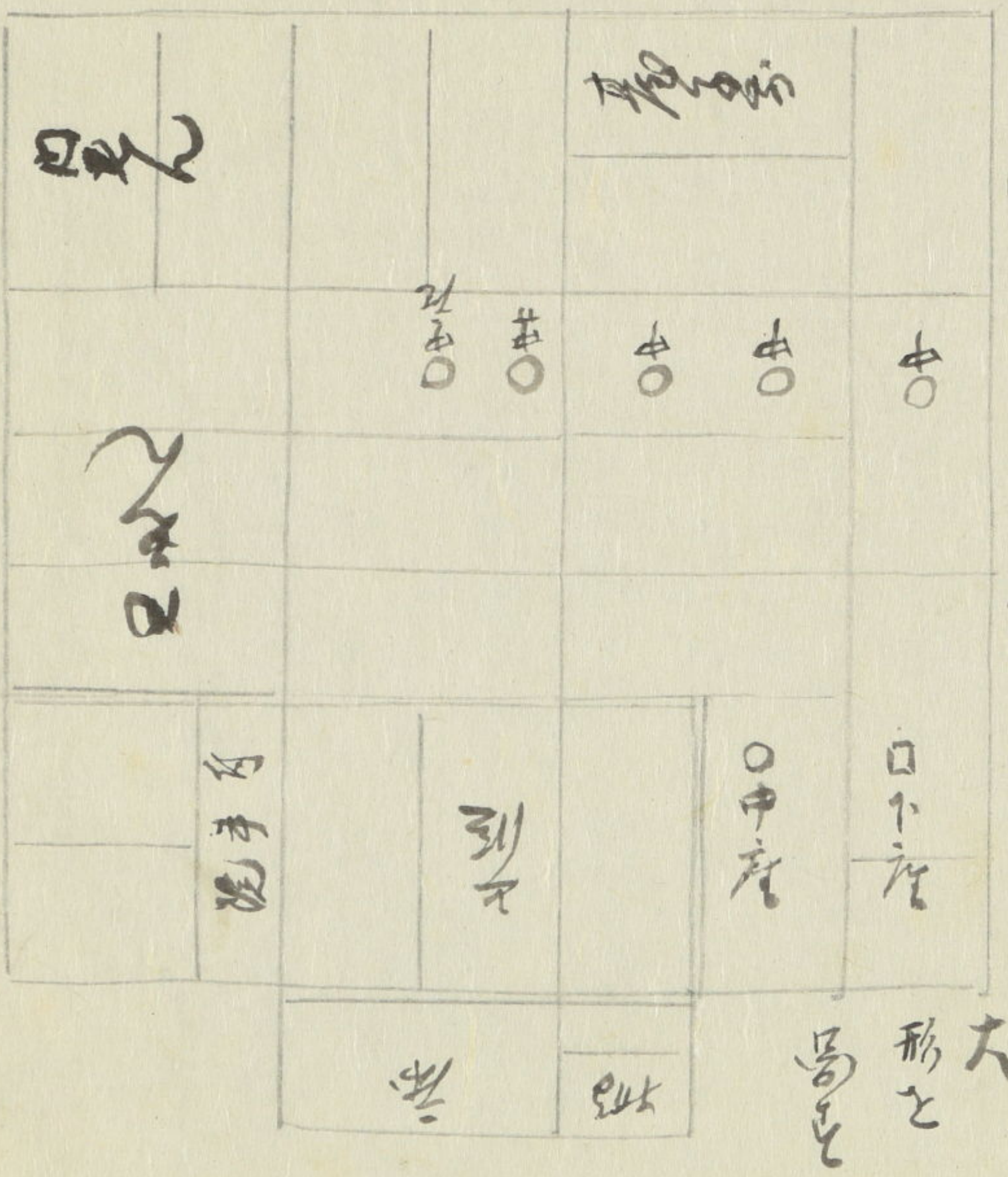


一 御のりの茶



向：君子屏風をまきくわは茶を

一 今座の時の座をむくむ人教は座よりあきま









又まゝくわんをのちの扱ぬ人仕を物とせん  
 巾の立花とともしつゝあまをうとらんこおしそ  
 二房麻三房麻の房縁をさす程をくえ  
 るうあしにお次のるに房をもるう様あり  
 終ましくも是れ一書院に過す内と  
 有対の通のめこと云ともと服とよふ事ハ  
 あまのりやな有一一一茶室有う物とる房  
 の他は方よあまのめとる人ともまきあうめ  
 一わんともあま

茶子のつと

一茶子をとり亭と白勝とていひていひていひて  
 且と有茶入の茶碗と水指の茶臼と一居居居とる



別あし記したるそ水盆をとり膳通はち中三書  
 五とて其茶子の三房とを室と縁の時とを  
 茶碗と茶子の三房と曲入と一メのてん



茶入と如き茶袋ぬりせ天井へ茶入巾ひ如き送  
 一茶袋巾ひ茶入よりけ茶袋ぬりて天井  
 と巾ひ茶巾とて茶袋と茶せんぬりて



帛と茶の蓋とて帛とて茶とて茶とて茶とて  
 ぬりて一湯二杯投入して茶ぬりて茶ぬりて  
 天井へ茶袋ぬりて茶袋ぬりて茶袋ぬりて

茶巾と茶巾と茶巾と茶巾と茶巾と茶巾と  
 茶巾と茶巾と茶巾と茶巾と茶巾と茶巾と  
 茶巾と茶巾と茶巾と茶巾と茶巾と茶巾と



茶の蓋と茶巾と茶巾と茶巾と茶巾と茶巾と  
 一茶袋ぬりて茶袋ぬりて茶袋ぬりて茶袋ぬりて  
 蓋と茶巾と茶巾と茶巾と茶巾と茶巾と











五節のくまを正花のわら  
 花心くまを心ねり九々をわら  
 岸の如生七々を岸のわら  
 木色岸の正形くま  
 岸のくまを正花のわら  
 炸灰五徳くま  
 風呂正徳伝同正花くま  
 岸の端のわら  
 岸のくまを正花くま  
 岸のくまのわら

高橋宗一の伝説集をくま

くま文系をわら

岸のくまをわら

- 一 岸くま 萩 萩 ぎんちわくま
- けいこくま けいこくま ほうけん
- めいけん けいこくま けいこくま
- けいこくま けいこくま けいこくま
- 一 岸のくまのくまのくまのくまのくまのくま
- 一 岸のくまのくまのくまのくまのくまのくま
- 一 岸のくまのくまのくまのくまのくまのくま







あ、正花の心と生花の志をわづらふものなり。花の  
 生しきる所の形也。こゝの生花と云ふは、  
 立花師の手が投入の打込のよき生花の立花  
 師の志をわづらふものなり。花の志をわづらふ  
 こと、身がたつたものなり。七の枝と云ふは、花の  
 ありし生花のたつたものなり。花の志をわづらふ  
 大少と云ふは、花の志をわづらふものなり。花の  
 生るる所の形也。こゝの生花と云ふは、花の  
 山邊の生花の志をわづらふものなり。花の志を  
 わづらふものなり。花の志をわづらふものなり。

中央卓

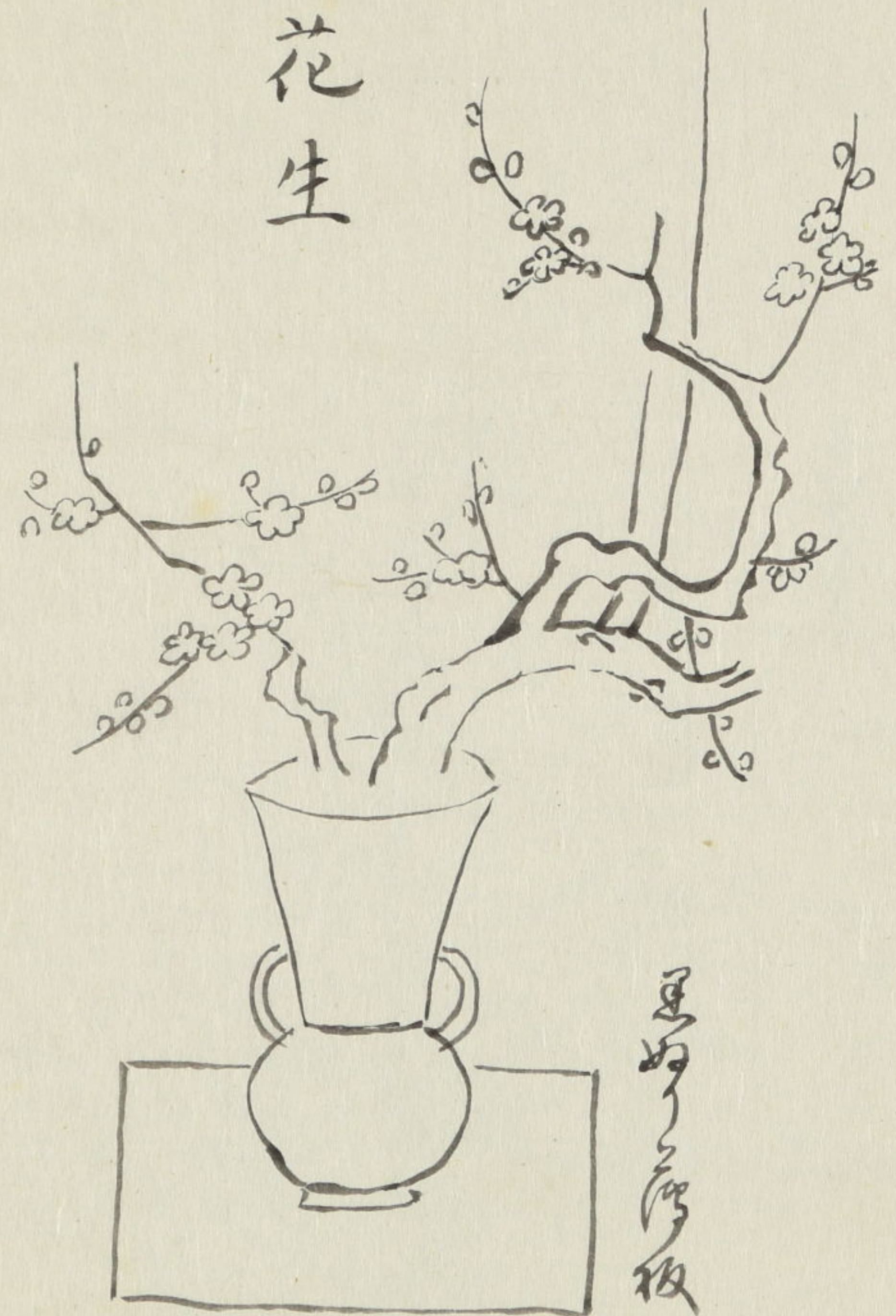


卓上花生



中口花生

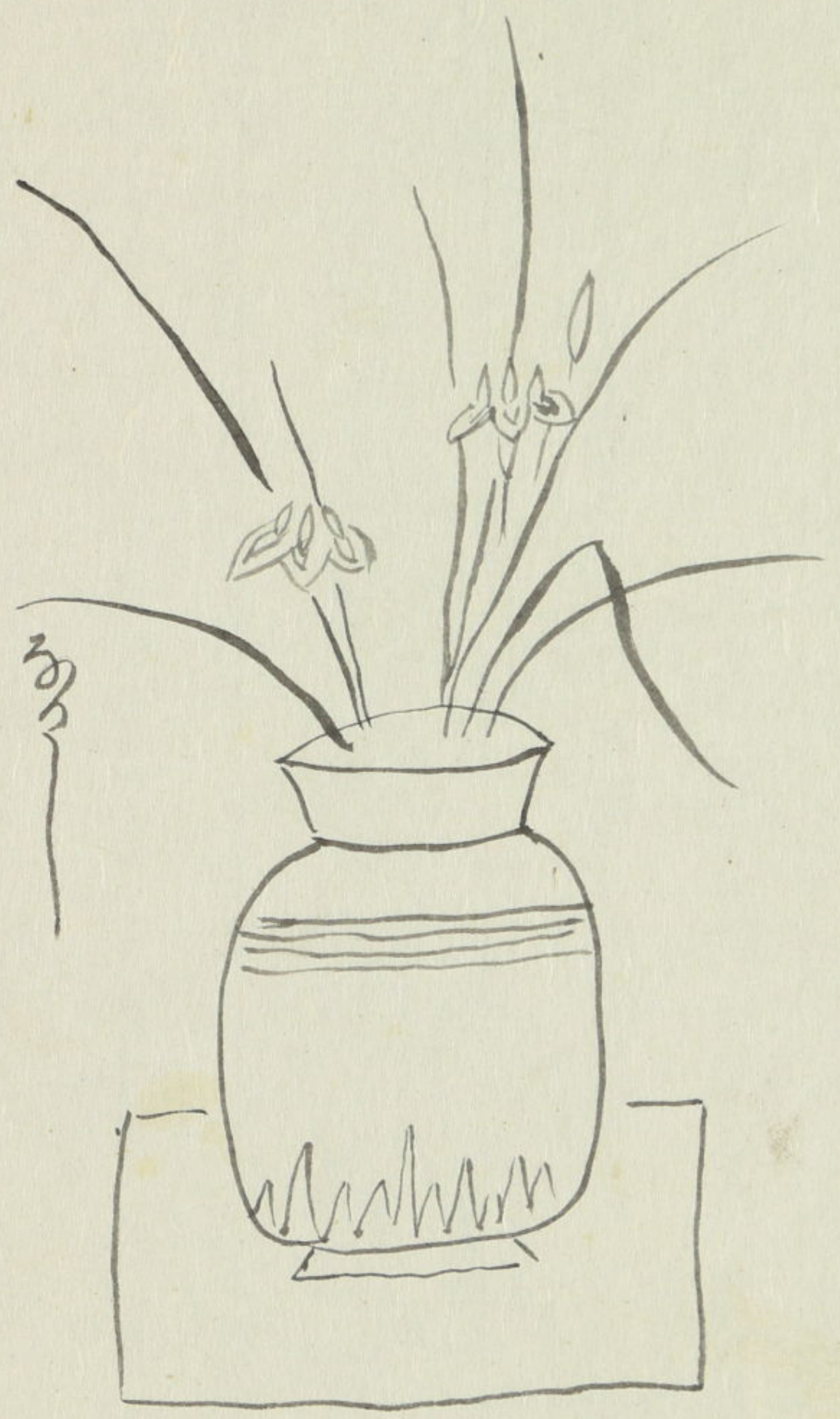
客古



思ひの板

洞串此花生抄巻一色魚の道のかた

客古





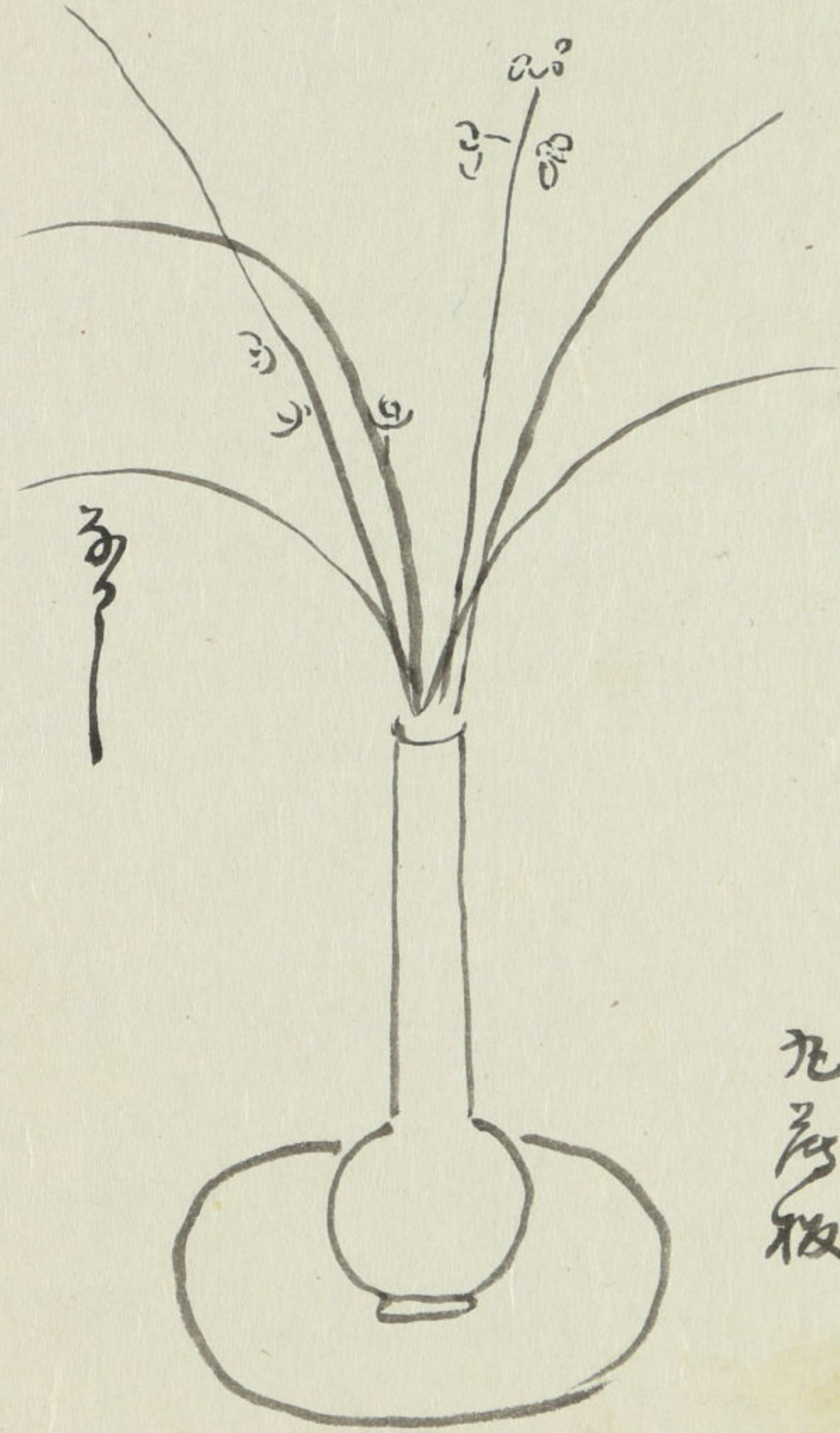
銀洞

荷石一色



細口花生

花生



九層板



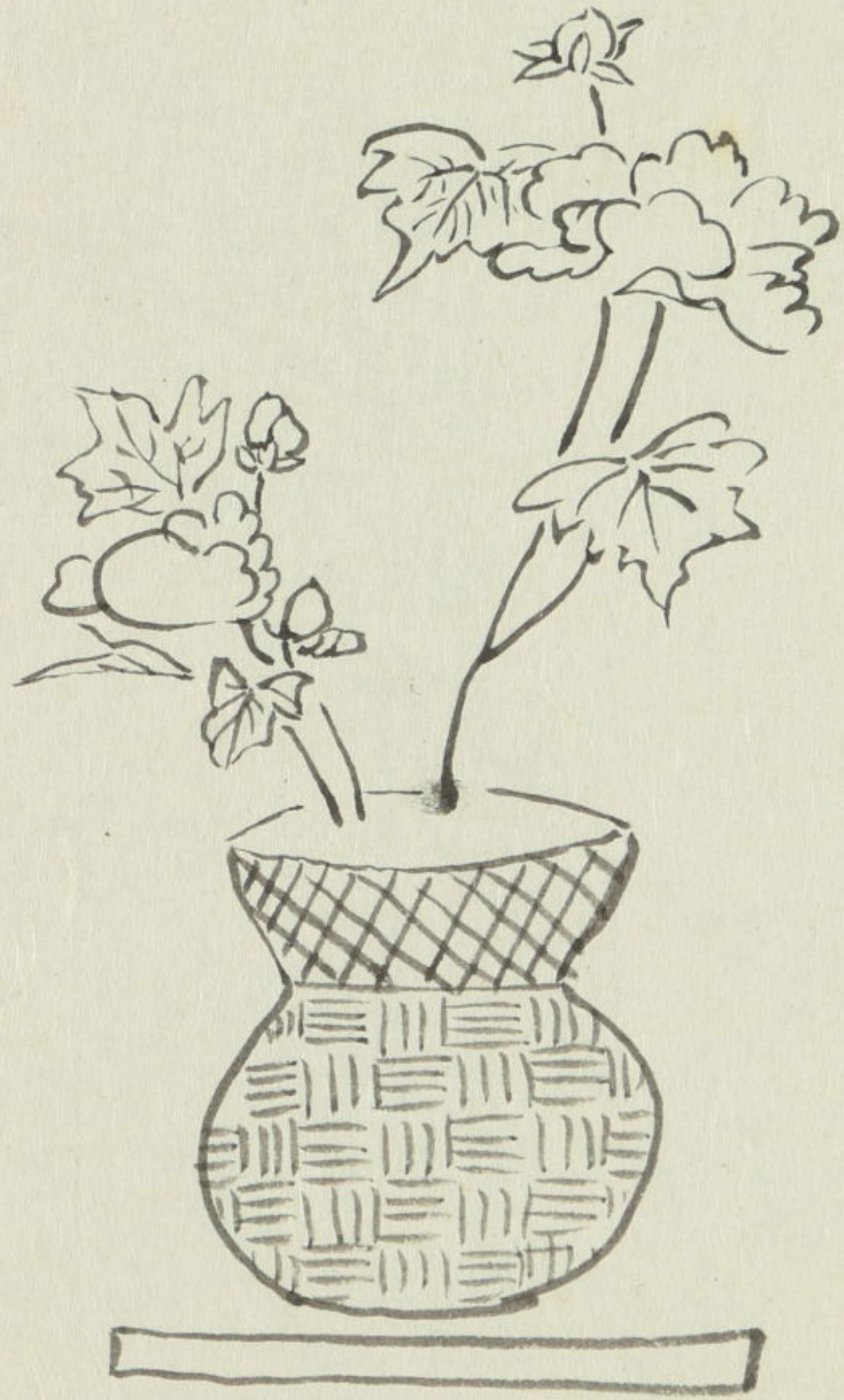
置舩



福寿草

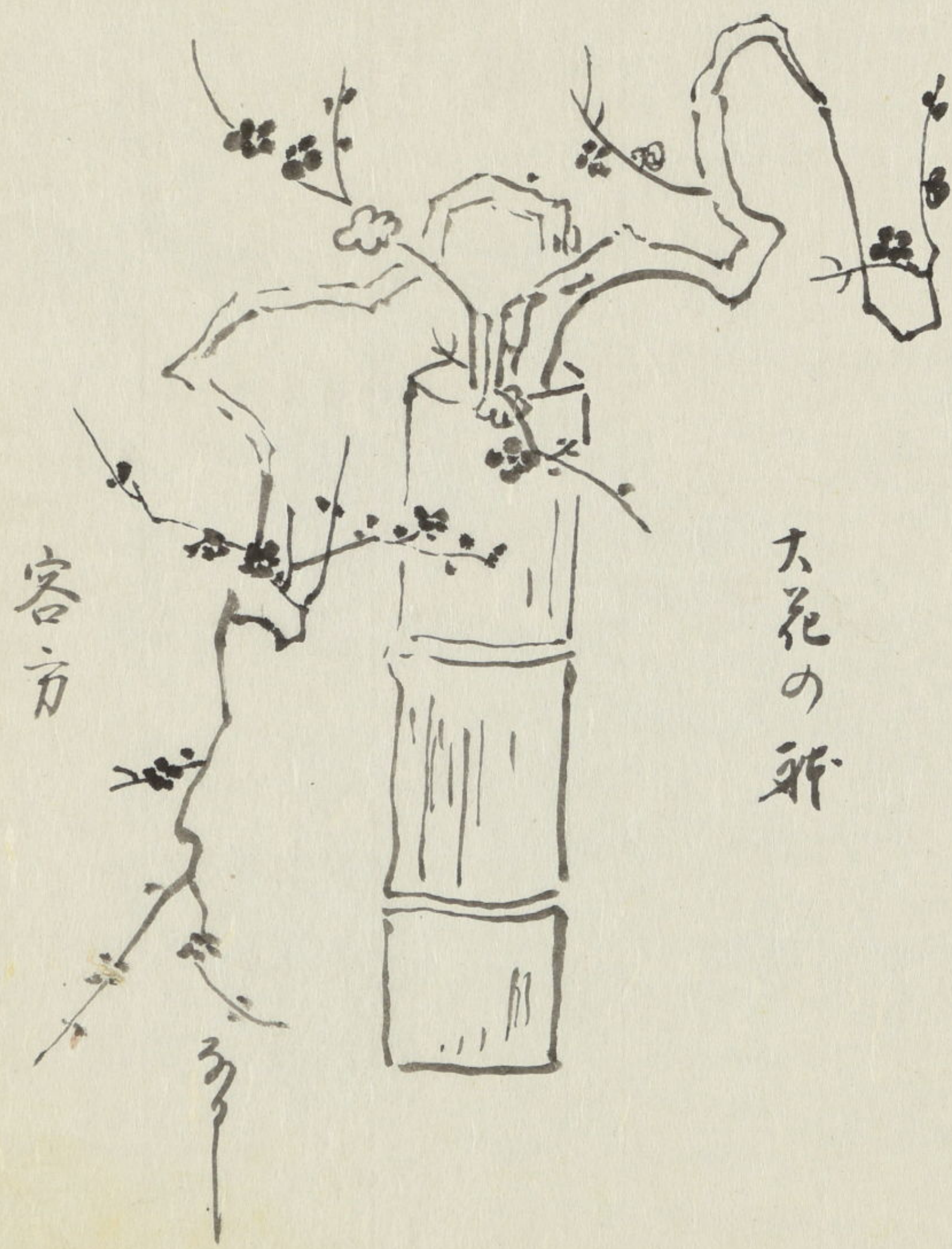
客方

置龍



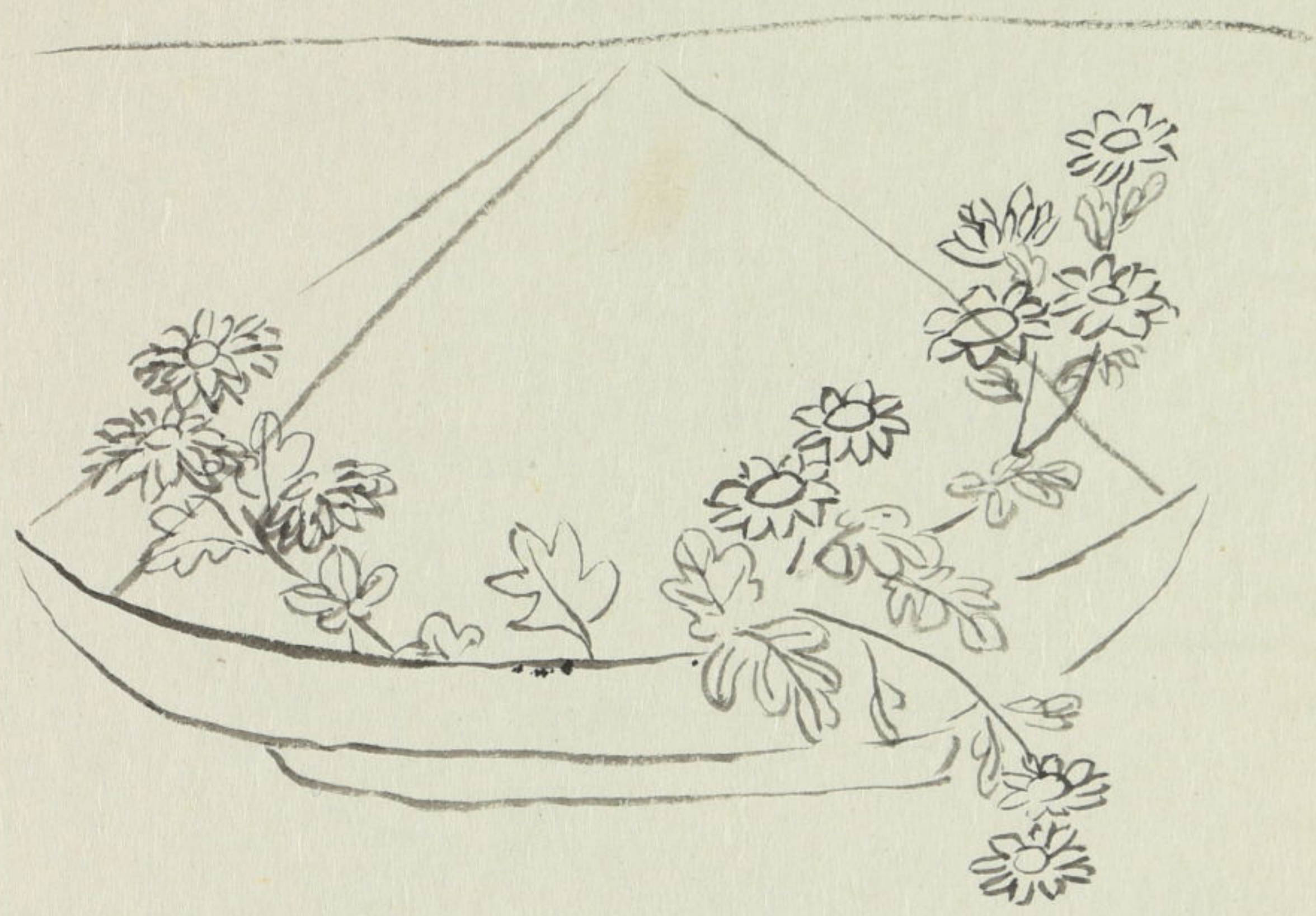
客方





客方

大花の新



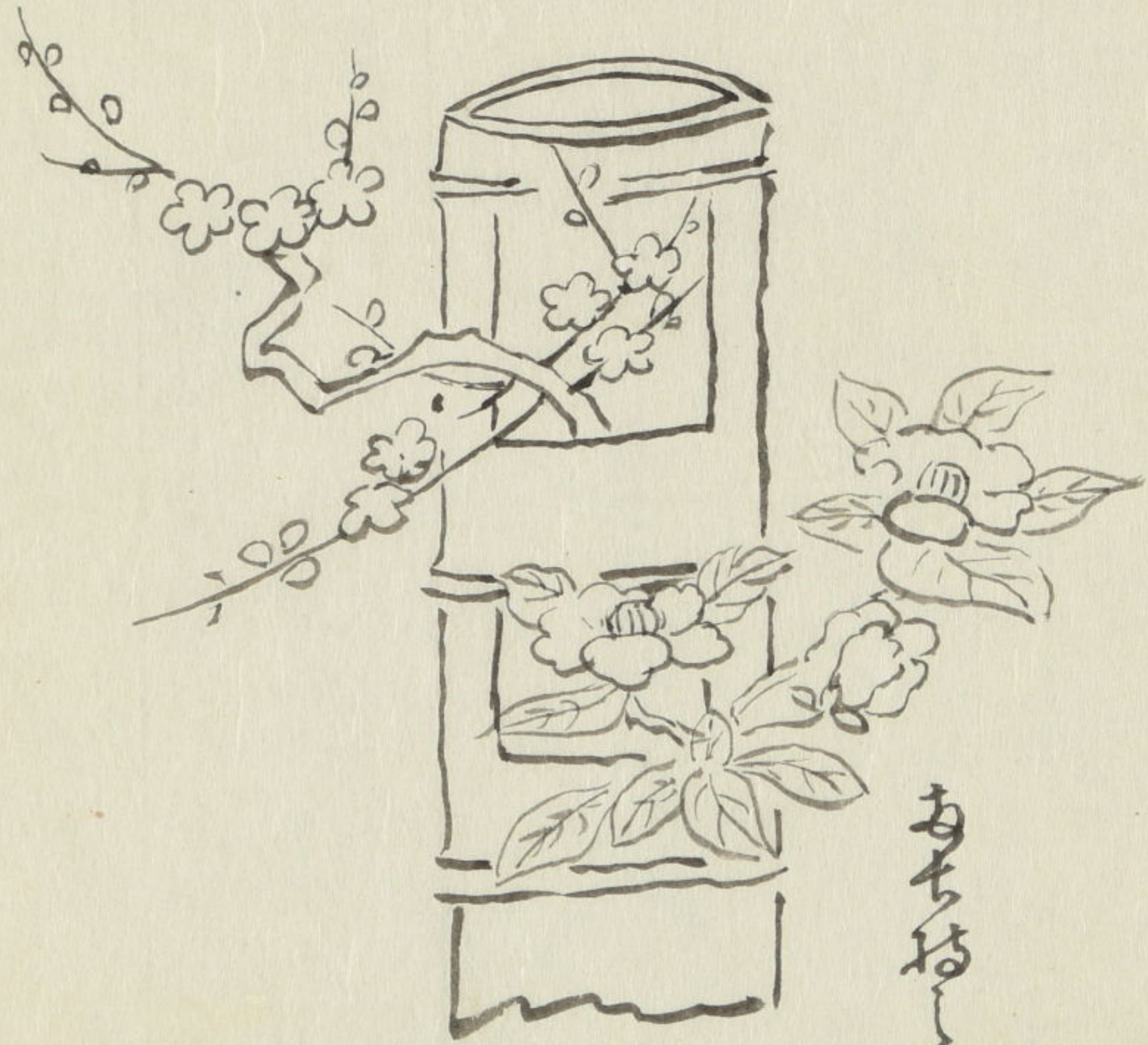
客方

花の年

大船



二重切  
懸糸入



お長持しお有

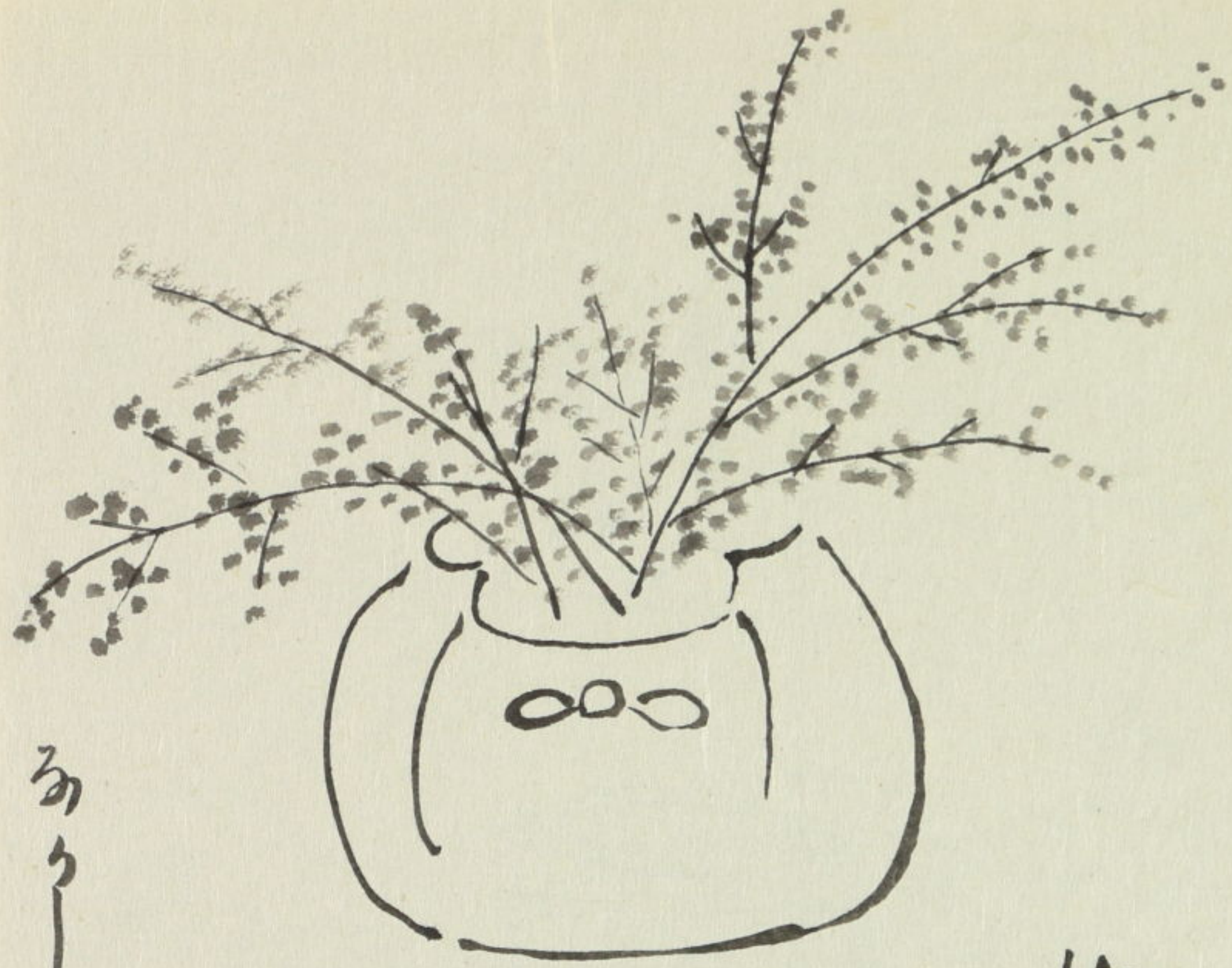


二重切竹懸糸入

若の一色  
たをく  
のわ有



大鉢花入



あけ

梅

中鉢花入



桐花生

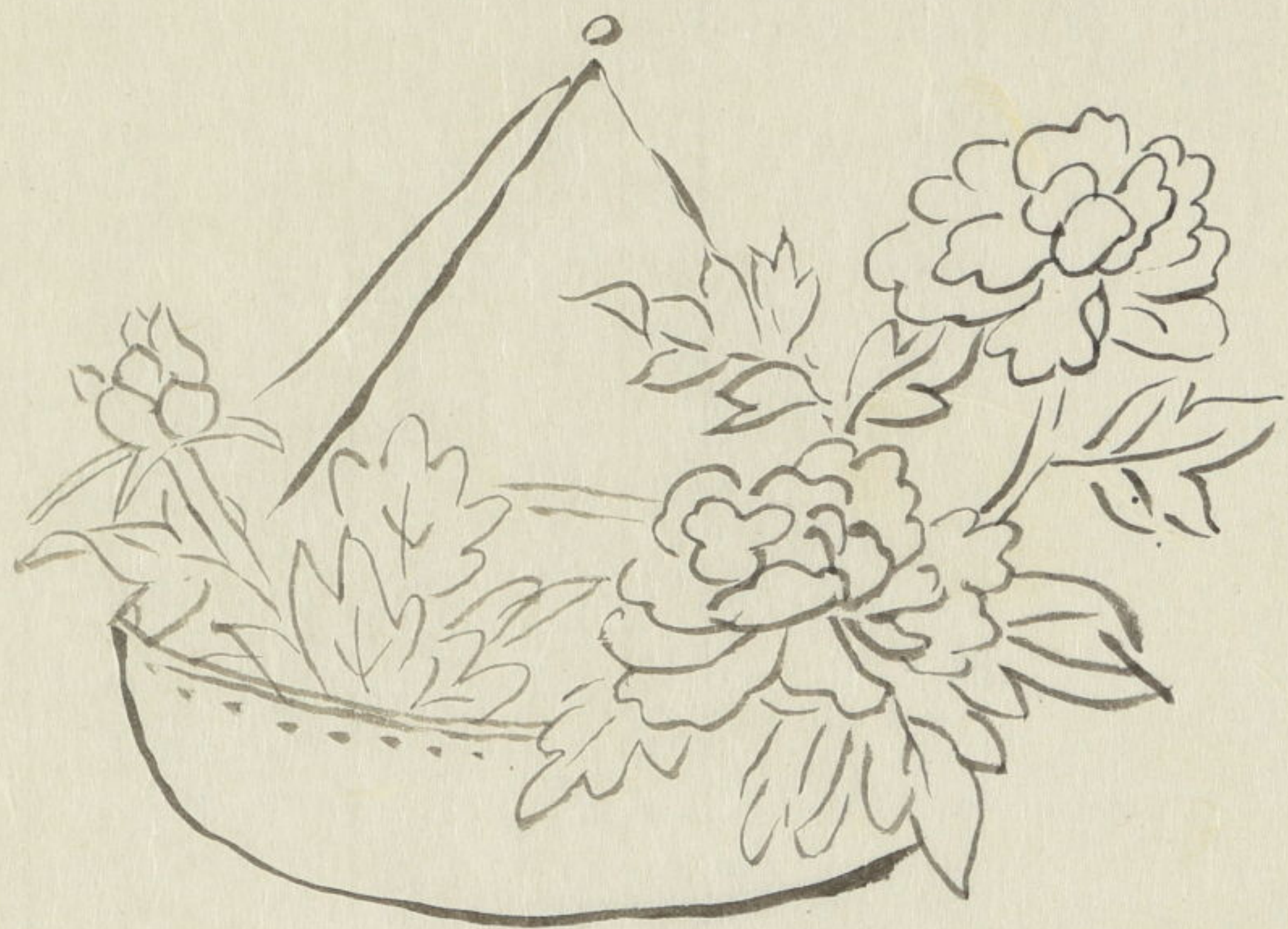


あまのつばき



たろひ びんごう  
あまのつばき

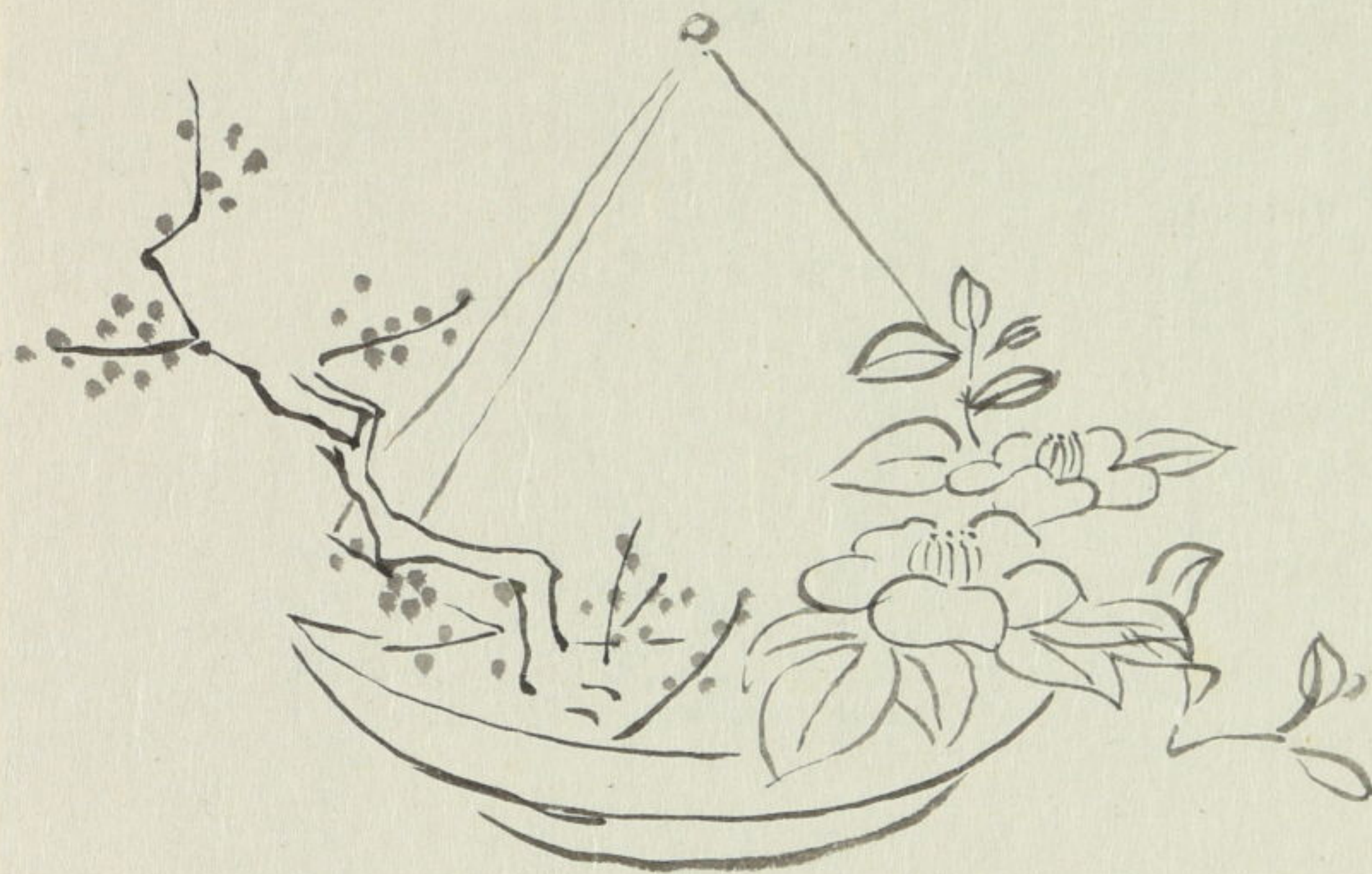




花舟

花舟

客舟



小舟

花舟

客舟















一 花の根を切るとは花も枯る

火の音に面をひりませるゝ或人ぬゆ

一 生る花ハ身ハ去枝と申すは深きひりて花の

つるを合と申すはとら大夏に花の二日の長きゆゑに

花を切らばするハわり子も成さぬと花は自ら枯る

切者のこと也

一 根ハ切らば根と大いなる根を津岸ハかりと

もいへば根のあらにふくむとふくく水を

う花も枯るなり

生の中にも水にほるといふこと

一 蓮は葉ハ河骨は枯れやと水も枯るなり

まうの葉も根とらるゝとわらふと

一 仙居花ハ花ぬとらるゝと口と申すは

たら割たるゝ水とらるゝ花ハ

つる

一 花の輪を切るとは花も枯る

つるに身ハ切らば花も枯る

一 何れも切るとは切者ある人と他人のちり

性なるよきと池をのちす

花とあしに

有るは有る子の有るゝ

るる子客收り



中まゝのうらみの矢急の物見花のなほは女とわかち  
してゆ米をき給ふ身と名残の世とてはあ  
らま月海の中入とて見えは花の掃子  
五入徳内身とてはき給ふに幸とて種とて  
まの心腹とて思へては給ふるまの心腹  
徳内身とてはき給ふ人の生らるる世とてはあ  
空とて生らるる世とてはき給ふるまの心腹

一 対しよと 性時事とてはき給ふるまの心腹  
性の中身とてはき給ふるまの心腹  
花内はき給ふるまの心腹  
よらるる世とてはき給ふるまの心腹

一 対しよと 性時事とてはき給ふるまの心腹  
性の中身とてはき給ふるまの心腹  
花内はき給ふるまの心腹  
よらるる世とてはき給ふるまの心腹

一 或身 花入にまゝとてはき給ふるまの心腹  
花入にまゝとてはき給ふるまの心腹

一 席とてはき給ふるまの心腹  
有宝とてはき給ふるまの心腹  
少とてはき給ふるまの心腹  
定とてはき給ふるまの心腹

一 法子成を物つけの行を極めとてはき給ふるまの心腹



















ろの程白き粉の——  
すりこぎ

一 白炭のまろしき云に炸すく白炭の炭時行す  
灰を切こす

一 或日會諸金を炸かるに、  
まじりたるまろしき有むる里より——

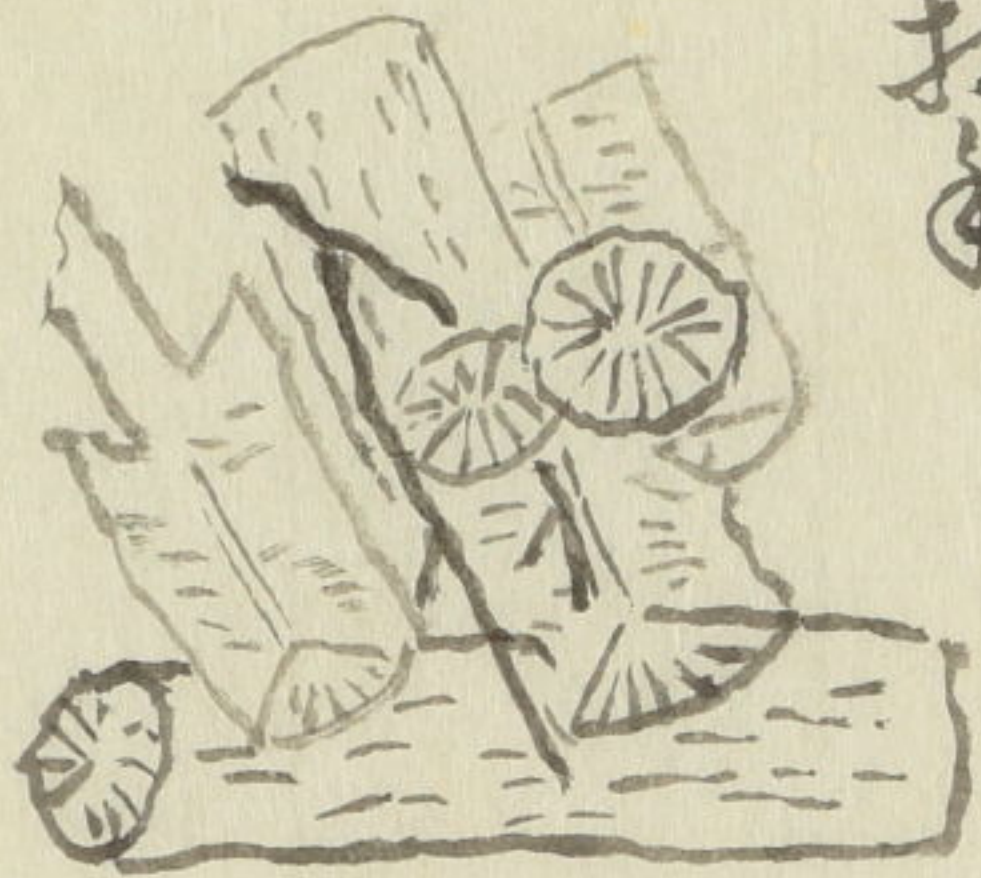
一 霧房の梅根草を炸物に油入ぬりて  
のこすまろしきをけりこすを竹ぬりて  
ぬりひぬき目れぬ

一 香合にまろしき入に——  
まろしき粉が——

よの北炭形

一 五角

丸ま丸おま



向是北炭形

一 五角

丸ま長別炭



割炭之中輪一

白炭印也

大輪小輪白炭板

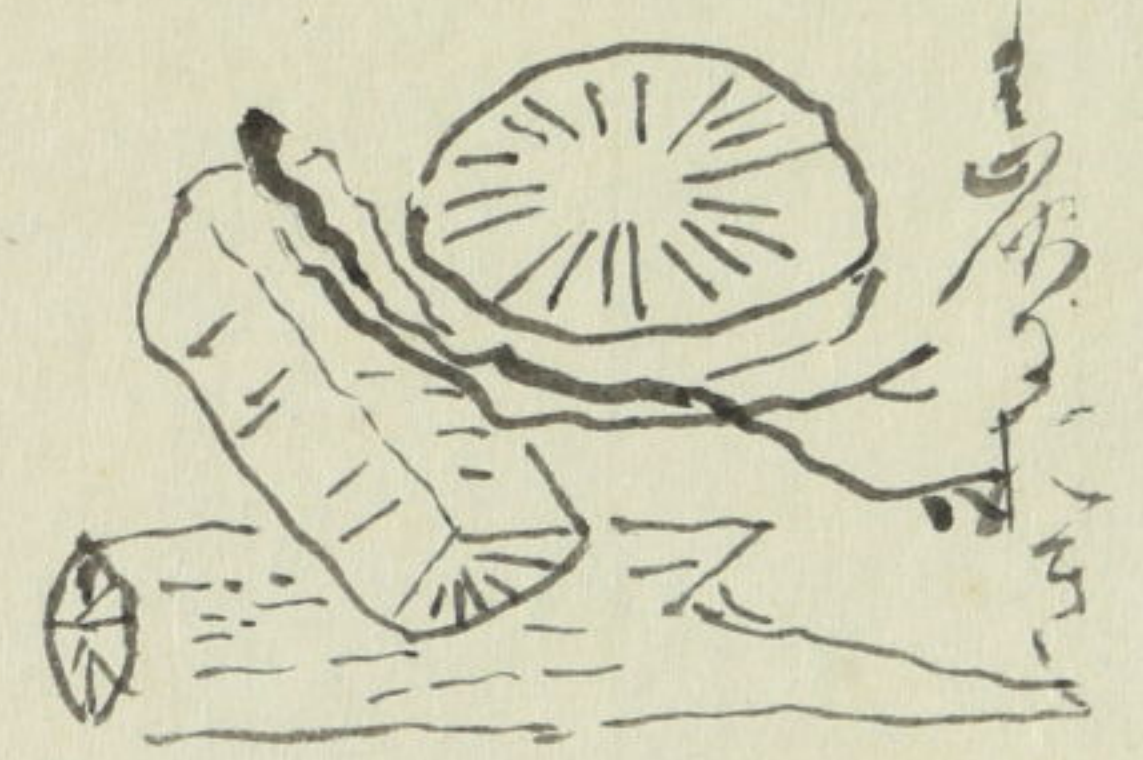
印也



葛根の立切形

一三ノ用

葛根の立切形

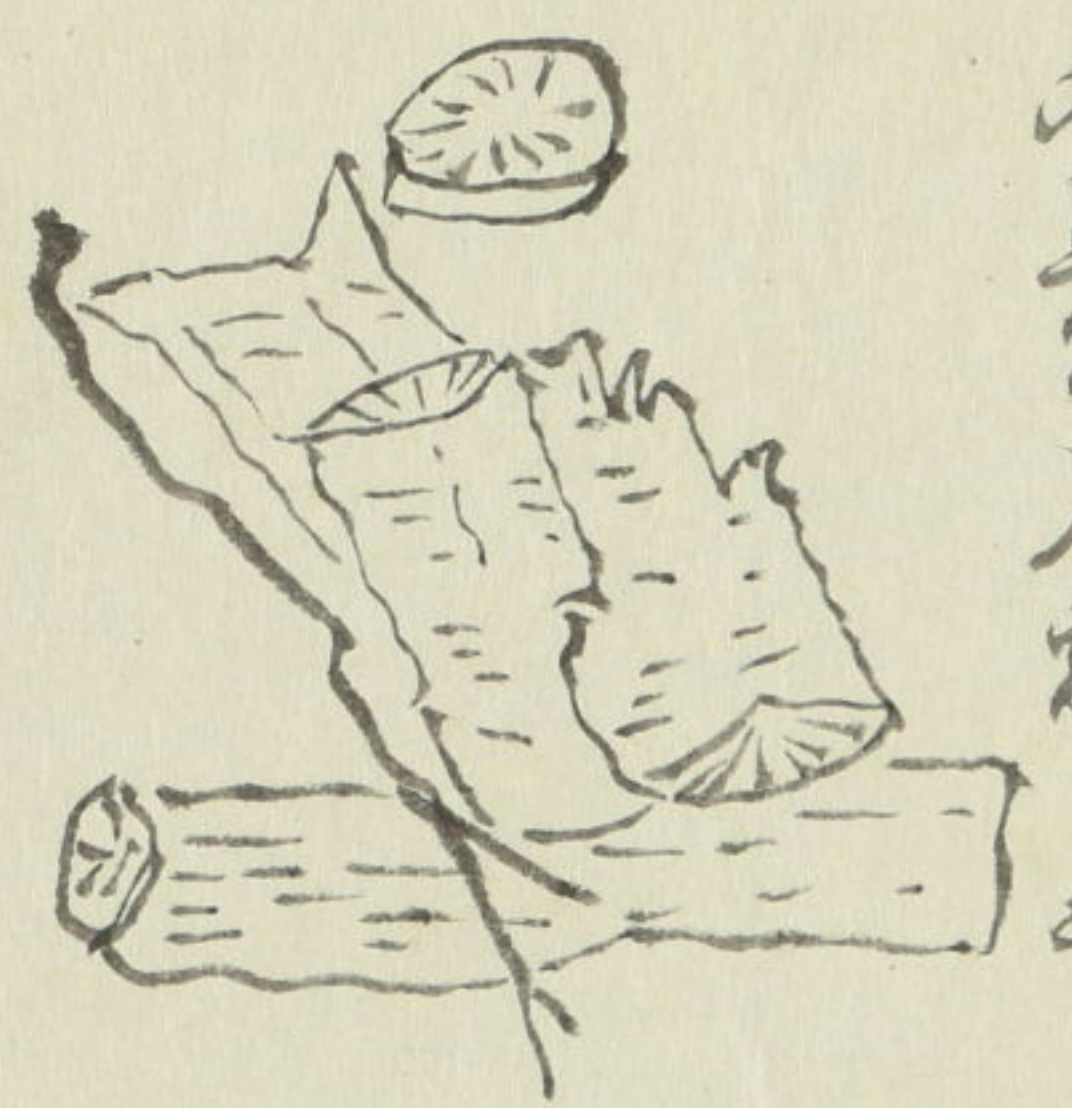


つき形の大輪方切  
白牡丹の立切形

別首此居形

一三角

丸形大刺ニツ



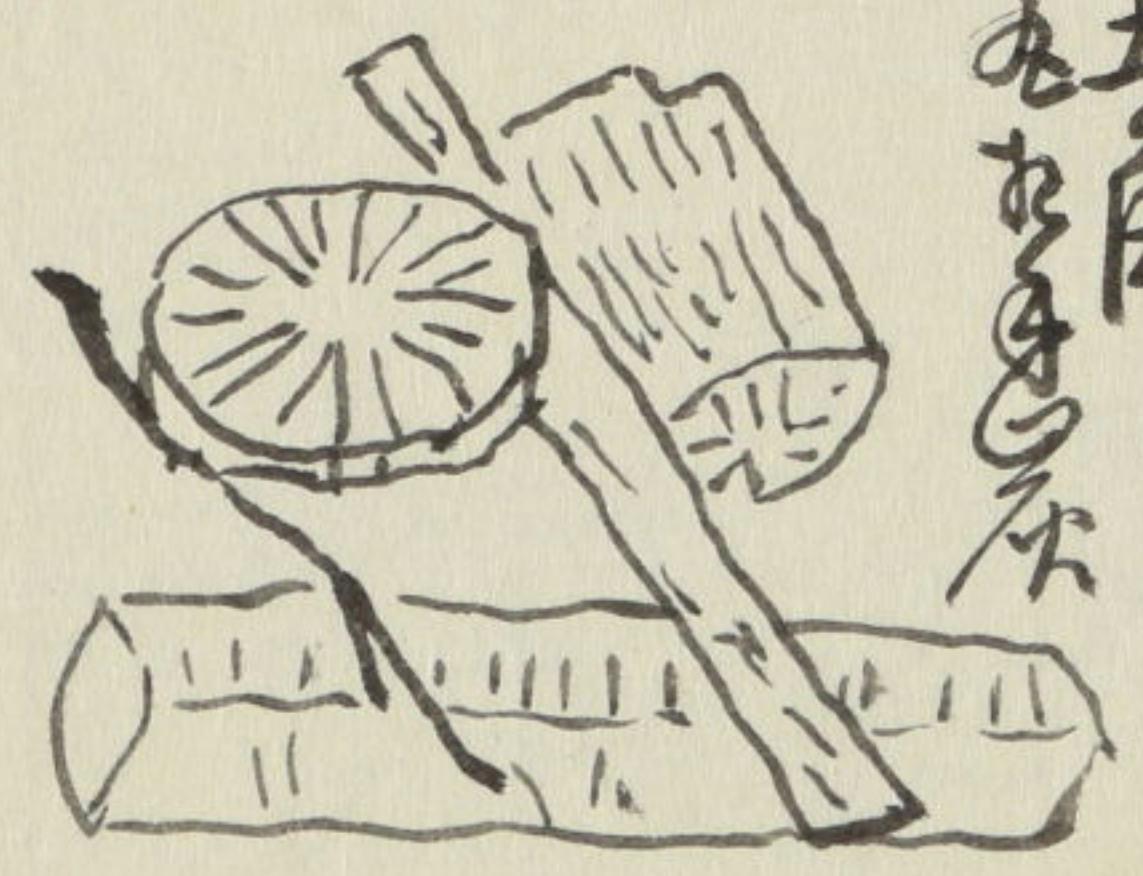
七輪長白枝居

楸葉居形  
一三ノ用



大刺是灰切居枝白  
大輪居形

別首居居形  
一五ノ用  
丸形居居



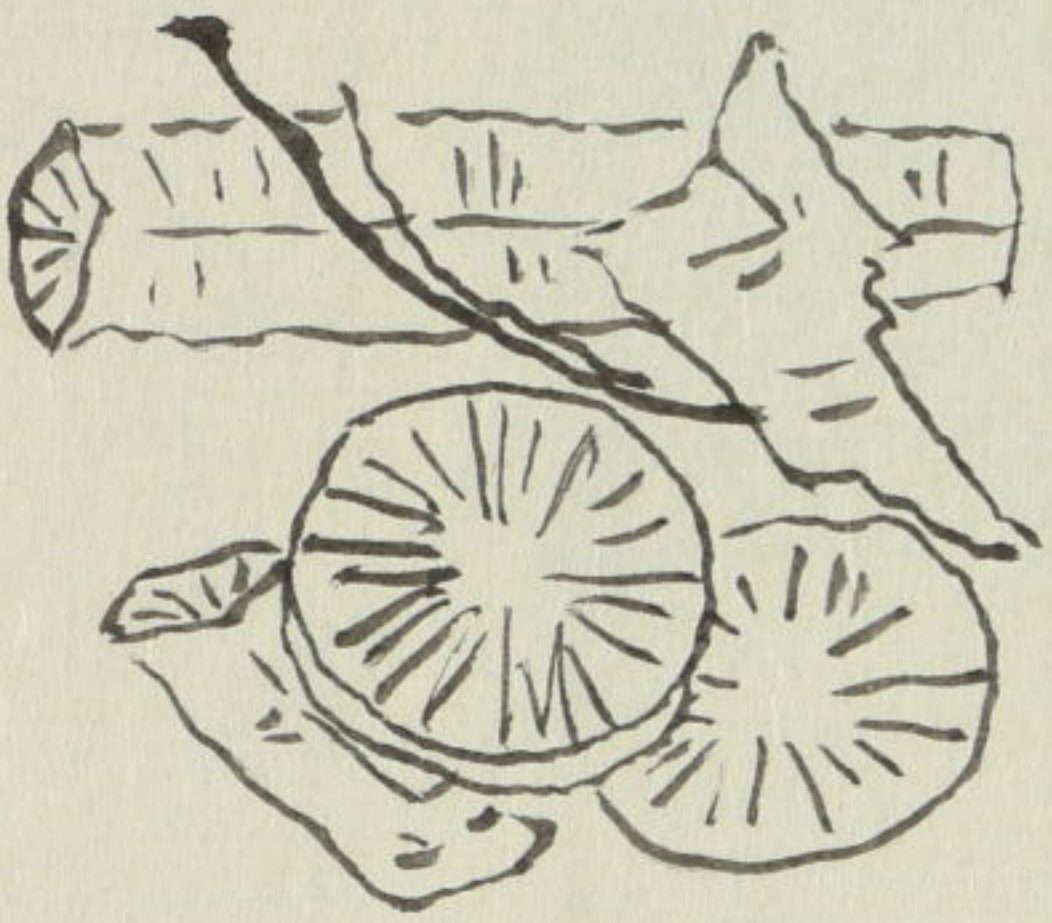
大輪細居白居居



輪遠尾散

一斗角

割基おしあ一六輪二ツ



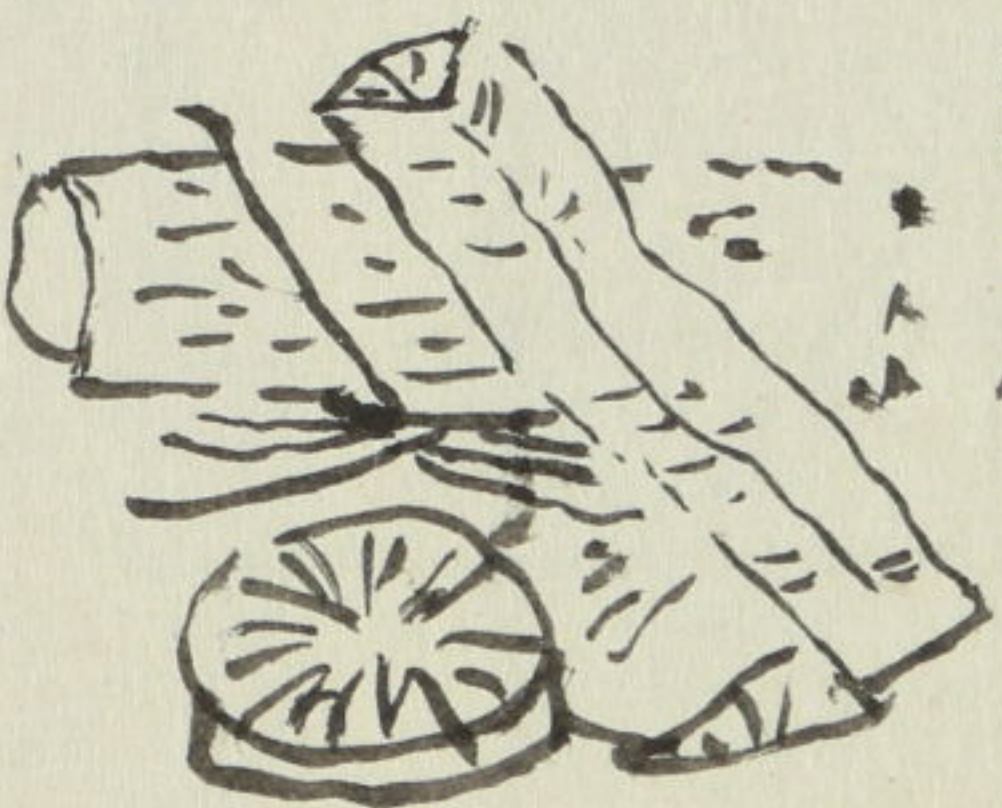
白尾尾散

相子者此尾散

一斗角炭と白尾尾散

はて斗角より多

長割基おしツ

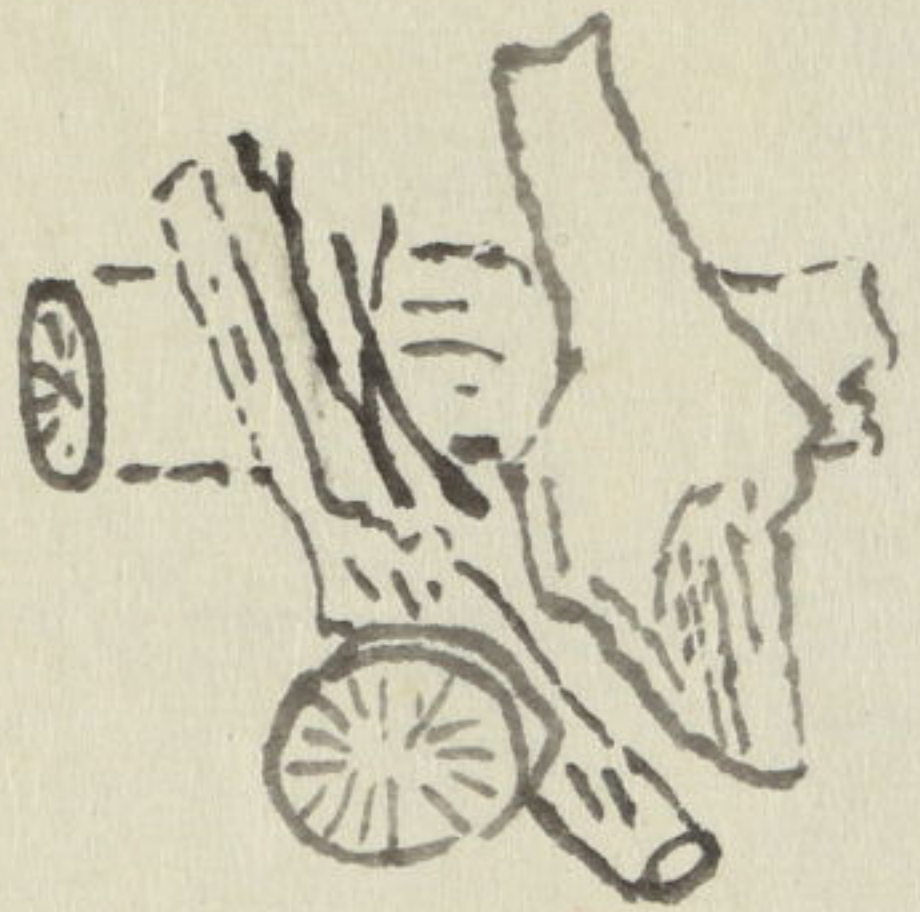


又斗角は五斗

白尾尾散の尾散

一六角

白尾尾散細炭

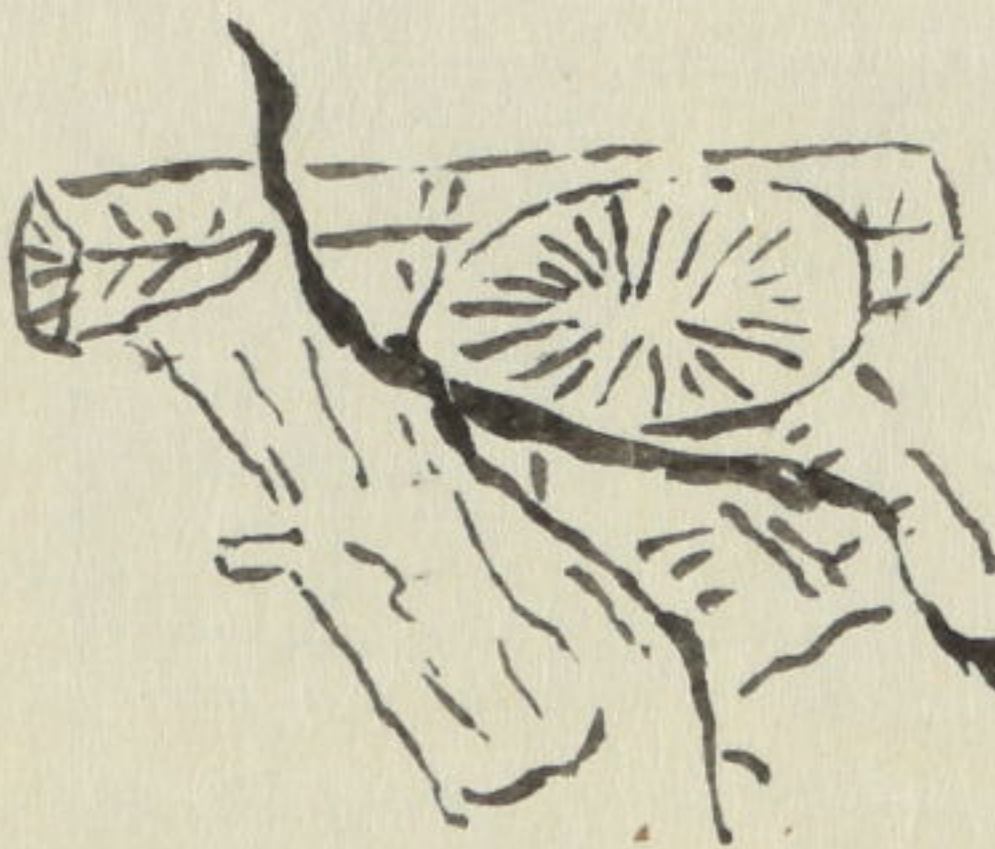


中端白尾尾散

横端の尾散

一斗角炭と五斗角と炭

割基中九斗



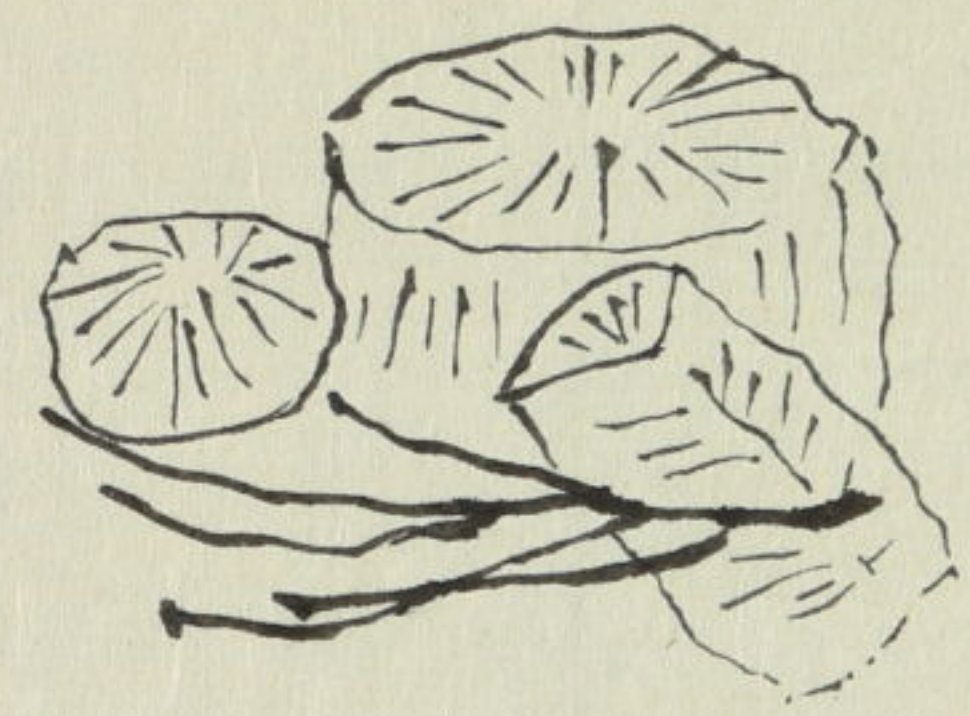
白尾尾散



向棧扇房形

一三角

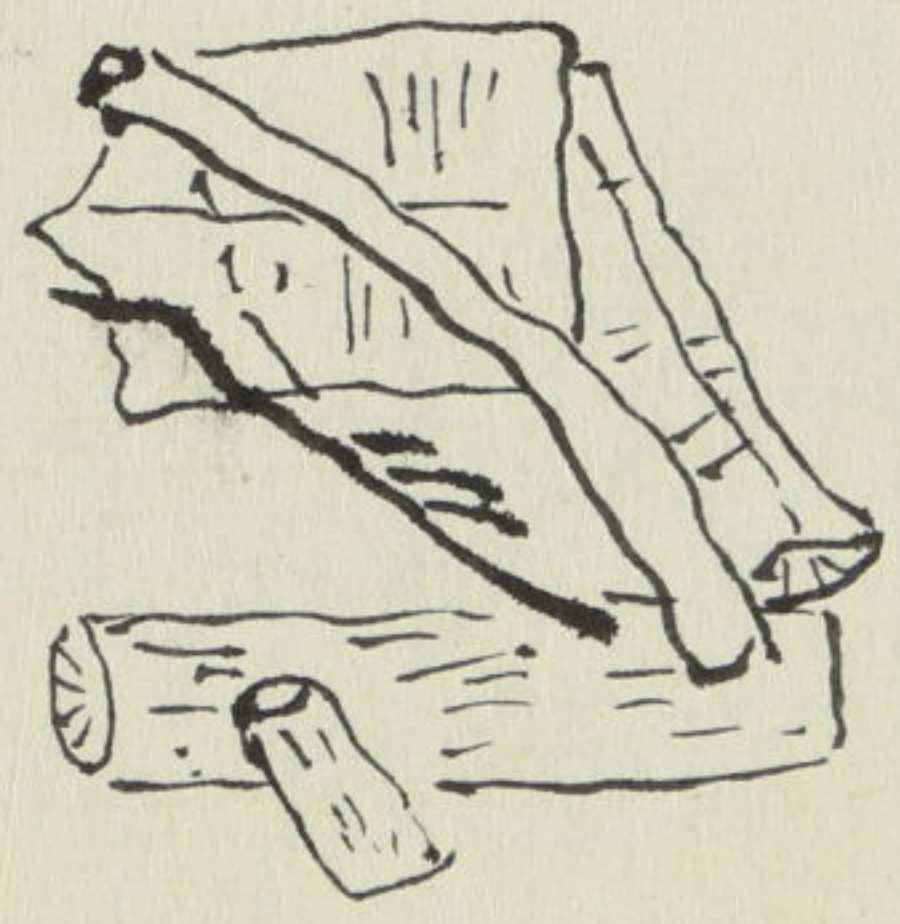
半房大割



只角房島江此房形

一五角

九房大割桐子



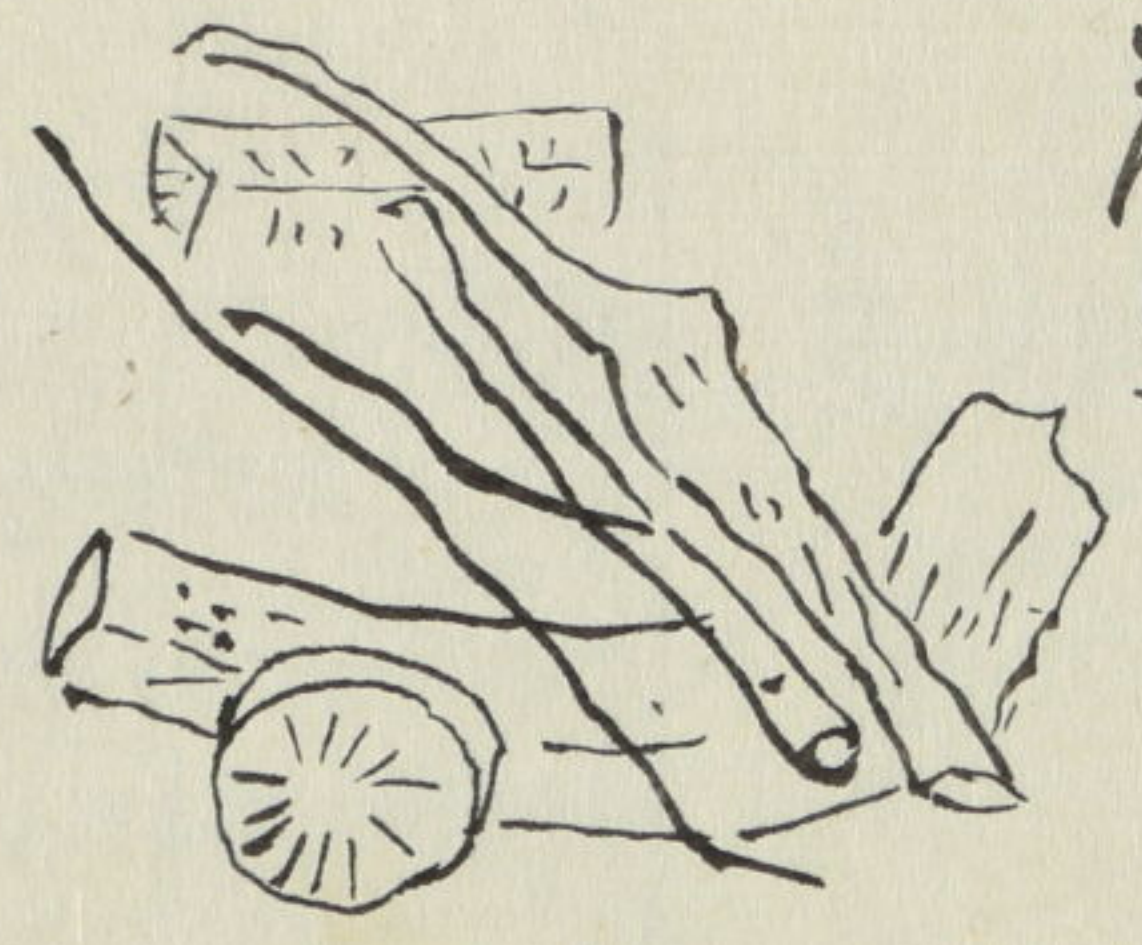
白房大割

只角房島江  
輪房形

曲房此房形

一七角

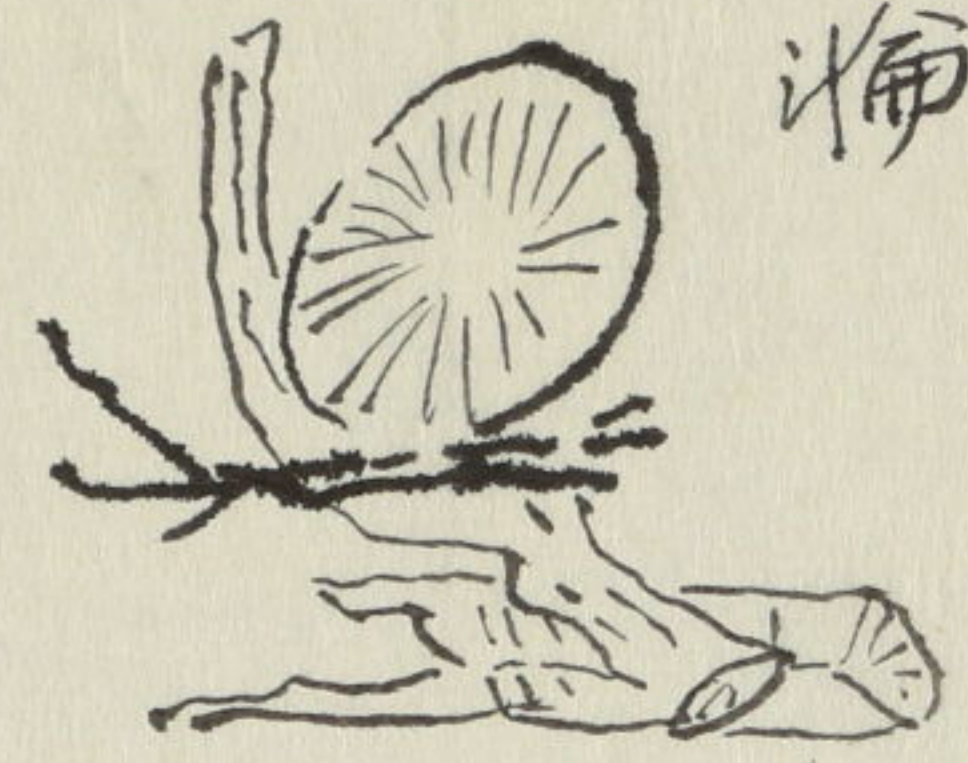
細房此房



扇房の五房の形

一二角

曲細大輪



白房此房

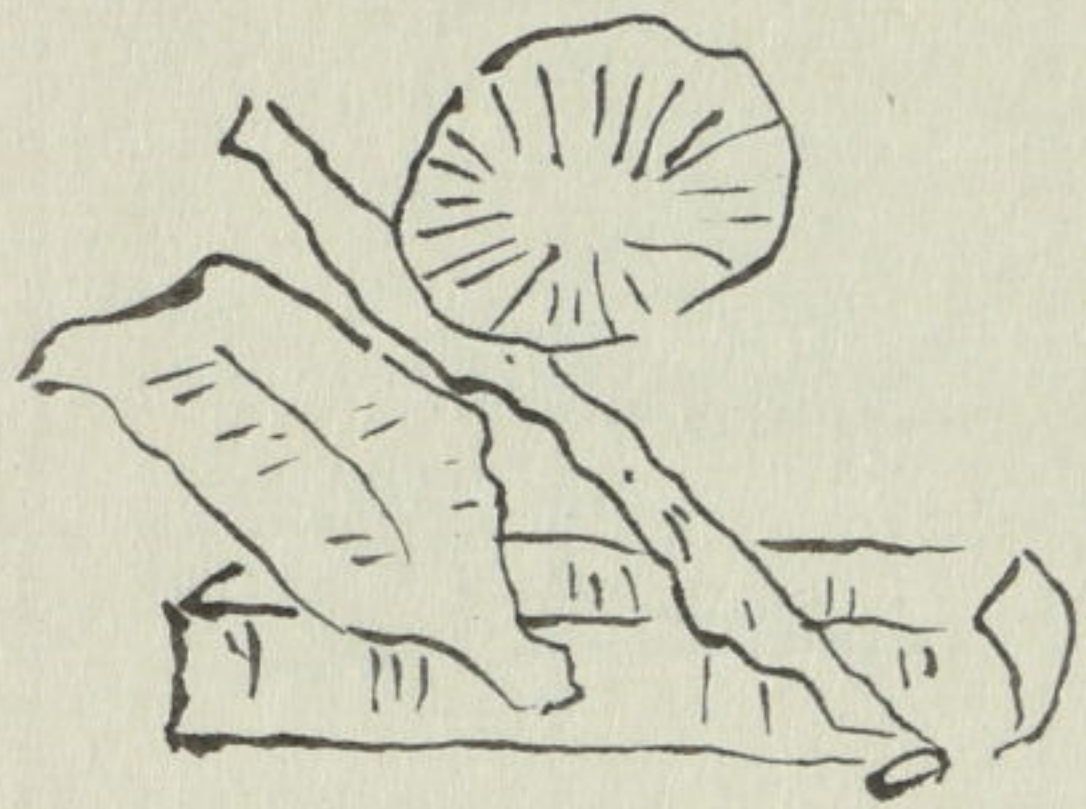
只角房島江



割る片形

一五角

ワキ道おの細片

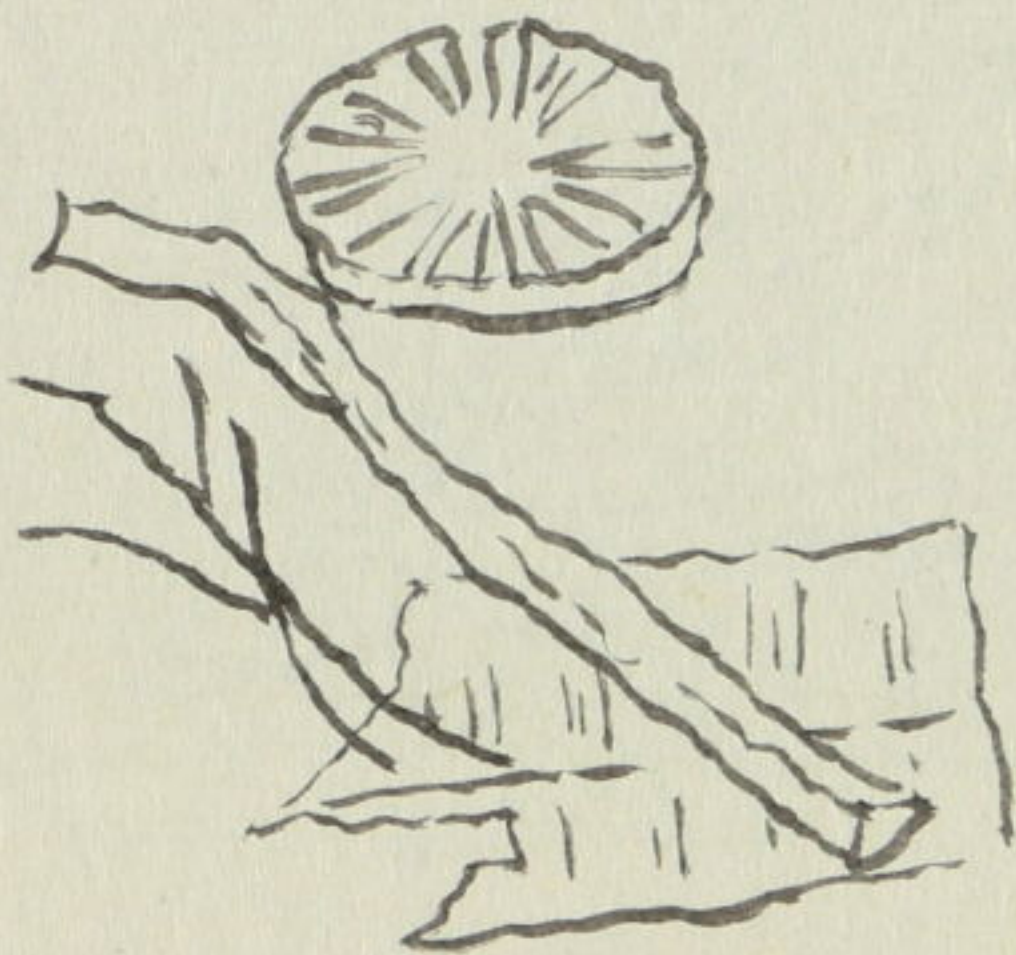


大端白片のせ

おの片の片形

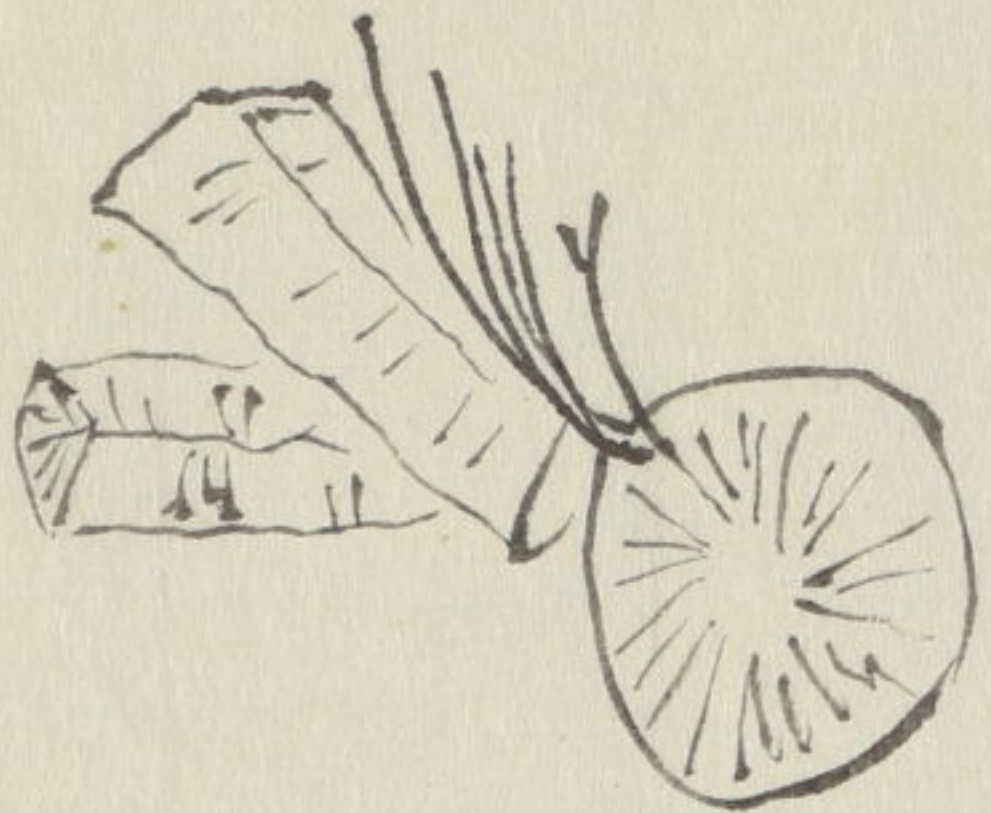
一三角

大割おのせ片



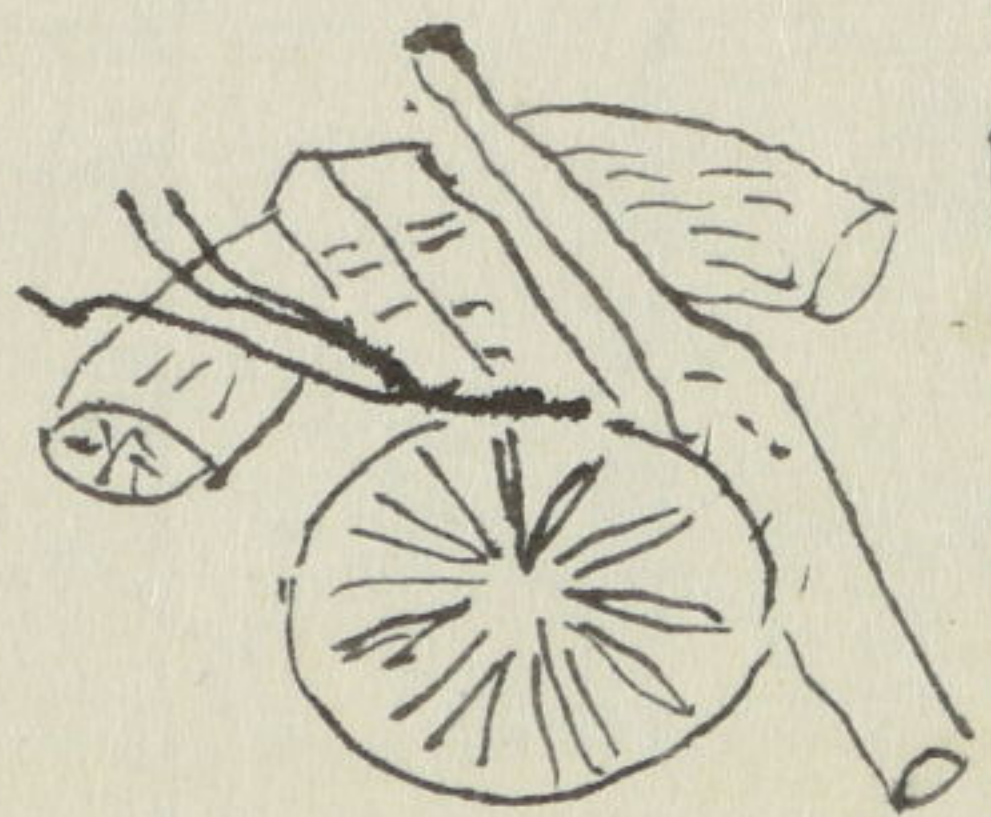
大端長細片白片  
四片

大端おの片形  
一二角  
大割の



白片のせ

白曲片の片形  
一五角  
大端長細片



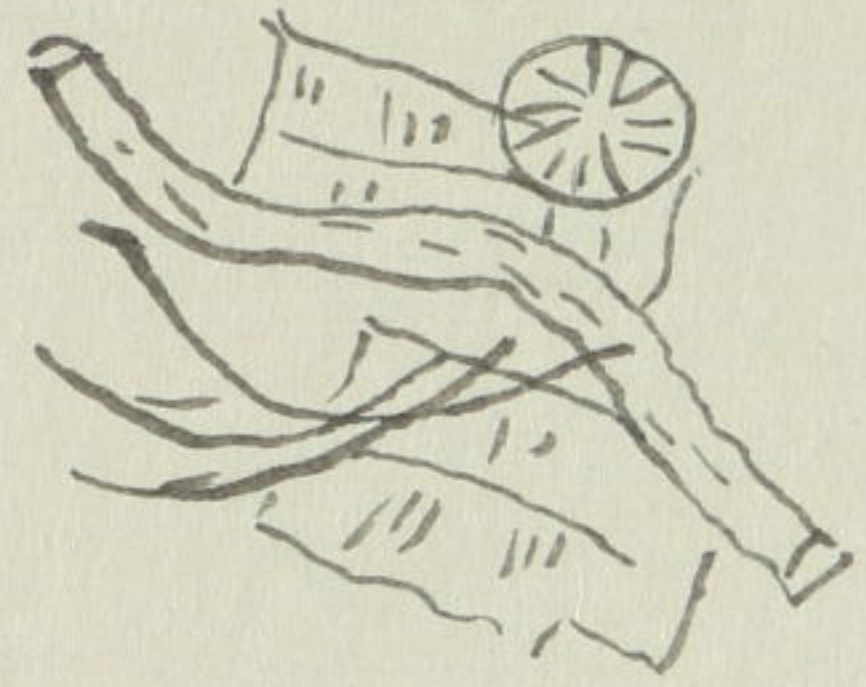
白片のせ



五房を全

一斗角

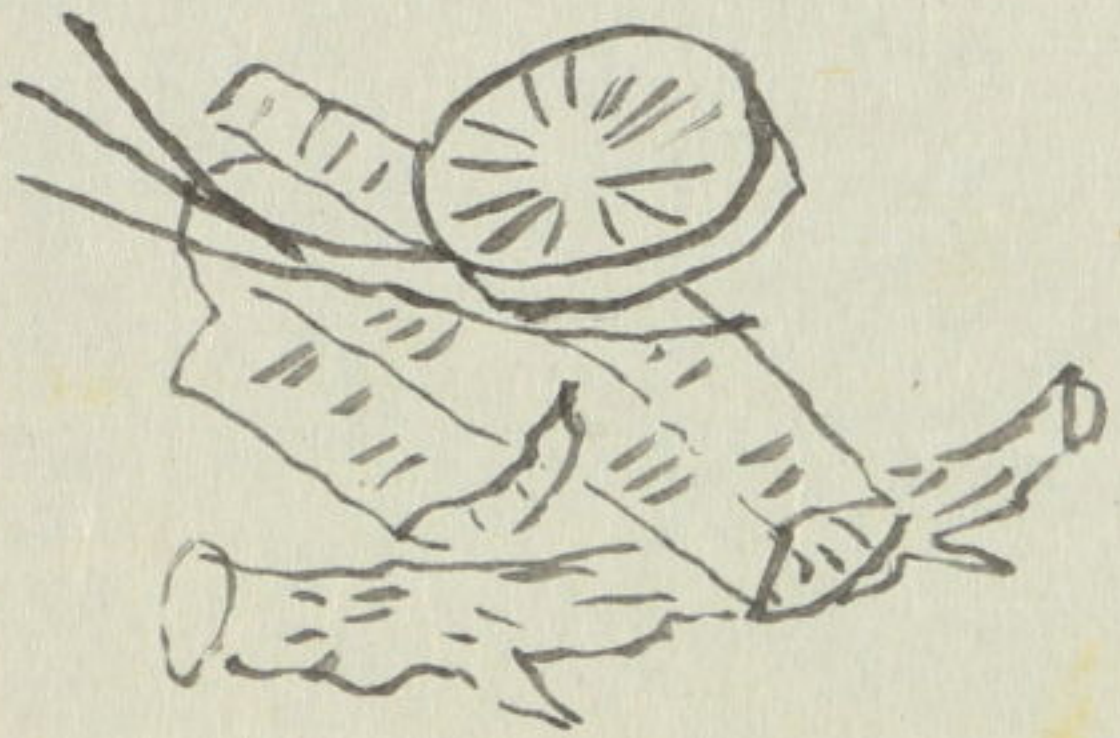
大割山曲り細切



枚居の口片取

一斗角

大割七列居



中條の口片取







一 好の房を切ハ角が一尺の先迄ある事ハト  
又ハ二寸内共半をむつくりせしむハすなり  
と何の事カ丸を心よ〜と申すなり

一 丸座ハ房が凡七二寸半下内角く共半をすり  
一 一房のやうにす〜自立領の時に谷のとき  
守ハ下端は谷ハ好縁ハトよその座と入る器  
谷ハ好縁がセト下々七挿板の挿事足合する  
好〜丸座と入自立板ハ好縁と〜と〜  
のり好〜すなり也

凡座の座切法

一 丸座の凡座の縁事下下座を依〜

一 細ハ谷ハ腰す〜と凡座の四ハ〜  
〜法は定り〜大形と〜  
丸座のよ〜と丸座の丸座事下  
一 丸座ハ反むつ〜と丸座の丸座合〜  
〜と丸座の丸座〜丸座の丸座  
丸座の角ハ仕〜又一方の丸座の換事  
〜と丸座の丸座

一 房の仕法ハ一方ハ〜一方ハ〜  
〜と丸座の丸座〜丸座の丸座  
丸座ハ向縁〜丸座の丸座  
一 丸座ハ向縁ハ丸座の丸座



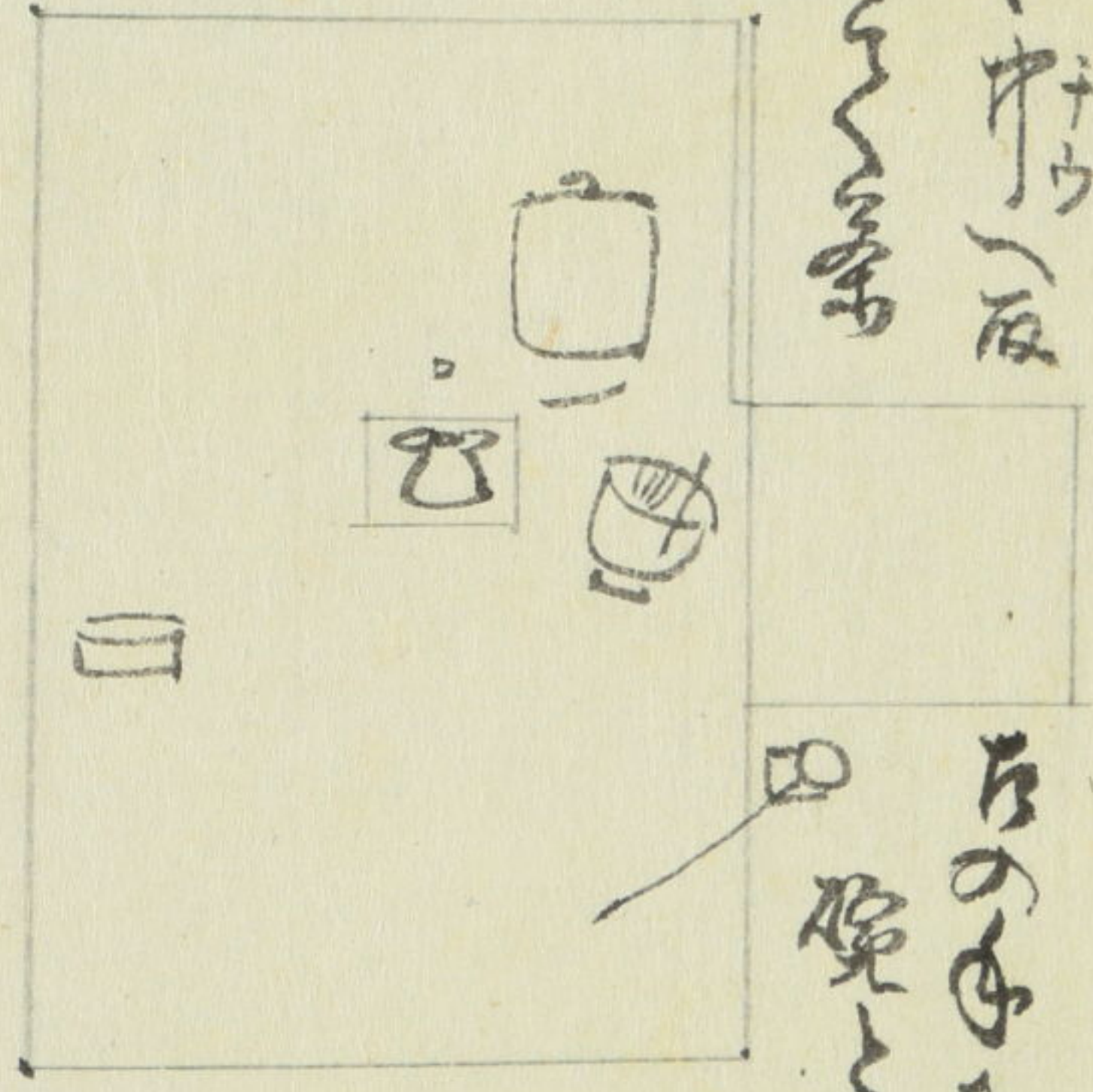








毎朝のしほ緒とまて中少  
 茶入のしほ緒とまて中少  
 杯のしほ緒とまて中少  
 茶入のしほ緒とまて中少  
 杯のしほ緒とまて中少  
 茶入のしほ緒とまて中少  
 杯のしほ緒とまて中少



切あるては福の家の通しよま又帛を改むを  
 石上茶入と巾の帛に懐中しと有ては茶の  
 茶入と巾の帛と有ては茶の  
 茶入と巾の帛と有ては茶の  
 茶入と巾の帛と有ては茶の

まては蓋のしほ緒とまて中少  
 茶入のしほ緒とまて中少  
 杯のしほ緒とまて中少  
 茶入のしほ緒とまて中少  
 杯のしほ緒とまて中少  
 茶入のしほ緒とまて中少  
 杯のしほ緒とまて中少  
 茶入のしほ緒とまて中少  
 杯のしほ緒とまて中少  
 茶入のしほ緒とまて中少  
 杯のしほ緒とまて中少







如常親道を以てては、  
是より不存  
一、如常親道を以てては、  
如式なり

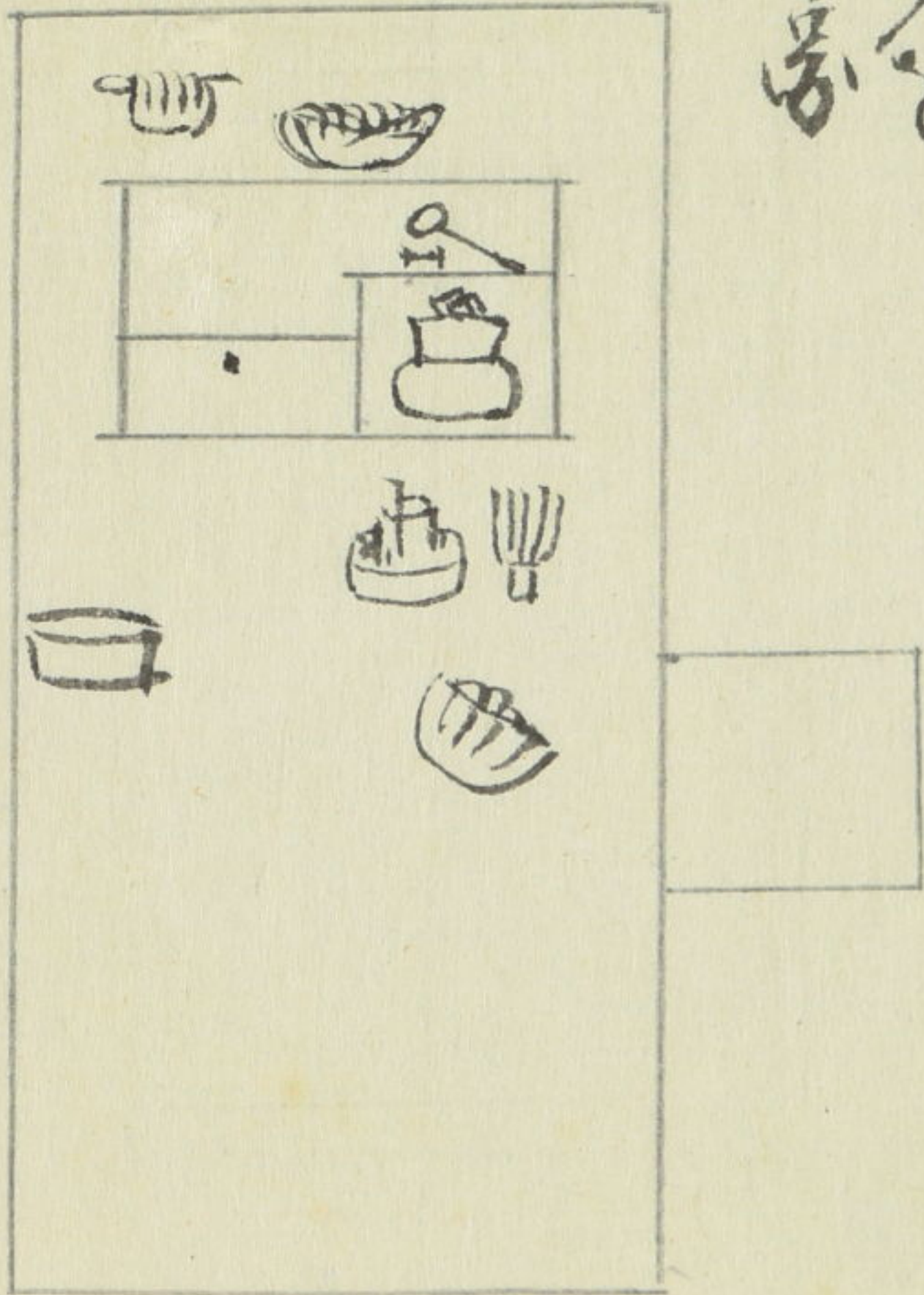






上成茶入と水持のまゝにわらう——いさう居候て  
 四杯の時直とて銀茶入と  
 右と袋巾掛候はぬ家

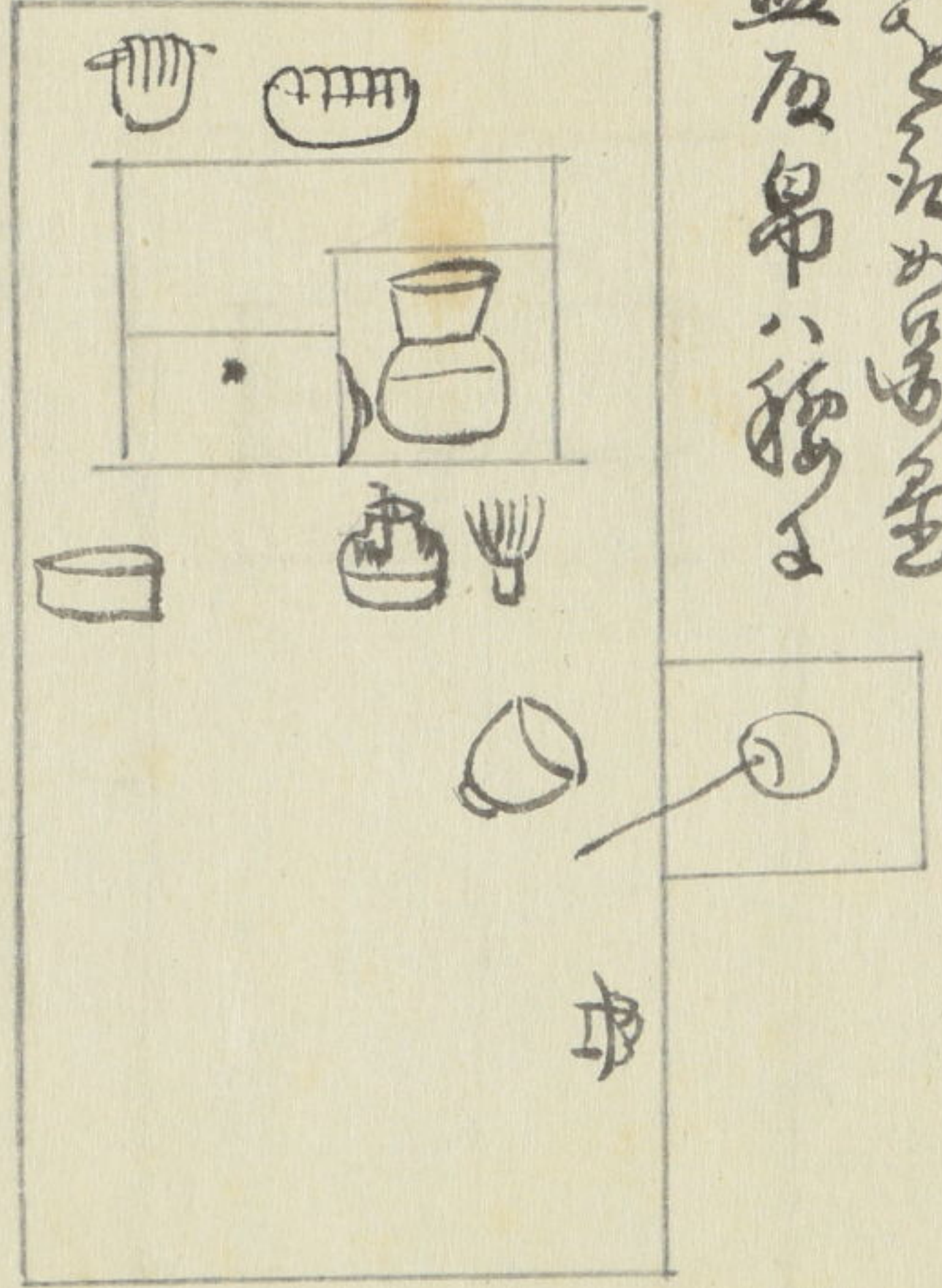
相上帛なる出——茶入巾  
 い如茶入帛段  
 茶酌あるく巾  
 巾茶入を返  
 ありて帛掛く  
 してはも



して茶碗巾——右ハよくしおけ右并此後め  
 ありてはあり後と上へ返ニは割白くおつら

ともあはし——唐くるの中へ茶碗とておけ候はぬ相  
 してはありて蓋はあはぬめ茶  
 帛を巾——茶の蓋及帛ハ後ハ

してはありて茶酌は  
 湯二杯投入茶の  
 蓋をとり茶酌蓋を  
 湯次ニつ——く下  
 してはありて茶酌は



してはありて茶酌は  
 湯次ニつ——く下  
 してはありて茶酌は























のり糖をいふは是三口各次生く候らまは是  
のちあることなるを思ふにやはくは候ふなりと云  
ふ所天目直を候はまは一物帛と云はかり下  
居く是を思ふは是の候はまは一物を思ふなり  
固年より多り力多矣天目と上を思は候はまは  
下より思ふは上を思ふ候はまは是天目ハ上を思ふ  
を思ふは下を思ふ候はまは一帛と向ふは是  
を思ふは上を思ふ候はまは是天目の思ふ  
亦子と川と礼と云ふなり

許し大車

- 一好車子大盆 小盆 唐物 くさ 文
- 一好車子 志 手桶 水滴 茶入 首茶碗
- 一好車子 釣籠 江戸子 車 くさ 文
- 一好車子 車 くさ 後 江戸 茶入
- 一好車子 論 江戸子 くさ 長 絹 雁言 くさ
- 一好車子 野 江戸 物 九 車 茶入 くさ 雁言 くさ
- 一好車子 江戸 物 飯 釣 茶入 中 雁言 くさ
- 一好車子 野 江戸 物 有 唐 物 茶入 上 雁言 くさ
- 一好車子 大 盆 袋 天 目 茶 茶入 文 くさ
- 一好車子 夜 物 子 絹 盆 江戸 物 天 目 隠 茶 蓋 是
- 一好車子 下 物 茶 入 法 付 雁 言 各 惺 隠 茶 蓋 是



一好易子大盒大海長緒高是是日月三點在  
 一好易子大盒是日月三點二眼點  
 一好易子西漢茶入盒應言吞入大事  
 一好易子西漢茶入盒應言吞入大事  
 一野獲金魚  
 一好易子西漢茶入盒應言吞入大事

右... 極秘了

印可... 大事

一好易子... 大事  
 一好易子... 大事

一油船花... 大事  
 一雜花... 大事  
 一客記無... 心得... 大事  
 一鈔... 心得... 大事  
 一貴人... 大事  
 一茶入... 大事  
 一御... 大事  
 一... 大事  
 一貴人... 大事  
 一茶入... 大事  
 一... 大事  
 一... 大事



- 一 毒文第ニシテ事
- 一 毒入シ蓋内張シテ事
- 一 毒入依成象ニシテ事
- 一 三人持人数多ク成シテ事
- 一 三ツシメ各各ニシテ事
- 一 食保心茶ニシテ事
- 一 石階ニシテ事
- 一 言中ニシテ事
- 一 朝顔ニシテ事
- 一 番ニシテ事
- 一 初客ニシテ事

- 一 月々ニシテ事
- 一 一カニシテ事
- 一 七カニシテ事
- 一 毒味智ニシテ事

ハシ

一 許三ニシテ事  
 一 十利体云古織公少事  
 一 成ノ初ニシテ事  
 一 代ノ事  
 一 予師子ニシテ事  
 一 行跡ニシテ事











